伊予路

No. 159
[令和５年３月]

愛媛県公民館連合会

【題　字】

岸尾（きしお）　壽（ひさし）　氏

元愛媛県公民館連合会　会長

【表紙イラスト】

いよマーチング委員会

愛媛ひとまち百景

道後温泉本館

（提供：いよマーチング委員会）

596年に聖徳太子が訪れ、その素晴らしさに感動して碑文を一首作ったとされている日本最古の温泉「道後温泉」の本館です。1994年、公衆浴場として初めて国重要文化財に指定されました。かつて入口前を自動車が行き交っていましたが、現在は安全のため石畳の歩行者用広場に変わっています。

伊予路　一五九号〈目次〉

◎　表紙イラスト《「道後温泉本館」》

◇巻頭言「コロナ禍での公民館活動」……愛媛県公民館連合会　副会長　白石　修一　2

《公民館運営審議会委員からの提言》

◇「地域に根ざした公民館活動」……今治市宮窪公民館運営審議会　副会長　田中　嘉久　4

◇公民館活動「好きこそ物の上手なれ」……西宇和郡伊方町公民館運営審議会　委員　道元　平　5

《きてみなはいや　おらが公民館》

◇「来た人を笑顔で帰す公民館」……松前町東公民館　館長　小池　良治　6

◇「地区住民との取組み ～ 明るく住みよい地域づくり ～ 」……八幡浜市立喜須来地区公民館　主事　村越　基重　8

《つどう・まなぶ・むすぶ》

◇「地域とともにある朝顔コンクール」……松山市浮穴公民館　主事　鵜久森将之　10

◇「つどう、まなぶ、むすぶ」……大洲市大川公民館　係長　森本　浩司　12

《愛媛県公友会について》……11

《優良グループ紹介》

◇「公民館を彩る活動二選」……東温市中央公民館　主事　江﨑　寿紀　14

◇「いつまでも若々しく美しく…『内子町並エコー』」……内子町立内子東自治センター　上級専門員　稲葉　勉　16

《館長さん　こんにちは》

◇「西条市西条公民館　津嶋　和江　館長さんにご質問」……質問者　西条市西条公民館　主任主事　久門　博　18

◇「久万高原町公民館美川南分館　坪内　続　分館長さんにご質問」……質問者　久万高原町中央公民館　主事　山内　竜　19

《元気な主事さん》

◇「豊かな自然と人に囲まれて」……上島町弓削中央公民館　主事　角谷　有一　21

◇「主事としての『これから』― 地域とともに歩む」……西予市高山公民館　主事　平田　茂雄　23

《公民館版ＳＤＧｓ～公民館を発展させるための16の目標～》……24

《郡市公連だより》

◇「地域をつなぐ身近な学習拠点としての公民館」……四国中央市公民館連絡協議会　事務局（生涯学習課内）　眞鍋　宏規　25

◇「沖の島美化活動事業について」……宇和島市立日振島公民館　主事　畠山ひとみ　26

《第三十四回全国公民館セミナー　レポート》……松山市味酒公民館　主事　重友　佑介　27

《令和四年度愛媛県公民館研究大会》……30

《県公連だより》……64

《編集後記》……69

巻頭言

コロナ禍での公民館活動

愛媛県公民館連合会　副会長
白石修一

一　はじめに

この度、「伊予路」一五九号の執筆依頼をいただき、受けてしまったものの、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い公民館事業が中止や延期など大きな影響を受ける中、何を書けばよいか思い悩む日が続いておりました。

私は、若い頃に地区館の公民館主事を二年勤め、令和二年度から西条市中央公民館長に就任と同時に市公連会長に就任して三年目で、合わせて公民館経験五年目となりました。また、昨年からは愛媛県公民館連合会副会長を拝命しております。

二　西条市公民館の概況

当市では、旧小学校区単位の二十八地区公民館と中央公民館の計二十九館が設置されています。地区公民館は人口二十人以下の山間部の公民館から一万三千人を超える市内中心部の公民館まで、様々な規模の公民館があり、地域の特色を生かした公民館活動を行っており、近年「市民協働のまちづくり」を目指して地域自治組織の設立に取り組んでおります。

中央公民館は、市公民館連絡協議会の事務局を務めることとなっており、公民館相互の連携を図り、公民館職員を対象とした各種研修会の開催などを行っております。

三　地域づくりの拠点としての公民館

平成三十年二月に当市では、少子高齢化・人口減少時代の中でも持続可能な暮らしを実現する地域コミュニティを構築し、地域自治を実現する市民と行政が対等なパートナーとして連携し、協力しながらまちづくりを行い、地域課題の解決と地域福祉の向上に取り組むため、「西条市協働のまちづくり推進本部」が設置されました。

現在、地区公民館では、住民が中心となって、地域の特性に応じて主体的に取り組み、自ら課題解決する「地域自治の実現」を目指した「地域自治組織」作りに取り組んでいます。

令和元年六月には、橘地区において西条市で初めてとなる「地域自治の実現及び協働によるまちづくりパートナーシップ協定」が、市と「橘未来づくり協議会」との間で結ばれました。また、令和二年三月には、「大町地域づくり協議会」、令和四年六月には「明日の田滝を考える会」と市との間でパートナーシップ協定がそれぞれ結ばれました。

ふるさと再発見講座「人」

四　コロナ禍での公民館活動

（一）公民館フリーWi-Fi導入

コロナ禍で臨時休館や人数制限など思うような公民館活動ができない中、当市では、令和三年九月に、「新型コロナウイルス感染症対策」及び「地域自治組織活動」を支援することを目的として、公民館Wi-Fiを一部山間部を除く二十八公民館に導入しました。新型コロナウイルス感染症が世界的に広がる中、公民館に情報通信技術を取り入れることで、

これらの活動を持続可能なものにし、コロナ禍の中で新しい生活様式（ニューノーマル）への本格移行に備えるものです。

市公連でも、公民館Wi-Fiの利用促進を図るため、令和三年度には、Ｚｏｏｍを利用し、公民館職員を対象としたＷＥＢ会議開催についての研修を実施し、今年度は市が推奨しているシスコのＷＥＢ会議システムを利用して隔月で開催される館長会・主事会をＷＥＢ会議で実施するなど、地区公民館で利用促進できる体制を構築しております。

（二）新たな取組み

コロナ禍の中、平成十七年以来続けてきた「市公民館フェスティバル」も廃止され、市民大学もふるさと再発見講座のみの実施となるなど、中央公民館でも大人数のイベントや講座が中止されてきました。

しかし、今年度の「山」「川」「街」「海」「人」をテーマとした五回シリーズの「ふるさと再発見講座」では、講演を「ＹｏｕＴｕｂｅ」で配信するなど、新たな取り組みを実施しました。

公民館版 SDGs 普及啓発支援事業

また、県公連の「公民館版ＳＤＧｓ普及啓発支援事業」を利用し実施した今年度の職員研修では、県公連専門委員会委員長の若松進一先生を講師に迎え、「これからの公民館活動」と題して中央公民館で実施しましたが、出席できない公民館職員のため、公民館Wi-FiとＷＥＢ会議システムを利用した同時配信を行う、ハイブリット開催にも挑戦しました。

五　おわりに

県公連では今年度「超高齢化」「人口減少」「情報化」「自然災害多発」といった「社会の大転換期」ともいうべき局面を迎え、今後の基本方針を「公民館版ＳＤＧｓ」と定め、県内すべての公民館に普及・浸透させるべき施策としております。

新型コロナウイルス感染症が蔓延して早くも三年、公民館活動はコロナ禍の中で、コロナと向き合いながら新しい生活様式（ニューノーマル）への本格移行に備える必要があります。

基本方針の「公民館版ＳＤＧｓ」十二番の目標でもある「情報」の集約と発信により地域に活力をもたらす公民館を目指すため、以前は利用することのあまりなかったWi-FiとＷＥＢ会議システムなどの活用で、新たな市民層の参加や事業展開の可能性も出てまいります。講演会などの開催も、公民館での対面とＷＥＢ会議システム利用によるリモートとを併用したハイブリット開催や、講演会開催後に「ＹｏｕＴｕｂｅ」による配信のほか、ＳＮＳによる情報発信など、今後も積極的に取り組む必要があると考えております。

私たちの公民館は、これまで地域の生涯学習の拠点として運営されてきましたが、社会の大転換期を迎え今後はそれぞれの公民館が「公民館版ＳＤＧｓ」の達成を目指し、持続可能な公民館活動、ひいては持続可能な地域社会を作っていきましょう。

公民館運営審議会委員からの提言

地域に根ざした公民館活動

今治市宮窪公民館運営審議会　副会長
田中嘉久

宮窪町って

宮窪町は、今治市の沖合に浮かぶ大島東部に位置し、来島海峡大橋で結ばれています。地域の人口は約二三〇〇人で過疎化・少子化が進む町です。主な地場産業は、柑橘類栽培・大島石の採掘・漁業等です。

能島村上海賊発祥の地

国指定史跡の能島村上海賊の城跡が沖合に浮かび、海賊関係の遺跡が町内に散在し、能島村上海賊発祥の地として、能島村上海賊の歴史・文化が流れる町です。

宮窪公民館

昭和二十四年、社会教育法の公布により、旧町の公会堂に「公民館」を併設しました。昭和五十一年三月、現在の支所隣接の地に、体育室を併設した三階建ての「宮窪町中央公民館」が建設されました。合併後は宮窪公民館として、地域の各地区八集会所と相まって、社会教育推進の拠点としての機能を果たしています。

公民館活動

公民館活動には、「集う」「学ぶ」「結ぶ」の役割があり、これを根底にした活動を展開しています。公民館を利用し活動の場としている団体が、十七団体で、分野は、健康・ボランティア・趣味創作・文芸・音楽・スポーツ等多岐にわたっています。

学校との連携

子どもたちに、郷土愛と豊かな人権意識の育成を目標に、今治市立宮窪小学校六年生対象の「まちなか探検教室」を開設しています。

年間十回の活動で内容は、能島村上海賊の歴史・小早船櫓漕ぎに挑戦・宮窪町の産業（石割り体験）・島四国巡拝・日本遺産探検・しめ縄作り・郷土料理（七草粥）に挑戦等です。

能島村上海賊の歴史では、村上海賊ミュージアム館長の指導で、能島村上海賊の掟を学習しました。掟は、身分の上下に関係なく、一人ひとりの命を大切にする掟だったことを学び、幸せな学校生活を過ごすために「一つ、みんな平等にすべし。二つ、後輩を大切にすべし」等五つの「宮っ子の掟」を考え、校内に掲示しました。

櫓漕ぎ挑戦では、愛媛県漁協宮窪支所の協力で、海賊が使用したと伝えられる和船「小早船」に乗り、組合関係者の指導のもと、悪戦苦闘しながらの櫓漕ぎ挑戦でした。

宮窪の産業では、事業者の協力により、大島石の採掘場を見学の後、石割り体験。硬い大島石が、真っ二つに簡単に割れる様子に、「凄い！」と驚きの声が一斉に挙がり、貴重な体験となりました。

高齢者の生きがいづくり教室

触れ合いと心の豊かさを目指す「高齢者教室」は、年間七回、一回二時間の学習に六十五歳からの高齢者が参加しています。内容は、健康講座・楽しく学ぶレクリエーション・歴史探訪・人権講座・交通安全学習・高齢者福祉等です。参加者は毎回三十名程度ですが、その内女性がほぼ九割を占め、男性が少ないことが課題と考えています。

公民館運営審議会委員

館長の諮問に応じ、各種事業の企画運営に

つき、調査審議をするのが役割です。審議会委員は、事務局の提案を、ただ承認するだけでいいのでしょうか。委員の皆さんが、各自意見を出し合い、慢性化した活動にならないよう、より良い活動に高めなければなりません。更に、時代とともに変化し、多様化する価値観・人間関係・少子高齢化・過疎化等が、急速に進む社会情勢を踏まえ、学校・社会教育団体・関係諸団体等と緊密に連携して、コロナ禍に対応しつつ地域に根ざした公民館活動ができればと願っています。

今後、さらなる活動の活性化を図るには、若い世代の方々が、公民館活動に興味関心を持ち、活動の場への積極的な参加のありようが、今後の課題ではないかと思うこの頃です。この課題解決には公民館版ＳＤＧｓの活用が必要だと考えています。

公民館活動［好きこそ物の上手なれ］

西宇和郡伊方町公民館運営審議会　委員
道元　平

私たちの住む伊方町は『日本一細長い半島』です。伊予灘、宇和海、豊予海峡に挟まれ、東西約三十七キロメートル、南北最大幅約六・二キロメートル、最小幅〇・八キロメートル、国道（メロディーライン）を走ると両方の海が見渡せます。

亀ヶ池温泉は、平成十九年八月にオープンし、五年五ヶ月で来場者一〇〇万人を達成しました。令和三年、落雷火災がありましたが町や町民の努力で令和四年四月には仮オープン出来ました。

ノーベル賞受賞の中村修二博士（旧瀬戸町）、日本人初の北極点単独徒行を成し遂げた河野兵市氏（旧瀬戸町）も伊方町出身です。

平成十七年四月に旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町が合併して新伊方町が発足しました。現在、四つの公民館と五十二の地区に自治公民館があります。私は、平成二十六年から公民会運営審議委員に携わらせて頂き、少子高齢化が進む中、住民が楽しく暮らせる活動を模索しています。

私が住む地区（集落）には三十六戸六十二名が暮らしています。高齢者が多くなり高校生までの子どもは六名しかいません。

その中で公民館主事として色々な教室（絵手紙、ペン習字、雛飾りｅｔｃ.）をやってきました。現在、［書道教室、お針子クラブ］は十年以上続く活動になっています。毎週一回集会所（公民館）に集まり、健康状態や困り事など楽しくおしゃべりしながら作品作りをして、『公民館まつり』や民間施設等で展示をしています。実はこの［作品展示］が非常に良い効果を生み、皆さん真剣に、熱心に集まっています。まさに『好きこそ物の上手なれ』！勿論、集会所の掃除や季節毎に花壇の花植え（いきいきクラブ）もしています。

今年の伊方町をテーマにしたカレンダーは、町内散歩『いかさんぽ―伊方の散歩』でした。元気で長生きしていくために地区の中を六〇〇〇歩を目安に歩きましょう！安全点検ができ防災にも自身の健康にも役立ちます。何か新しい取り組みを考えている皆さん、公民館活動に取り入れませんか！

きてみなはいや　おらが公民館

来た人を笑顔で帰す公民館

松前町東公民館　館長　小池良治

一　松前町の概要、北伊予地区と東公民館

松前町は、石鎚山系に端を発した一級河川重信川を境にして県都松山市に隣接し、道後平野の西南部にあります。西は伊予灘に面し、東は石鎚山をはじめとする四国山脈が望め、豊かな自然と土地に恵まれたところです。面積は、二十・一四㎢と小さいながらも、山のない平地だけの町です。昭和三十年三月に旧松前町、北伊予村、岡田村の一町二村が合併して新生「松前町」が誕生した後、平成の大合併時に他の市町村と合併することなく現在に至っています。現在では、三万人の町となり、豊富な水と肥沃な土地を生かした農業をはじめ、工業、商業のバランスのとれた町として順調に発展してきました。中でもはだか麦の栽培が盛んで、初夏には黄金色に輝く麦畑に「麦秋」という言葉を再認識させられます。また、小魚珍味加工生産は全国一です。

松前町東公民館

松前町には、松前校区、岡田校区、北伊予校区の三つの校区があり、それぞれの校区に一つずつ地区公民館があります。我が東公民館は、北伊予校区にあります。

二　運営方針と努力目標

運営方針である「北伊予校区の住民が楽しく、そして気軽に集える公民館を目指し、生涯学習と住民相互の交流を通して、豊かで明るく潤いのある地域づくりに努める。」に基づき、努力目標に次の三つを掲げ運営しています。

①北伊予校区住民の事業への参画・促進
②分館・社会教育関係団体との連携強化
③気軽に集える公民館の環境づくり

三　事業内容

東公民館が主催する主な事業は、以下の通りです。

（一）きたいよシニア大学

高齢者を対象に年八回、毎月第二火曜日に「きたいよシニア大学」を開催しています。

「高齢者が、心身ともに健康で生きがいと喜びに満ちた生活を送るため、学習活動を通して参加者相互のふれあいを図るとともに、地域社会での役割を考える。」を目的に、健康体操、唱歌、スマホ教室、人権学習、交通安全、税に関する学習、バスに乗って館外研修、町内三地区公民館合同で演劇の鑑賞など多彩な講座を展開しています。

高齢者の皆さんが一堂に会することができコミュニケーションをとることや体を動かすことで、文化教養を高めるためだけでなく健康寿命の延伸を図っています。

（二）親子お絵かき教室

未就学児童とその保護者を対象に土曜日もしくは、日曜日に一時間、全八回の「親子お絵かき教室」を開催しています。

夏は団扇に、秋には提灯に絵をかき、十月にはハロウィンを飾り、十二月にクリスマスツリーを作ったり、正月にミニ屏風に絵を描

いたりと、季節感あふれる内容となっています。子どもたちは、自由に創作活動に楽しんで、保護者も一緒になって個性あふれる素晴らしい作品が出来上がります。

（三）放課後子ども教室

放課後の孤立しがちな子どもたちの居場所づくりを目的に、小学校の一、二年生を対象に金曜日の放課後、年十回、「放課後子ども教室」を実施しています。

地域の指導者による手品、俳句、グランドゴルフ、五目並べ、シャボン玉遊びや、消防職員とともに避難訓練、英語指導講師による英会話、四国ガスの職員によるマイナス一九六℃の世界の体験などを実施し、その他にも人権の学習や、松前町が国体の会場になったホッケーの体験を実施しました。地域の方々や指導者との交流を通して楽しみながら知識や経験を深めています。

放課後子ども教室グランドゴルフ

（四）クリスマスケーキ作り

小学生を対象に、一、二、三年の低学年は保護者と、四、五、六年生はお友達どうしでクリスマスケーキのデコレーションを行います。新型コロナウイルス蔓延以前は、スポンジケーキ作りから行い、デコレーションをして、出来上がったケーキで茶話会をして、歓談して帰っていました。昨年度からは、感染予防のため滞在時間を短くするとともに飲食を控えることとし、出来上がったケーキは、持ち帰るようにしています。一回の教室が短くなったため、二部制にして一日に二回転教室を実施できるようにして、参加者を二倍にすることができました。

（五）スノーボード一日体験教室

「スノーボード一日体験教室」では、小学四年生から六年生までを対象に実施し、ウインタースポーツの花形、スノーボードを体験することができます。近年は、コロナウイルス蔓延のため実施を見送っていましたが、今年度は実施できそうな見込みです。

（六）その他

例年は、全年齢対象に「ハロウィンパーティー」を開催していましたが、昨年度、本年度は三密回避のために中止し、北伊予中学校の生徒にボランティアでハロウィンの飾りつけをしてもらって、ハロウィンの雰囲気を来館者に味わっていただくことができました。また、公民館内には、「東公ライブラリー」という愛称の小さな図書館があり、大人向けと子ども向けに話題の図書を毎年買いそろえています。利用者にはとても好評です。

四　課題と今後の展開

青少年対象には「地域ぐるみで青少年の健全育成と健全な家庭づくりの推進を図る。」ことを目的として事業を実施し、高齢者向けに高齢者大学を実施しているところですが、事業の対象者が主に小学生以下の年齢層と高齢者に限られ、それ以外の世代に事業を実施できていないのが課題です。

今後、若い世代をもっと巻き込める事業展開を考えてはいるものの、実際、どんな事業を行えばいいのかアイデアが浮かばず暗中模索の状態です。他の公民館の取組みや住民の方々の意見を参考に、事業を計画し実施していきたいと思います。

また、最近、広がりつつあるヴァーチャルリアリティな世界やＥスポーツなど最新の話題を講座に取り入れることも検討したいです。

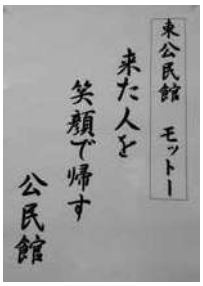
五　まとめ

令和元年度末からのコロナ感染拡大の影響を受けて、休館や事業の休止・縮小をせざるをえない状況になり、思うような公民館運営ができませんでしたが、今年度になり、やや改善してきました。これからは、以前にも増して積極的な公民館運営を行い、事業の拡大・充実をさせていきたいと思います。

東公民館の壁には、東公民館のモットーが掲げられています。

「来た人を笑顔で帰す公民館」

この言葉を常に心に留めて、来られた住民の方々が、「楽しかったね。」「ためになったね。」「公民館に来て良かった。」「また来たいね。」と笑顔で帰っていただける公民館運営を目指します。



モットー

地区住民との取組み ～明るく住みよい地域づくり～

八幡浜市立喜須来地区公民館　主事　村越基重

保内町（ほないちょう）

かつて南予地方の地方公共団体だった保内町は、平成十七年三月、八幡浜市との一市一町の合併により、西宇和郡保内町から八幡浜市保内町へと、新しい八幡浜市の一部になりました。佐田岬半島の付け根に位置し、東は八幡浜市街地、北東は大洲市、西は西宇和郡伊方町に接し、磯津地区・宮内地区・川之石地区・喜須来地区と四地区に大別されます。

喜須来（きすき）地区

突然ですが皆さん、保内の三英傑を御存じでしょうか。[二宮敬作]［富澤赤黄男］そして喜須来地区が出身地である第三十九代横綱［前田山英五郎］の三人です。前田山英五郎生誕の地ということで、喜須来小学校正門前には銅像、そして小学校裏の天王山にはお墓が建てられています。コロナ禍以前は、小学校で前田山記念すもう大会が開催され、多くの歓声の中、児童が熱戦を繰り広げていました。また平成二十六年は、前田山生誕百年・朝潮生誕百五十年という節目に当たり、八幡浜市の記念行事として開催されています。

喜須来地区は喜木・須川と大きく二つに分けられ、令和四年十月末現在、世帯数は千二百四十一世帯、人口二千七百四人の地域です。更に地区内は、神越・城高・喜木町・磯岡・須川里・日之地・奥と七つの自治公民館から成り立っています。

元来、喜須来地区の主要産業は、伝統的に柑橘類の栽培であり、温州ミカンと伊予柑などの晩柑類が中心です。農家の若い後継者の皆さんが中心となり、より付加価値の高い、甘くて美味しい、商品作りに努められています。農家の皆さんのように代々この地域でお住まいの方々と、新しく住民となられた皆さんとの程よい融合と繋がりが、喜須来地区の良いところではないかと実感しています。

私たち、喜須来地区公民館役職員は、少しでもお手伝いができればと、明るく住みよい地域づくりを目指して活動をしています。

補助学級・委託学級の活動から

本年度は昨年同様、補助学級には成人学級、委託学級には家庭教育学級を計画し、喜須来地区の特色を生かし、学級生の全員参加を目標に学習を実施しています。

また、他にも婦人学級、高齢者学級があり、二年ごとに変えて補助・委託学級を展開しています。学級では様々な活動を行っていますが、今回は成人学級での活動を紹介します。

（一）花いっぱいガーデニング

環境整備、美化活動の一環として平成二十年から国道三叉路、神越御幸橋付近の花壇に花植えを行っています。

地域の一員として美化活動に取り組もうと六月十九日、婦人会・老人会の皆さんが中心となりサルビア・ポーチュラカ・ガザニアの花苗を植えました。そして、喜須来小学校五年生に作成してもらった花壇の飾り（デザインプレート）を設置したところ、一層華やかさが加わり、豪華な花壇となりました。

きっと道行く人や、ドライバーの皆さんの心を和ませてくれることでしょう。地域への思いが膨らみ、明るい元気な喜須来地区となるように活動を継続しています。

花いっぱいガーデニング「プレートを添えて」

（二）人権問題学習講座

喜須来地区公民館では、同和問題をはじめとする様々な人権問題について学習し、人権に対する理解や認識を深めるとともに人権感覚を養い、差別のない明るく住みよい地域をつくるため活動を行っています。

成人学級でも、七月十四日、社会教育指導員の講話による学習を行いました。次のような、愛媛県や八幡浜市での人権教育の取り組みについて学びました。

「コロナ差別に歯止めを！」愛媛県で始まったシトラスリボン運動は、「地域・家庭・職場（学校）」を三つの輪で結び、思いやりの

輪を広げようとする取り組みです。

このシトラスリボン運動よりさかのぼること五十年、すでに愛媛県から人権問題を全国に向けて発信していました。平成二十九年四月に保内中学校と統合して、現在は閉校となった青石中学校では、昭和四十七年から二年間、文部省の同和教育指定校として取り組みを行っていました。当時は、保護者からの反発も強かったが、教師の皆さんのたゆまぬ努力と実践により、一人ひとりの心を変えていったというお話でした。［砂漠に咲いた一輪の花を枯らすな・青石中学校の実践］

成人学級では、この他にも年末の恒例行事となった「しめ縄作り教室」や「ガーデニング教室」、「一日研修」など、参加者が和気あいあいと楽しく学習できる事業や、内容に工夫を凝らした取組みを行っています。

喜須来地区住民との取り組みから

喜須来地区公民館では、各種団体と協力しながら、地区住民と一体となったイベントを実施しています。

（一）喜須来盆踊り大会

盆踊り大会を通して、郷土の伝統の良さを認識し、亡き人の霊を慰め祖先を敬うと共に、郷土を愛する住民をつくる。そして子どもから老人までの幅広い参加により、伝統文化の伝承と住みよい地域づくりを目指しています。

盆踊りは、保内音頭・どすこい音頭・くどきといった地域の特色ある曲目で構成されています。

くどき・太鼓・踊りの指導者の皆さんは事前に公民館で練習を繰り返し、本番前の全体練習を重ねて大会本番に臨まれています。また、地域の各団体の皆さんには、大会運営委員としてお手伝いしていただいています。そして、踊りに参加する皆さんは、仮装を凝らして大会を盛り上げてくれます。更には、見物に来ていた中学生の飛び入り参加も見られます。まさに、地域住民総出演、夏の風物詩のひとコマです。

喜須来盆踊り大会「一つの輪になって」

（二）敬老会

喜須来地区の敬老会は、七十五歳以上の皆さんをお招きして、式典の部・演芸の部と二部構成で開催されます。式では、市長さんをはじめ多くの来賓の皆さんにお越しいただき、一緒にお祝いをしていただきます。

演芸の部は、小学生の元気な踊りや歌で始まり、保内吟詠会の皆さんによる詩吟、そして舞踊や婦人会のユーモラスな踊りなど、まず見て楽しんでもらいます。その後、いよいよ皆さんお待ちかねのカラオケタイムとなり、アッという間に時間が過ぎていきます。

介護施設から参加された方、久しぶりに再会をした方など、いつまでもお話が絶えない様子で、皆さん笑顔いっぱいの一時でした。

（三）ふるさと探訪

喜須来地区の歴史を考え、ふるさとの良さを見直すきっかけになればと、八幡浜史談会の方を講師にお招きして実施しています。

石碑が残され今も語り継がれる郷土の偉人たち、西宇和地方の銅山の歴史、神社仏閣・城址等々、先生方に見学会を通して一つひとつ丁寧に説明していただきました。また、江戸・明治時代の貴重な資料や鉄砲など拝見することもできました。

活動を通して地域の歴史を次の世代に伝え、それを自然に受け入れてくれる人づくり、環境づくりを目指しています。

今回紹介した事業以外にも様々な活動を行っています。伝統を守り、そして新しいことも取り入れながら活動を続けて参ります。

おわりに

令和二・三年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からやむなく規模を縮小、中止をした事業が多々あり、その度に、もどかしさを感じておりました。

公民館で行う事業は地区役員・各種団体・地域住民、全ての皆さんの御協力が無ければ到底成しえません。皆さんとお互いに意見を交わし連携しながら、地域の特色を生かした、そして地域に根ざした活動をすることで支持される公民館を目指したいと思います。

子どもから高齢者まで、笑顔で触れ合える明るい喜須来地区となるよう、地域の皆さんと一緒に歩んでいきたいと思います。

つどう まなぶ むすぶ

地域とともにある朝顔コンクール

松山市浮穴公民館　主事　鵜久森　将　之

一　歴史ある浮穴地区朝顔コンクール

「還暦おめでとう！」そんなお祝いの言葉を地域役員からいただいた。はて、私はまだ三十一歳なのだが、と疑問に思いつつお礼を返すと、「もしかして主事さんやと思とる？朝顔コンクールのことよ。」と盛大に笑われてしまった。そうなのだ、浮穴地区で毎年行っている朝顔コンクールは今年度、めでたく還暦の第六十回を迎えた。

朝顔コンクールとは、朝顔の出来栄えを競い合うコンクールである。花の色や大きさ、花の数、ツルの伸ばし方など各々が工夫を凝らし、丹精込めて育てた朝顔を持ち寄り、来場者が各賞一票を投じることによって入賞者が決定され、表彰を行っている。

朝顔コンクールは戦後、青年団が母体となった花いっぱい運動から始まったと言われている。昭和三十七年の第一回から始まり、今年度まで継続して行っているうちに、地区の花が朝顔になり、地区のスローガンは「水と緑・花いっぱいの浮穴づくり」となった。それほどに朝顔コンクールは浮穴地区に根付き、愛されている伝統行事なのである。

二　還暦まで成長を続けられた理由

なぜ、朝顔コンクールがこれほど地域に愛され、継続できているのか。地域役員に聞いた秘密をご紹介しましょう。

（一）誰でも一粒の種からスタート

朝顔コンクールに出展する朝顔は、年度当初に公民館から各世帯に配布している朝顔の種子を用いて育てたものである。そのため、種の良し悪しなどは関係なく、全ては育てる人の腕次第であるため、誰もが公平な条件である。

また、朝顔を育てるというシンプルな取

朝顔コンクール受賞鉢

り組みで、老若男女問わず誰でも参加できるという点が、親しみ深さに繋がっている。

（二）朝顔コンクールを通して朝顔に愛着がわく

五月中旬から種をまき、朝顔コンクールが開催される八月まで長期にわたり愛情を注いで朝顔を育てるため、自然と朝顔に愛着がわく。その大切な朝顔を出展する朝顔コンクールは、言わば自慢の朝顔の晴れ舞台である。

また、ただ咲かせるだけではなく、花やツルの見栄えなど工夫の仕方が無限大にあるので、その自由度の高さも魅力のひとつだ。

（三）朝顔コンクールを通して共通の話題が生まれる

朝顔コンクールが近づくと、地域では「今年の朝顔の咲き具合はどんな?」「こうしたら上手に咲くけんやっとうみ。」など朝顔についての話題がちらほら聞こえてくる。朝顔を通じて世代関係なく共通の話題が生まれ、地域住民の仲が深まっている。

地域住民間の交流が希薄化しがちな現代において、朝顔コンクールは重要な役割を果たしている。

三　おわりに

朝顔コンクールが続く三つの理由を紹介したが、それらに加えて私は「地域の愛情によって支えられている」からだと考えている。それは、こんなエピソードからもうかがえる。

昨年度、役員からこんな声が上がった。「早朝から来てくれている参加者たちに何かしてあげられないだろうか。」そこで、朝ごはん代わりにおにぎりを作って配布した。また、毎年同じであった参加賞も今年度は変更を行い、還暦の記念品も配布した。事前準備、当日運営に関しても、各々が積極的に行動し、地域住民が率先して事業に取り組んでいる。

地域住民主導で、本気で朝顔コンクールを愛し、常に意見を出し合い、変化を続けながら事業を行っているからこそ、朝顔コンクールは還暦を迎えることができたのだと思う。まさに、朝顔の花言葉「愛情」によって支えられてきたのだ。六十回も地域で守り繋いできたこの歴史ある朝顔コンクールを、これからも百回、二百回とバトンを絶やさず繋げていきたい。

朝顔コンクール受賞者

愛媛県公友会について

愛媛県公友会（若松進一会長）は、県公連、郡市・地区公連の役職員であった方、市町教育委員会等で公民館担当者であった方、学識経験者や会の趣旨に賛同する方などが会員となり、本県の生涯学習・社会教育の進展や地域づくりに寄与することを願って、昭和六十二年に発足しました。

公友会では、「あつまる・まなぶ・つなぐ」を基本理念に公民館を愛する方々が「新会員」として集われることを心から願っております。

常に学び、情報交換を図るとともに、県公連・郡市（地区）公連・行政等とも連携・協力しながら、本県の公民館活動の活性化と生涯学習の推進に、引き続き貢献してみませんか。

■新規ご加入の問い合わせ・申し込み先

〒七九一―一一三六
松山市上野町甲六五〇
県生涯学習センター
県公民館連合会事務局内
愛媛県公友会事務局
☎〇八九―九六三―三五八三
（ファクシミリ　同番号）

つどう、まなぶ、むすぶ

大洲市大川公民館　係長　森本浩司

大川公民館に勤務して今年で三年目となりましたが、実は私、伊予路の執筆は今回で二回目なのです。

一回目は三善公民館に勤務していた時に、№一五四（平成三十年三月）、「元気な主事さん」のコーナーでした。

今回は「つどう、まなぶ、むすぶ」のコーナーでの執筆となりましたが、この言葉は、公民館職員の新人研修で、「公民館の役割である」と学び、これまでの公民館活動においても、「公民館って本当に『つどう、まなぶ、むすぶ』だな」と感じています。

【災害から命を守るために「つどう、まなぶ、むすぶ」】

三善公民館で勤務している時に、「災害・避難カード」の作成に取り組みました。

「災害・避難カード」とは、災害発生時に、どのタイミングで、どこへ避難するか等、災害から命を守る手順が分かるようにするカードですが、形は決まっておらず、各地区が分かりやすいように作成するものです。

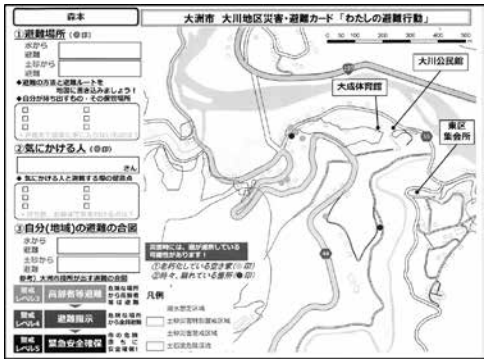
平成三十年七月豪雨では、西日本の広範囲で大規模な河川の氾濫が発生し、大洲市も甚大な被害を受けました。

この時、私は人事異動により三善地区を離れておりましたが、三善地区の住民の方々は「災害・避難カード」を活用し、多くの方々が適切な避難を行ったことにより、現在、ＡＣジャパンのテレビＣＭになるなど全国的にも有名になりました。

令和二年、私は再び人事異動により公民館勤務となり、大川地区でも、三善地区と同様に「災害・避難カード」の作成に取り組みました。

大川地区の「災害・避難カード」にも、土砂災害警戒区域などを表示したハザードマップの他、インターネットから災害情報を取得する方法などを掲載しました。

大川地区の「災害・避難カード」



裏面には、災害情報の取得方法などを掲載しています。

「災害・避難カード」が完成しても、住民の方がカードの活用方法を理解していないようでは意味がありませんので、区長さんにお願いして、行政区毎に集まっていただき、カードの活用方法を学ぶ説明会を、私が講師となって開催しました。

説明会では、活用方法の他に、大川地区は過疎化が進んでいる地区であることから、老朽化した空き家や、普段から崩落している道路の法面の箇所が分かるように、カードのマップにシールを貼りました。こういう箇所は、地震や土砂災害が発生した場合に道路が寸断され、避難ルートとして使用できなくなる可能性があるため、シールを貼った後には、どの道を通って避難すれば良いかを話し合っていただきました。

また、各行政区内において、避難時に支援

行政区毎に集まり、災害について学び、
要支援者と支援者とを結ぶことができました。

が必要な方を誰が支援するのかも話し合っていただき、要支援者と支援者とを**結ぶ**ことができました。

三善地区で「災害・避難カード」を作成した時にも、行政区毎に**集まり**、カードの活用方法を**学ぶ**説明会を開催し、そこで要支援者と支援者とを結ぶことを行っておりましたので、**「つどう、まなぶ、むすぶ」は、災害から命を守るまちづくりに有効であると実感しています。**

【ひとりはみんなのために　みんなはひとりのために】

災害とは話を変えまして、大洲市では少し変わった駅伝大会が開催されています。

それは、大洲市内中心部を流れる一級河川「肱川」をコースに、上流から下流へカヌー艇をつないでいく「大洲市カヌーツーリング駅伝大会」です。

大川地区からは毎年有志が**集まり**、大川公民館が取りまとめを行い出場しています。

さて、今回のカヌーツーリング駅伝大会は、肱川の治水対策工事などにより、往復コースでの開催となったため、中には上流に向けて流れに逆らってパドルを漕ぐ大変な区間がありました。

優勝を狙っている大川チームのエースは、上流に向かって漕ぐ区間で二位に付けていましたが、アクシデントがあり、一位との差が開いてしまいながらも、「リタイアするわけにはいかない」と、なんとかカヌー艇を次の漕者へ繋ぎました。

各選手は、エースの頑張りに目の色が変わり、一位との差を詰め、さらに追い越し、見事優勝しました。

駅伝大会ではよくある話と思われるかもしれませんが、この大会を通して参加された皆さんは、「一人が皆のために頑張れば、仲間は一人のアクシデントをカバーするように頑張り、一つになれる」地域の団結力（地域力）を**学ぶ**場となり、人と人を**結ぶ**ことにも繋がったと確信しています。

大洲市カヌーツーリング駅伝大会
スタート前に、大洲城へ向かって
「がんばろう大川」

【おわりに】

私は、これまでの公民館活動を通して、住民同士に「つどう、まなぶ、むすぶ」ことを促すことは、人づくり、地域づくりに繋がっていくと思っています。

人が**集い**、何かを一緒に行うことで、必然的に人と人を**結ぶ**ことに繋がると思いますが、課題は、「つどう」ために「何をするか」だと思っています。

地域住民が興味を持ちそうなことや、望んでいることなどにアンテナを張り巡らせて情報収集に努め、行動に移す。そのためには、企画力を養う必要があると思っています。

企画力を養うには、人が集まる場所へ参加し、いろいろな方と出会い、その人たちが何を思っているのか学ぶ。企画力を養うにも、やっぱり「つどう、まなぶ、むすぶ」になるのかな。

優良グループ紹介

公民館を彩る活動二選

東温市中央公民館　主事　江崎寿紀

東温市には二つの公民館（中央公民館・川内公民館）があり、それぞれを拠点として多くのグループが活動をしています。また各地区の分館では、環境美化や異世代交流、人の輪づくり、歴史伝承、健康づくりなどの活動を市の補助金を活用し実施しています。

まずご紹介するのが、中央公民館・川内公民館で活動している重公書道教室になります。ここからは重公書道教室の露口睦さんに令和四年度の活動について伺ってみましょう。

「地域文化を支えて下さいね。」私が所属する書道教室出入りの文具屋さんが、新入会の人に、また筆を新調した人に掛けて下さる言葉です。自分の好きな事を自分のペースで楽しんでいる教室ですが、十九時開始なので仕事帰りの方も来られています。親子で通われている方もいらっしゃいます。かつては子どもさん三人連れで学ばれる方もおられました。

この度のコロナ禍では、文化協会加盟団体の活動拠点である川内公民館・中央公民館の一時閉館により活動の縮小あるいは休止を余儀なくされました。閉館が解除された後も、諸事情により練習場所がなかなか確保できない団体もあったと聞きます。私たちの活動の成果を発表する場である東温市文化祭も、令和二年度は中止となりました。手探りでの活動再開の中、「東温の文化の火を灯し続けたい。」という文化協会会長をはじめとする会員さんたちの強い思いにより、昨年度は川内・重信両会場での会員限定参加による文化祭の開催となりました。

今年度は、世界を覆っていたコロナの暗い雲から所々薄日が差し込みはじめた様です。前々から、「川内・重信合同の文化祭を！」との声はありました。色々な困難を乗り越える方法を模索していた所ですが、両地区共に高齢化等により会員数が減り、加盟団体の解散や脱会も重なって運営が難しくなってきたこともあり、今年度は合同での文化祭を計画しました。

園児・児童・生徒の作品が展示されるのは、三年振りです。会場では、兄弟らしき人の「○○ちゃん、字うまいなあ。」親戚らしき人の「○○くん、よう工夫しとるねー。」近所の人の「あっ、これ○○ちゃんのじゃない。大きいなったけん、こんなにしっかり描けるんじゃねー。」と、色々な声が聞こえてきて、誰かと一緒に観る楽しさ、語り合いながら観る楽しさが伝わってきます。他にも一般展示の絵や生け花を一緒に見る家族連れがおられました。

開催場所が一つになったので交通手段がな

いから展示を観に行けない等の心配には、市の協力も得て、シャトルバスの運行や駐車場の確保をしました。また、準備や片付けには、シルバー人材センターの助けをお借りしました。上手くいかなかった面も多数あったと思いますが、多くの方々の協力により中央公民館での合同文化祭が実現しました。

著名なバレエダンサーが、コロナ禍のインタビューで、「ダンサーはお客様に観て頂くのが一番の練習です。」と言われていました。観て、観られて、感じたことを伝え合って…これが地方文化の継承にも大事なことと文化祭の展示や音楽芸能発表会を観ながら感じました。

露口さん、ありがとうございました。様々な教室の活動も発表する場という目標がなければ継続していくのは難しいかもしれませんが、皆で協力し文化の火を灯し続けることが大切ですね。

次に中央公民館のロビー展示についてご紹介します。

中央公民館では自身が作成した作品の展示が出来るようショーケースを設置しています。これは希望者が自由に使えるものです。公民館を利用している各種団体からの利用がメインとなっていますが、中でも多くの公民館利用者の興味をひく展示を行っている方がいらっしゃいます。その方がこれから紹介する古用さんです。

展示していただいている作品はプラモデルです。自動車、船舶、飛行機などの様々な種類のプラモデルの展示をしていただいています。古用さんは小さい頃からプラモデルが大好きで、お婆さんやお母さんに小言を言われてもめげずに作り続けてきました。若かりし頃は、周りがパチンコやゴルフなどそれぞれに好きなことをする姿を見て、自分も自分の好きなことをしようと、小さい頃から好きだったプラモデル製作に没頭していきました。今では、自宅に所狭しと作品を並べており、その数は三五〇個にもおよびます。

今は外国製の船舶のプラモデルを製作しているところで、日本製と違い外国製のものは色々と手を加えないと作りにくいのだそうです。

ロビーでの展示は第六弾まできています。展示の入れ替えで古用さんのプラモデルの展示がないと、次はいつですかと聞かれることがあるほどの人気の展示となっています。それもあってか小さいお子さんからご高齢の方まで、皆さんショーケースの前に足を止められて見入っている姿をたびたび目にします。ロビーといえば、誰かと待ち合わせすることやただ通り過ぎるだけの場所になりがちですが、古用さんの力作のおかげで、作品を見ながら笑顔で話しあう親子連れや、さらにはたまたま同じ時間に居合わせた見ず知らずの人同士が興味を引かれた作品について語り合う、そういった空間にもなっています。

こういった風景を作り出す原動力なる作品を作り出す古用さんの力にはただただ敬服するばかりです。

東温市には他にも魅力的な活動をしている団体がたくさんあります。これからも文化の火を灯し続けるまち東温市として活動を継続していきます。

いつまでも若々しく美しく…「内子町並エコー」

内子町立内子東自治センター　上級専門員　稲葉　勉

一　内子町の概要

内子町は、県都松山市から南西へ四十二㎞の位置にある人口一五六〇〇人の町です。平成十七年に旧内子町、旧五十崎町、旧小田町の三町が合併し、現在の内子町となりました。面積は約三〇〇㎢で、町面積の七十七％を森林が占め標高四十五ｍから五〇〇ｍに集落が点在する典型的な中山間地の町です。気温は年平均十五度と温暖であり、年間の降水量は一六〇〇㎜程度と作物栽培に適した地域でもあります。柿をはじめ、ぶどう、桃、栗などの産地で、多品種の野菜を生産しています。

小田川と中山川の合流地点に位置する内子地区は、金毘羅街道と四国遍路道との分岐点で、江戸時代後期から明治期にかけてハゼの木から採取する木蝋生産の地として栄え、昭和五十七年には八日市・護国地区の町並みが「国の重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。また重要文化財の内子座、本芳我邸、上芳我邸、大村邸などが往時の面影を今に伝えています。

五十崎地区には、中山間の急斜面に小さな水田が広がる「泉谷の棚田」があり、平成十一年「日本の棚田百選」に選ばれています。また、伝統的な手漉き和紙の産地として知られ、その和紙で作った凧を使用する「いかざき大凧合戦」は、毎年五月五日に小田川河川敷で開催される伝統行事で、四〇〇年の歴史があり日本三大凧合戦の一つに数えられています。百畳の凧に仕掛けられたガガリで糸を切り合う空中での戦は特に勇壮で、県無形民俗文化財にも指定されています。

小田川の源流域に位置する小田地区は、森林面積が八十八％を占め県内でも有数の林業地域です。四国山系にある小田深山国有林の面積は四四㎢あり、町面積の六分の一を占めています。四国最大級のスキー場（ＳＯＬ―ＦＡ小田ゲレンデ）も小田地区にあります。

内子町ではこれまで、町並み保存や農村景観保全、小田深山の保全、住民主体のまちづくり活動など、さまざまな施策を展開してきました。その結果、多くの観光客が訪れるようになり、移住者も増えてきました。文化庁長官表彰をはじめ多くの賞を受賞し、長年のまちづくり活動の積み重ねが今、「内子町の魅力」として大きく開花しようとしています。

今回の優良グループ紹介は、内子町のコーラスグループ「内子町並エコー」です。

二　町並エコーについて

内子町のコーラスの始まりは、昭和二十七年まで遡ります。当時内子高等学校の音楽の教師が「内子合唱団」を作ってコーラスを始められました。丁度高校を卒業して社会人となった現最年長のメンバーの一人が合唱団に誘われ入団したのが始まりです。女性十二名男性七名の混声合唱団がスタート、メンバーは学校の音楽教師が多かったようです。

今日のようにどこにでもピアノがある時代ではなかったので、ピアノが置いてある内子小学校の講堂に集まり練習に励みました。

夜間の練習が日中に変わった時もありましたが、有給休暇を申請してもなかなか許可が出ないこともあって、仕方なくコーラスの練習を欠席したこともありました。

名称も「内子合唱団」から、「内子婦人会コーラスグループ」、「内子コーラス」と時代の流れとともに改名、昭和六十年「内子町並エコー」とし現在に至っています。

平成十三年には三十四名いたメンバーも現在は十七名と半減していますが、その分一人ひとりがお腹の底から精一杯声を出して歌っています。

三　活動について

毎年の定期的な発表の場として、春のコンサート（大洲市民会館）、五月の合同芸能発表会（内子座）、十一月の文化祭（内子自治センター）で歌声を披露していますが、活動を振り返ると平成二年ボニージャックスふれあいコンサートに出演しロシア民謡を合唱、平成十年県民総合文化合唱公演、平成十三年西瀬戸チャリティー音楽祭、八幡浜管内合唱まつり、平成十四年「二十四時間テレビ・愛は地球を救う」に出演、平成十六年内子自治センター落成記念祝賀会、えひめ町並博

二〇〇四白壁の町「内子座音楽祭」、平成二十年レインボー合唱祭、平成二十五年NHK「一〇〇万人の花は咲く」ビデオ撮影、平成二十六年内子町並エコー三十周年記念コンサート開催、平成三十年マンダリンパイレーツ公式戦開会式の「君が代」斉唱（大雨警報で中止となり残念）などがありました。

これからもグループの歴史を刻んでいきます。

四　会員の思い・エピソード

指導いただく二人の先生は、私たちメンバーの宝になっています。先生方の前では、私たちはとても素直な生徒です。随分と年下の先生方をとても敬愛しているからこそ、楽しく続けてこられたと思います。

嬉しいことがあった時は歌声が弾みますし、悲しい時にはメンバーの歌声に励まされ思い切り歌うことで元気になります。

健康の秘訣は、お腹の中から声を出すことです。どんな時も歌は友達、ほほえみと歌を唇にのせて、みんなで歌い続けていきます。

○エピソード

（一）三十年以上前体育館で練習していた時は、夏の暑さと冬の寒さに耐えながら…。何台もの扇風機とストーブが活躍、あまりにも寒い日は会議室でオルガンを使って練習したこともありました。今は冷暖房完備で本当に幸せです。

（二）六月に歌った「夏の思い出」の歌詞の中に尾瀬の水芭蕉の花が出てきます。いつか行ってみたいと思っていたところ、内子町山を歩こう会で尾瀬沼縦走というチャンスに恵まれました。雪の残る峠を越え木道二〇キロ歩いて見た水芭蕉の花は、何年経っても色褪せず目に焼き付いています。

五　コロナ禍で…

まずは検温、体調チェックリストに記入しコーラス用マスクの着用で練習を始めます。十分に距離をおいて椅子も配置しています。また二十五分ごとに五分休憩を入れ、換気も欠かさず励行しています。ハミングを取り入れるなど万全のコロナ対策をしています。

六　今後について

町エコーでは、いつでも新しい仲間を募集しています。歌が苦手な方でも大丈夫です。楽しいことを探している方、一緒に歌いましょう。特に子どもたちの歌声は、私たちメンバーの「希望の光」なっています。

将来は、老若男女の歌声が響くまち「内子町」にしたいと思って活動しています。

練習の様子
（毎週木曜日・内子自治センターレッスン室）

内子町合同芸能発表会
（内子座）

館長さん こんにちは

西条市西条公民館
津嶋和江館長さんにご質問

【質問者】
西条市西条公民館
主任主事 久門　博

津嶋和江 館長

質問一　西条校区はどんなところですか？

西条校区は石鎚山と瀬戸内海に囲まれた旧西条市の中心部に位置し、大型の商業施設や医療機関、官公署等があります。

また、五保育園に一幼稚園、二つの認定こども園、そして小中高等学校が各一校ずつあります。

西条小には外国籍児童対象の「にほんご指導教室」も設置されています。

人口は八一〇〇余名で高齢化率は約二十三パーセントです。三年ぶりに西条祭りが再開され、豪華絢爛一大絵巻に人々の心も躍りました。

質問二　西条公民館の活動内容は？

いきいき学級（高齢者）、カンガルークラブ（未就園児を持つ親子）、西条おとな学校（成人）、食育講座（成人・子ども・親子）、子ども教室やコンサート等を実施し、多様な世代が公民館に「集い、学び、つながって」います。子育て学級「カンガルークラブ」は約十名のボランティアが季節の行事や運動会、料理、子育て講演などをサポートし、「孤」育てにならないよう二十年以上にわたって応援しています。

学校、家庭、地域、そして教育委員会等が連携協働した小学生対象の放課後子ども教室「西条ゆめチャレンジ」や地域未来塾（学習支援）、合唱や美術の土曜教育にも取り組んでいます。地域未来塾は西条小対象のものと、外国籍児童生徒対象の二教室あります。「にほんご未来塾」には日本語はもちろん英語も通じない子もいますが、愛情を持ってマンツーマンで寄り添うところに信頼関係もでき、学びの成果も現れているように思います。

五十近くあるサークル活動は活発で、小学校のクラブ活動の指導や地域の読書推進に力を入れているものもあります。

質問三　西条校区の特徴的な行事は？

しめ縄づくり・とうどさん・七草粥等の伝承文化活動、親子ふれあい交流体験や通学合宿等の青少年健全育成事業、人権標語、人権カフェ、小地域懇談会等の人権・同和教育活動、防災ポスターコンクールをはじめとする地域防災活動、校区文化祭等があります。連合自治会等地域の各種団体や関係機関の連携協力により活動の輪が広がっています。

十一月の文化祭では小中学生の人権標語優秀作を表彰し、優秀標語を箱に記した「標語ティッシュ」を小地域懇談会や人権講座等の参加者に配布し、啓発活動に努めています。

十二月の校区総合防災訓練では、各地域での津波避難訓練、メイン会場の中学校では各種訓練や展示ブースの見学等、二千名を超える住民が参加。地域全体で取り組む第十回ポスターコンクール全応募作品も展示され、閉会式では入賞者の表彰式も行いました。

質問四　コロナ禍における事業実施についてはどうでしたか？

中止を余儀なくされた事業もありましたが、人の繋がりを取り戻したいと規模を縮小し、感染対策を徹底し実施しています。

その一つに人権カフェがあります。学習やカフェ&ピアノ演奏の鑑賞、三世代の語り場を通じて心の距離がぐっと縮まり、人の温もりが感じられたように思います。

小地域懇談会や文化祭でも連帯感やエネルギーを感じ、やって良かったと思いました。

質問五　館長さん、最後に一言お願いします。

私は平成十一年度から十年間、西条公民館主事として勤務し、初年度に「西条公民館物語」と題するミュージカルを地域と一緒に制作。公民館フェスティバルで発表させていただき、地域が活気づいたものです。

平成の大合併の後、平成十七年度に現在の地に新築移転。地域とともに公民館も成長してきたように思います。

後に社会教育課等の勤務を経てこの四月、再び西条公民館に館長として着任。懐かしさと皆に会える嬉しさでいっぱいになりました。が、ふと現実に戻ると社会を取り巻く環境はものすごいスピードで変化変革し、社会や地域の新たな課題に直面していることに気づきます。

「公民館は地域の核」、地域教育の原動力であり地域の拠点です。地域の声に耳を澄ませ、課題を把握し、地域や学校とともに親しみやすく魅力的な地域づくりにチャレンジです！

防災ポスターコンクール応募作品約170点を展示

カンガルークラブ「ちいさなうんどうかい」

久万高原町公民館美川南分館 坪内続分館長さんにご質問

【質問者】
久万高原町中央公民館
主事　山内　竜

坪内 続 分館長

質問一　はじめに自己紹介をお願いします。

令和三年度に地域から、美川南分館長への就任要請があり、現在は二年目の任期を迎え、微力ながら頑張っております。

職業は自称農業（ピーマン作り）ですが、各種団体等の役員も兼任をしており、多忙な毎日を過ごしております。

質問二　美川南地域はどんなところですか。

美川南地域は、旧美川南小学校区の日野浦、沢渡、中黒岩地区からなる標高差の大きな中山間地に位置し、人口は約二五〇人の小さな地域です。

また、標高一五六二メートルの大川嶺連峰を有しており、頂上から見える雲海は絶景です。

質問三　主な活動を紹介してください。

学校、自治会や地域運営協議会（南たすけ

あいの会）など各種団体と協力し、様々な活動を行っています。

まず、スポーツ活動ですが、美川地区公民館分館対抗のバレーボール大会（五月）、ソフトボール大会（十月）、卓球大会（二月）に参加し、優勝を目指して取り組んでいます。

次に恒例行事をご紹介します。

八月に旧美川南小学校のグラウンドにて、盆踊り大会を開催しています。青年部による景品付き餅まきやバザーなど盛り上がる企画を用意しており、お盆で帰省した懐かしい顔に出会える夏の夜を楽しんでいただいています。

また、目玉企画の手作り仕掛け花火は、小規模ながら来場者の楽しみになっています。

十月には、敬老会を開催し、万歳、舞踊、三味線の発表など地域をあげて敬老者を祝い、楽しい一時を過ごしています。

しかし、こうした活動もコロナ禍で、延期や中止が相次ぎ、まともな活動ができていない状況です。少しずつ以前のような活動ができるよう試行錯誤しながら、日々を過ごしています。

質問四　厳しい状況が続く中ですが、新たな取組みはありますか。

新たな取組みとして、地域運営協議会（南たすけあいの会）による活動が開始されました。「南たすけあいの会」は、分館活動の中心となっている方の中から有志をつのり、発足した会です。

少子高齢化や人口減少、コロナ禍など多くの課題を抱える「地域の実情にどう向き合うか」をテーマに意見交換、協議を重ね、約一年間の準備期間を設けたうえ、令和四年四月に設立されました。

では、「南たすけあいの会」の主な活動の一部をご紹介します。

地域の魅力発信事業の一つとして、日野浦地区の耕作放棄地を借り受け、花畑を作りました。四月から作業を開始し、秋にはコスモスの花が綺麗に咲きほこりました。

今後も、一年を通していろいろな花を咲かせ、地域の魅力スポットを増やすことで、一人でも多くの方に足を運んでいただきたいです。

また、地域の方からの要望を受け、庭木の剪定や農道沿線の草刈り作業を行い、環境美化への取組みを地域で協力して行っております。

質問五　美川南分館の課題や今後の目標について教えてください。

前述しましたが、美川南地域では中山間地特有である人口減少、少子高齢化が年々進んでいる状況に加え、追い打ちをかけるように、コロナ禍が始まり、厳しい状況が続いています。

こうした状況に立ち向かうべく今後も分館活動を通して、学校、自治会、地域運営協議会など関係する団体と協力して、明るく元気な美川南地域を目指していきたいと考えております。

満開のコスモス畑

花植えの様子

元気な主事さん

豊かな自然と人に囲まれて

上島町弓削中央公民館　主事　角谷有一

私自身もその恩恵を受けている一人で、その理由は釣りが趣味だからです。

とはいっても、学生時代は好きでも嫌いでもなく、趣味と言えるようになったのは最近になってからのことです。私が上島町に帰ってきてからすぐコロナ禍に突入してしまい、友人とも会いづらく、町外に出るのもためらわれる日々が続きました。そこで、町内で楽しめることはなにかないかと探していたとき、自分の身の回りにはこんなに素晴らしい海があるではないか、と思い釣りを始めてみると、見事に虜になってしまいました。

このときから、案外自分が必要としているものは、身の回りにあるのかもしれないと思うようになりました。

【そういえばこんな活動があった！】

公民館主事として活動を行う中で、町内にはたくさんの良い取組みがあって、それに今までの自分が気づいていなかったんだと思うことが多くあります。

学生時代はあたりまえだと思っていて、今では自分自身が関わっている活動について、いくつかご紹介させて頂きます。

《子ども体験教室》

上島町にある地域資源を活用して、子どもたちに新たな体験をしてもらう目的で行っている活動です。

今年度の夏休み期間には、夜光虫を集めて観察する体験教室を行いました。子どもたちには、夜光虫を集める仕掛けの材料となるペットボトルと夕食のカップ麺を持参してもらい、夜光虫が仕掛けに集まるまで、夕食のお湯を沸かすための火起こしや海岸の探索、簡単なレクリエーションを楽しんでもらいました。日が暮れて夜光虫を確認できるようになってから、仕掛けの中の夜光虫を取り出すと、たくさんの夜光虫がキラキラ光って子どもたちはとても楽しそうな様子でした。

海に触れる機会が多かった私ですが、こんな面白い遊びがあったとは知らず、新たな発見となりました。

《雨乞い踊り》

上島町の弓削島に室町時代から伝わる町指定無形文化財の踊りで、思い返せば私の子ども時代にも友人が運動会で踊っていました。現在は小・中学校の二十九名の有志と指導者五名がその伝統を受け継ごうと練習を重ねており、今年度は、県民総合文化祭「子ども伝統文化フェスタ」にて、雨乞い踊りを披露しました。

こうした活動が子どもたちの伝統文化への理解を深め、ふるさとへの思いを育むことにつながっていると感じています。

【釣りがこんなに楽しいとは思わなかった】

私は上島町で生まれ育ち、町外で数年間社会人を経験したのち、上島町へ帰ってきました。Uターンしてから改めて実感する上島町の魅力がたくさんあり、そのうちのひとつが自然の豊かさです。

上島町は離島であり、特に交通面では船舶の利用が必要不可欠です。仕事や日常生活において不便に感じることもありますが、様々な恩恵を与えてくれる瀬戸内海がすぐそばにあるということも事実です。

《子育て講座》

この活動は町内の園児や小中学生の保護者を対象に家庭教育支援を行うもので、今年度は町内の中学校で運動や姿勢の大切さについて、町内の健康運動指導士の方をお招きして、講座を行いました。

中学生にも参加してもらい、保護者と一緒に普段の生活や運動で気を付けるべきことについて学習してもらいました。コロナ禍で町外の講師をお招きするのが難しい中、町内の健康運動指導士の方が快く引き受けてくれたのが印象に残っています。

雨乞い踊り

【あるものに目を向ける】

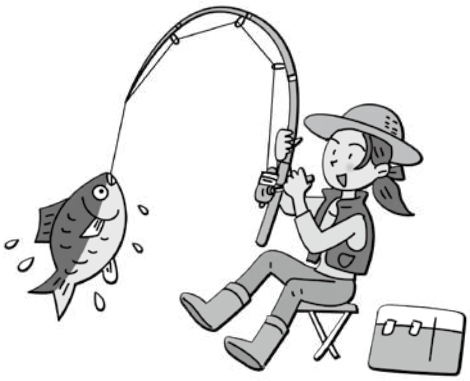
上島町内で仕事や生活をする中で、あるものに目を向ければたくさんの資源に囲まれていることにいつも気づかされます。

紹介した活動について、今年度はすべて町内の方に講師や指導者をして頂いており、上島町には自分がまだ出会っていない経験や知識が豊富な方がたくさんいると感じました。

今年度、弓削中央公民館は老朽化のため解体され、跡地には弓削高等学校の寮に生まれ変わります。

子育て講座

活動の拠点である公民館がなくなることは、公民館活動の妨げになるかもしれません。しかし、上島町には公民館の代替となりうる施設も数多くあり、なにより人や自然、文化など多様な地域資源があります。この資源を大切にしながら、様々な活動に繋げていけるように、日々努力したいと思います。



主事としての『これから』―地域とともに歩む

西予市高山公民館　主事　平田茂雄

一　はじめに

二〇一六年四月、西予市役所に入庁して四年目を迎えた私は、狩江公民館に配属となりました。公民館の仕事は、毎日が新鮮で、地域の住民と一緒になって、事業やイベントを進めることを楽しく感じたと同時に、現在の私に至る礎ともなったのも公民館と言えます。

二　狩江公民館～ホップ～

狩江公民館では二〇一八年三月までの二年間勤務しました。同じ明浜町内でも、私が生まれ育った地区とは別の地区なので、大丈夫かな?と最初は思いました。着任してからは、前任者や狩江地区職員、地域住民の方から、地域のことを教えていただき、少しずつなじむことができました。レクバレーや卓球などの各種スポーツ大会や産業文化祭の他、盆踊りや秋季大祭などの地域行事、重要文化的景観の選定に向けた事業や旧狩江小学校校舎を活用した音楽祭や子どもたちと触れ合うイベントなど、地域づくりに関連する事業やイベントにも携わりました。

そうした狩江地区での公民館活動の成果を、二〇一七年度に開催された公民館活動活性化ステップアップセミナー（南予地区）と、県公民館研究大会でそれぞれ発表したことはいい経験になりました。公民館活動のあり方、毎夏に実施していた通学合宿について、自らの経験やユーモアを交えて、面白く、分かりやすく発表することができました。その経験から、人前で発表することの面白さや奥深さ、難しさを学び、現在もその学びが生きています（伊予路一五四号を参照）。

三　一般財団法人地域活性化センター～ステップ～

これからというときに舞い込んだ東京への出向―。公民館主事の経験を生かし、地域づくりを学ぶために一般財団法人地域活性化センターに出向しました。二〇一八年四月から二年間、全国各地から集まった同僚職員たちと切磋琢磨しながら、全国地域リーダー養成塾や地方創生セミナーなど、セミナーや研修の開催に携わった他、全国各地で地域活性化に尽力、活躍する方々と出会い、その熱い思いや、これからのビジョン等、さまざまな角度からのお話を聞くことができました。

なかでも印象深いことが二つあり、一つは「やねだん」に参加したこと。鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落（通称：やねだん）を訪れ、集落独自の財源を築き、行政に頼らないまちおこしの取組みは大変勉強になりました。「集落全員がレギュラーで補欠はいない、一人ひとりが地域づくりの主役」という柳谷自治公民館長の豊重哲郎さんからの言葉は鮮烈に残っています。

もう一つは、海外調査事業でオランダ、ドイツへ行ったこと。二〇一八年の西日本豪雨災害から、私自身は、防災をテーマとして、ドイツ・ケルン市を訪れました。河川の氾濫を事前に察知し、街への浸水を防ぐ取組みや災害発生時に活動する水防団を視察することができました。他にも、スマート農業やオランダの教育についても視察ができ、とても貴重な経験となりました。

やねだんにて豊重哲郎氏と（筆者左）

四　高山公民館　～ジャンプ～

帰任後、まちづくり推進課を経て、二〇二二年四月より高山公民館に配属となりました。高山地区は生まれ育った地元であり、そこで仕事ができる喜びをかみしめています。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で事業のほとんどが実施できていませんが、その中でも流行の合間を縫って、明浜西地区館長杯クロッケー大会や明浜四館合同のキャンプ事業などを、感染対策を十分配慮しながら実施できました。

かつては石灰産業で栄え、鯨塚の伝説があ

る高山地区では、現在、歴史を生かした地域づくりの動きがあります。その動きに公民館も一緒になって協力、活動したいですし、明浜町内にある他三館（俵津、狩江、田之浜）とも連携して開催したいという想いもあります。

西予市では二〇二三年四月から、地域づくりの拠点として、市内の公民館が「地域づくり活動センター」に移行します。公民館の事業はそのままに、地域づくり活動への関わりが更に求められ、内外に地域のことを発信することもまた、重要になると思っています。これからの西予市と明浜町と高山地区と私に、乞うご期待！

明浜西地区館長杯クロッケー大会

「公民館版ＳＤＧｓ～公民館を発展させるための16の目標～」

愛媛県公民館連合会のホームページには、「公民館版ＳＤＧｓ」の特設ページがあります。ピクトグラムやパンフレット、自動集計機能付きのチェックシート等のデータもご用意していますので、是非ご活用ください！

県公連 HP「公民館版 SDGｓ」のページ
http://www.ehimekou.sakura.ne.jp/sdgs.html

郡市公連だより

地域をつなぐ身近な学習拠点としての公民館

四国中央市公民館連絡協議会　事務局（生涯学習課内）　眞鍋　宏規

一　はじめに

四国中央市は地区公民館として十九館、地域コミュニティ施設として川之江ふれあい交流センターを設置しており、それぞれの館が創意工夫しながら特色ある活動を展開しています。

二　ステップアップセミナー

東予教育事務所が実施主体で管内の公民館等を対象とした公民館活動活性化ステップアップセミナーが四国中央市で開催されました。

当日は管内の公民館関係者約百六名が集まり、「公民館版ＳＤＧｓの目標達成に向けて」をテーマに代表者三名による実践発表及びグループ協議を行いました。実践発表では公民館版ＳＤＧｓの目標別にそれぞれ発表があり、参加者は真剣に耳を傾けていました。グループ協議では目標達成に向けてどのようなアプローチが必要か各館の実情を踏まえながら意見交換し最後に全体で共有しました。皆さん活発に意見交換をすることができ大変有意義なセミナーであったと思います。ご参加いただいた一人一人がこの機会で得られた見識を基にそれぞれの各地域にフィードバックできるよう期待しています。

ステップアップセミナー

三　人権・同和教育学習会

公民館は地域をつなぐ活動拠点として、また地域住民にとって最も身近な学習拠点として大切な役割を担っています。

そこで、年に一度は身近な人権について考える機会を持っていただこうと、公民館利用サークルや各種団体に向けた学習会を行っています。また併せて公民館職員を対象とした人権学習会にも取り組んでいます。生涯学習課人権教育係から講師を招き、時間は三十分から一時間程度、身近な暮らしの中から人権問題を見つめ考える機会にしていただいています。

参加された方からは、「身近な内容で他人事として捉えていたことが、ぐっと近づき良い学びの機会となった。」「おかしいと思える感性を育むことや、相手の立場に立って物事を考えることの大事さを改めて学んだ。」など、人権問題に対して前向きな感想が寄せられています。誰もが自分らしく、この町に住んで良かったと思えるような地域づくりのために、人権教育を進める地域の拠点として、このような学習会を継続的に行っていきたいと思います。

人権・同和教育学習会

四　おわりに

少子高齢化や人間関係の希薄化など、地域を取り巻く課題は多様化・複雑化しており、状況は刻一刻と変化しています。地域づくりの拠点として公民館の果たす役割はより大きなものとなることが考えられます。皆が生き生きと暮らす活力あふれる地域づくりの拠点としての公民館であるようにその活動を支えていけるよう尽力してまいります。

沖の島美化活動事業について

宇和島市立日振島公民館　主事　畠　山　ひとみ

沖の島がある日振島は、宇和島市の西方沖二十八キロ愛媛県と大分県の間の宇和海にある人口二百九十名ほどの有人島です。日振島には磯釣りで有名な御五神島（おいつかみじま）、ハマユウが群生する沖の島、竹ヶ島、横島の四つの属島があります。昭和四十七年には宇和海地域が足摺宇和海国立公園に追加指定されました。また昭和四十九年には北宇和郡宇和海村が宇和島市に合併され、その年から宇和海地区の公民館で沖の島の清掃活動が始まりました。

宇和島市の半島部と島嶼部にある宇和海地区には、下波・遊子・蒋淵・戸島・日振島の五つの公民館があり、この五館で宇和海地区公民館活動推進協議会を構成しており、独自の活動を行っています。離島や半島部のためなかなか交流することができない児童のために、バドミントンやフットサルなどのスポーツ大会や駅伝大会などを行っています。

また公民館間の交流としては、五月に沖の島美化活動を行っています。作業当日、宇和島を出港した渡船は遊子、矢ヶ浜、戸島を寄港し、沖の島へと向かいます。約一時間の船旅です。日振島の関係者も合流し、開会挨拶が終了すると早速作業に取りかかります。木材や養殖筏のスチロール、缶、ペットボトル、カキ養殖に使われるプラスチックパイプなどの漂流ゴミが多くあります。ハマユウの群生地に入り込んだナイロン袋なども除去します。沖の島の小高い山の上には昭和二十四年六月に発生したデラ台風の慰霊碑があり、その登り道も草刈りを行います。二時間ほどの作業が終了したら、コロナ禍前には素晴らしい景色の中で昼食会を行っていました。

このように宇和海地区の公民館だけでなく、昭和五十二年からは「愛媛県指定天然記念物であるハマユウが、ハマオモトヨトウムシの異常発生のために絶滅の危機に瀕している」という新聞記事を読んだ宇和海中学校（現在は廃校）の生徒会がハマユウの保護活動を提案し、ハマユウの移植や保護活動が始まりました。この活動は現在城南中学校に引き継がれています。また、日振島の能登自治会でも定期的な清掃活動や、ハマユウの消毒作業を行っています。このように風光明媚な沖の島はいろいろな人の力によって現在もその姿を維持しています。

作業の様子

無人島のため海水の透明度は高く、貝殻が削れてできた貝砂の浜はとてもきれいです。島の名物ハマユウの可憐な花は七月中旬頃に満開となり、島はハマユウの花の香りで満たされます。

沖の島の風景

海とともにある環境の宇和海地区公民館活動推進協議会は、ＳＤＧｓ目標十四の「海の豊かさを守ろう」の取組みとして、今後も沖の島美化活動の重要性を再認識し、継続してまいります。

第三十四回全国公民館セミナー　レポート

松山市味酒公民館　主事　重友　佑介

令和五年一月十一日から十三日の三日間、東京都の丸の内マイプラザホールにて「公民館のミライ ― 未来の公民館をデザインしよう ―」のテーマで、第三十四回全国公民館セミナーに参加させていただきました。

研修に先立ち、十二月にはＺｏｏｍを使用したオンラインでの事前オリエンテーションが開催され、事務局からの説明の後、講演される講師の先生方からのビデオメッセージがあり、大学教授や先進的な活動をしている公民館職員、また、アーティストと肩書きのある講師もいて、どういったセミナーになるのか期待が膨らみました。オリエンテーションの最後には、参加者数名に分かれてのグループワークがあり、全国の公民館職員と交流するという貴重な体験をさせていただきました。

セミナー一日目には「公民館のミライを描こう」と題したシンポジウムが開催されました。パネリストはデザイン・クリエイティブセンター神戸センター長の永田宏和氏とアーティストのアサダワタル氏でした。永田氏は神戸市から指定管理者として施設を運営する中で、既成概念にとらわれないアイデアや工夫を取り入れた社会教育を行ってこられました。子どもたちに職業体験をしてもう「ちびっこうべ」というイベントでは、地域の大人たちを巻き込み、プロのシェフや建築家などと子どもたちがワークショップを行い、子どもたちが自らゆめのまちを創り、そのまちの中で、仕事に就き、お金を稼ぎ、買い物をするという大人も子どもも主体的に関わるイベントを開催し、大盛況だったということでした。永田氏の話でとても印象的だった話は、昔は地域活動が活発だったので、種（永田氏の表現で事業や活動のこと）は手入れしなくても育っていたが、今は良い種を蒔き、手入れをしなければ種は育たない、というお話でした。良い種（活動）の条件は、地域の人たちが自分たちで考える関わり代（余地）を敢えて作ることであり、計画を完璧に仕上げて地域に渡しても、地域の人たちはお客さんで終わってしまう、自分たちで考える余地を作ることで、主体性が生まれるという説明がありました。この関わり代を作るという話は、公民館が主体となって事業を作りすぎていないか、それによって地域の人たちの主体性を奪っていないか、と非常に考えさせられる内容でした。

次にアサダ氏の活動紹介では、被災地福島での復興に伴うコミュニティ作りの話がありました。震災や原発による復興住宅には元々別の地域に住んでいた人が集められているため、コミュニティ作りが上手くいかない。そこでアサダ氏は住民の家を訪問し、一人一人に被災前のふるさとの思い出話や身の上話を取材、収録し、ラジオＣＤを作成。復興住宅の住民たちへＣＤを限定配布したところ、住民同士がラジオの話をきっかけとして交流をするようになったというものでした。この他にも様々な活動を通し、世の中の人々がいかに繋がれていないか、また、繋がれるのを待っている人がいる、ということを実感したとおっしゃっていました。

永田氏とアサダ氏の話を聞き共通して思ったことは、お二人とも活動を通して人と人が交流するきっかけを提供している、という点でした。地域に根差している公民館こそが、人と人とを繋ぐための活動を考え実施し、交流のきっかけを提供していかなければならないと感じました。

一日目の最後は文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長黄地吉隆氏の講演でした。 現在のデジタル化の進展を踏まえ、今後はデジタル技術を生かした学びの推進が求められており、公民館などの社会教育施設がデジタル技術を活用することで、地域の取組みにリアルな交流と、デジタルの相乗効果が生まれ、地域課題解決に向けたコミュニティ活動の活発化が期待できる、という説明がありました。

一日目の研修終了後には、セミナー参加者による情報交換会がありました。会場となった明治安田生命ビル二十二階の社員食堂からは夜の皇居が一望でき、全国から集まった公民館職員の方々とお話をさせていただくのはとても良い刺激になりました。

二日目の初めは桜の聖母短期大学教授三瓶千香子氏のお話でした。公民館に若者を呼び込むためにはどうしたらよいか、という相談を受けたことをきっかけに、学生と公民館でワークショップを開催。学生が企画立案したインスタ映えするイベント「ジャンボパフェコンテスト」や「チョークアート講座」などの事業では、多くの若者を呼び込むことができた、とお話がありました。若者が来ないのなら若者に意見を聞いて、企画を考えてもらえばいいじゃない、というストレートな提案には意表を突かれたような気がしました。

次は、切り絵作家で「月刊公民館」の表紙絵を長年担当されているＣＨＩＫＵさんの講演でした。知り合いから頼まれ、インドの学校で切り絵のワークショップを開催した、という活動の紹介がありました。子どもたちと協力し、切り絵の作品を作り上げたとき、言葉が通じなくても活動（切り絵）をツールとして、人と人は交流することができる、ということを実感した、と話されていました。

午前の部が終わり、昼休憩中には皇居外苑を散歩しました。開放的な空間と落ち着いた雰囲気に、束の間でしたが癒やされました。

午後からは四名の公民館職員の方々による、事例紹介等がありました。一人目は、島根県飯南町赤名公民館主事の景山良一さんでした。小学生が書く「将来の夢」に「公民館主事」と書いてもらえるような公民館主事を目指している、というとても志の高い方でした。若者世代を公民館に呼び込むため、子どものころは公民館活動によく参加していたという若者たちを集め、若者世代がやりたいことを地域で実現できる環境を整備。いかだ作りをして川下りをする体験や、人権学習とヨガを組み合わせた研修会を企画するなど、若者がやりたいことを聴いて企画・実践してきたという内容でした。

二人目は、富山県高岡市福岡公民館の横越知亜紀さんでした。「全国の公民館とつながりたい」を目標に、インスタグラムを通じて全国の公民館へ交流を呼びかけ、公民館職員交流のほかに、オンラインでつなぐ全国ご当地健康体操や、オンライン子ども交流会なども行っているそうです。

三人目は、静岡県浜松市富塚共同センターの野嶋京登さんでした。野嶋さんは、地域の方との何気ない会話の中に、要望やヒントがあること、また、その要望をカタチにして実現することが公民館職員の腕の見せ所である、とおっしゃっていました。また、地域コミュニティの原点は、「楽しい時間を共有すること」、と言われていて、公民館活動は楽しいだけじゃなく学びが必要、と考えていた自分の考えが固すぎるということに気付かされました。

四人目は、沖縄県那覇市若狭公民館長の宮城潤さんでした。若狭公民館のエリアには外国出身の方が多く、公民館も多文化共生の時代である、と説明がありました。地域の特性として、自治体加入率が極端に低く（十三％）、地域活動と関わりがない人がほとんどである、という点を踏まえ、外国人を対象とした様々な活動を行ってきた、という説明がありました。文化・慣習・言葉の壁など、色々な困りごとを抱えている外国人も、安心して暮らせる地域づくりをすることが、今後、公民館にも求められるのではないか、と感じました。

午後の最後には、グループに分かれて「公民館のミライ」を題材としたワークショップが開催されました。公民館職員だけが、公民館の中だけで未来の変化に対応していくことは困難であり、公民館の未来について様々な人と協同しながら考える必要がある、という前提の基、「ミライ」と「協同」をキーワードに、各班で「公民館のミライを誰と協同し

て考えるか」、というテーマでプレゼンをするというものでした。私の班では、これまで公民館に関わることがなかった人をターゲットにしようということになり、「仕事帰りのサラリーマン」「お買い物中の主婦」「放課後の学生」などから、駅、ショッピングモールや学校に公民館職員が出向き、お茶やお菓子、ときにはお酒を飲みながら公民館について率直な意見を話してもらう。意見を取り入れた魅力的な活動を企画・実施し、今まで来ることのなかった人たちが公民館に集まるミライを目指す、という内容で資料を作りました。

二日目が終了したところで、班の方からご飯のお誘いをいただきました。班員の福島県の職員の方から、東日本大震災で被災した当時の体験談を伺い、とても貴重な経験になりました。その他にも、地域ならではの話や方言の話等で盛り上がり、研修外でも全国の公民館職員の方々と交流できたことは、素晴らしい思い出になりました。

三日目は、気になった班の机に行って、二日目のグループワークのプレゼンを受ける、という自由な形式で各班の発表を聞きました。ワークショップが前向きな意見と、自由な発想で考えを出し合う、という条件で行われたこともあり、それぞれの班が個性豊かな発表を行っていました。自治力の向上を目指しているのが公民館だから、自治力が向上した結果、ミライに公民館は必要ない、というような発表もありました。いろいろな考えやアイデアを聴くことができ、今後の公民館運営のヒントとなりました。

最後に、全国公民館連合会中西彰会長から、地域の未来を考え、公民館の未来、立振る舞いを考えてほしい、この三日間の研修で学んだことを是非実行して欲しい、とお話があり、三日間に及ぶ研修は終了となりました。

セミナーに参加し、様々な講師の方々の講演を聴けたことは、とても貴重な経験になりました。全国の公民館職員と交流する中で、地域課題に真摯に向き合い、情熱を持って公民館業務に励まれている職員の方々に感銘を受けました。また、今回のセミナーを通して全国の職員の方々と知り合いになれたことは、私にとってとても大きな財産になったと感じています。

最後になりましたが、このような素晴らしいセミナーを企画・運営してくださった全国公民館連合会の皆様と、セミナー参加にご配慮をいただきました愛媛県公民館連合会の皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

令和四年度　愛媛県公民館研究大会

会場　西予市宇和文化会館「大ホール」他

令和四年十月二十八日（金）、西予市宇和文化会館で、「令和四年度愛媛県公民館研究大会」を開催し、公民館関係者四五〇名が一堂に会しました。

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、大会規模を若干縮小しましたが、本来の形である「参集型」で開催し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、座席間隔の確保・換気・体温測定・マスクの着用・手指消毒を徹底しました。

来賓には、愛媛県知事（代理：田所教育長）、渡部浩県議会議長（代理：古川副議長）、管家一夫市長、土居英雄愛媛新聞社代表取締役社長（代理：加藤常務取締役）他のご臨席を賜りました。

開会行事では、重信昭雄愛媛県公民館連合会会長が、開会あいさつで「県公連は総会において県公連専門委員会の答申も踏まえ、公民館を更に発展させる十六の目標を『公民館版ＳＤＧｓ』と定め、県内全ての公民館に普及浸透させることを今後の基本方針としました。昨今の公民館は「社会の大転換期」の局面を迎えており、その厳しい状況の渦中にあっても、進むべき目標を見出すための『海図と羅針盤』として、『公民館版ＳＤＧｓ』を活用していただきたい」と挨拶しました。

開会行事

重信会長あいさつ

県公連会長の主催者あいさつの後、愛媛県知事・愛媛県議会議長の来賓祝辞に続き、管家西予市長から歓迎のことばをいただきました。

全国公民館連合会表彰、県教育長・県公民館連合会長連名表彰、県公民館連合会長表彰・感謝状贈呈、愛媛新聞社長・県公民館連合会長連名表彰の後、「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」をテーマに、県公連専門委員会委員長の若松進一氏、ＮＰＯ法人あわ・みらい創生社代表理事の井原まゆみ氏、宇和島市立吉田公民館館長（県公連副会長）の井上教氏の三者による鼎談を行い、「公民館版ＳＤＧｓ」に関連する事例を交えながら、分科会に繋がる、有意義な意見交換が行われました。

午後からは各分科会会場で分科会を行いました。分科会のテーマも「公民館版ＳＤＧｓ」の十六の目標から選定し、分科会Ａ「未来を拓く「人づくり」を進める公民館」、分科会Ｂ「持続可能な「地域づくり」に取り組む公民館」、分科会Ｃ「「学びの拠点」としての機能を発揮する公民館」、分科会Ｄ「人・モノ・ことをつなぎ、「コーディネート」する公民館」、分科会Ｅ「すべての人が安心して暮らせる「共生社会」を目指す公民館」のテーマで事例発表とグループ協議を行いました。

全体会で行われた各種表彰については、次のとおり表彰及び感謝状の贈呈を行いました。

【全国公民館連合会表彰】（優良公民館職員表彰については省略）

◎優良公民館職員（一名）

愛媛県公民館連合会　会長　重信 昭雄 氏

◎公連勤続職員（一名）

愛媛県公民館連合会　事務局長　近藤 正典 氏

◎永年勤続職員（十五名）

松山市石井公民館　館長　宮内 正芳 氏　他十四名

【愛媛県教育委員会教育長・愛媛県公民館連合会会長連名表彰】

◎優良公民館（十三館）

西条市神拝公民館　他十二館

◎優良公民館職員（十九名）

西予市横林公民館　館長　井上 謙二 氏　他十八名

【愛媛県公民館連合会会長表彰及び会長感謝状贈呈】

◎優良公民館（十一館）

新居浜市立多喜浜公民館　他十館

◎優良公民館職員（五十八名）

八幡浜市立神山地区公民館　館長　木下 惠介 氏　他五十三名

◎優良自治公民館（九館）

◎優良団体・グループ（二団体）

◎優良グループリーダー（一名）

◎優良協力者（二名）

◎永年勤続公民館運営審議会委員（二十七名）

松山市和気公民館運営審議会　委員長　小池 昭秀 氏　他二十六名

【愛媛新聞社社長・愛媛県公民館連合会会長連名表彰】

◎館報コンクール　第一部（六館）

内子町立内子東自治センター　他五館

◎館報コンクール　第二部（五館）

大洲市河辺公民館　他四館

館報コンクールについては、大会当日の会場内に受賞館報の展示を行いました。

愛媛新聞社長・県公連会長連名表彰

県教育長・県公連会長連名表彰

全国公民館連合会表彰

受賞者謝辞

県公連会長表彰

全国公民館連合会表彰

【全体会（鼎談）】

令和四年度愛媛県公民館研究大会では、「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」をテーマに鼎談を実施しました。若松愛媛県公民館連合会専門委員会委員長の進行のもと、当面する公民館を巡る四つの重要課題について、鼎談者三名がそれぞれ問題提起を行い、公民館を発展させるための十六の目標と五つのチェックポイントの中から、重要だと考える項目を挙げて議論しました。県下の公民館が「公民館版ＳＤＧｓ」に掲げた目標に向けて実践するにあたり、公民館活動の現状を正しく認識する必要性、実践していくうえでのヒントや切り口などを学ぶことができた全体会となりました。

テーマ「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」

鼎談者

若松　進一 氏（愛媛県公民館連合会専門委員会委員長）
井原まゆみ 氏（ＮＰＯ法人あわ・みらい創生社代表理事）
井上　教 氏（宇和島市立吉田公民館館長（県公連副会長））

若松委員長

井原代表理事

井上館長

【鼎談の記録】

若松　まず、私から「公民館版ＳＤＧｓ」について、経緯を簡単に説明します。

愛媛県公民館連合会には、委員五人による専門委員会が設置されており、一昨年、「県公連が今後十年間で取り組むべき施策」について、委員会に対し会長から諮問があり、二年間の研究協議の末、答申を行いました。その主たるものとして、日本の抱える四つの重要課題を公民館の課題として捉え、その解決に向けて「公民館ＳＤＧｓ～公民館を発展させるための十六の目標～」を発想しました。

十六項目ごとにそれぞれ五つのチェックポイントを設け、あるべきものをさらに伸ばし、足りないものを補いながら、合計八十点のバランスの取れた公民館を目指そうとしております。県公連の総会の議決があり、今年度はその普及を図るべく、郡市公連での研修会を開くなど、様々な取組みを行っているところであります。

一人で話すのは「講義・講演」、二人で話すのは「対談」、みんなで話すのが「座談」であります。この後行われる分科会は、まさに「座談」といえますが、本大会では、「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」をテーマに、三人による「鼎談」を企画しました。私と井上さんと井原さんの三名で議論を交わしたいと思います。

最初に、一人三分程度で自己紹介を兼ねてお話をさせていただきたいと思います。井原さんお願いします。

井原　皆さんこんにちは。徳島県の阿波町から参りました、井原まゆみと申します。昭和二十四年生まれの七十三歳です。四十年間、朝起きてから寝るまで、阿波町のことばかり考えている「まちづくりバカ」みたいなタイプだからか、地元では元気なまちづくりおばさんと呼ばれています。私は十九歳の時に役場に就職して二十九年間勤め、四十八歳で退職して「イタリアンジェラートドルチェ」を開業しました。九年間公民館で仕事をしましたが、その時に住民の皆さんと一緒にやってきた様々なことが、今の活動の基礎になっています。

六十歳になった時にジェラートの店を娘夫婦に譲って以来、まちを素敵にしたいという思いで住民活動を行ってきました。二〇一六年に「ＮＰＯ法人あわ・みらい創生社」を設立しました。「素敵な未来をつくる」をビジョンとして、それを実現するために四つのミッションを考えました。「①まちづくりに関わる人々を増やす」「②地域ビジネスを支援する」「③まちの魅力を発信する」「④エシカル＆ＣＳＲで子育て支援」、これを確実に十年間行いましたら、なんとまちが変わってきました。これは凄い事です。

四つほど事例を紹介します。一つ目は、『キッズまちプロ（子どもたちの素敵で楽しいまちづくりプロジェクト）』。子どもたちが自分の故郷を愛さなければ故郷に残ってくれない。どうすれば子どもた

ちが故郷を愛してくれるだろうかと考えて、まちづくりに参画することだと思ったのです。「まちは誰でも素敵に変えられるということを、体験を通して理解する」、「ふるさとに愛着を持つ」ことの二つの目標で、二年あまりやってきましたが、子どもたちは、自分のまちを素敵だと思うようになったようです。

二つ目は、まちづくり未来会議が子どもたちと作った遊び場です。伊沢田にショッピングプラザ「アワーズ」ができ、商店が集まり商業地になりました。しかし、人口が減少すると、ゴーストタウンになる恐れがあります。だから、子どもたちの遊び場であり、人が集まる場所をつくろうと、アワーズの北側にツリーハウスの森と妖精の村をつくりました。五銃士と呼ばれる主要メンバーの五人の活動により、魅力ある場所となり、マルシェなどのイベントや子どもたちの遊び場となっています。

三つ目は、「シルバーエイジの社会貢献就活クラブ」です。まちを素敵にするために、特に雑草が生えてるところを綺麗にしたり、道の掃除をしたりするのは、高齢者の役割だと思い、高齢者に働きかけてつくりました。「あちらの世界に行く前に、こちらの世界をすてきにしてから旅立ちませんか?」というキャッチフレーズは、我々当事者でないと言えない。今、面白い展開を見せています。

最後に、新型コロナウイルスが社会問題になり、誹謗中傷が酷かった時期に、思いやり助け合う地域にしようと、「お互いさまだよ応援団」をつくりました。「コロナになっても阿波市に住んでたら大丈夫だよ」、「買い物に行けなくて困ってたら、すぐに必要な物（三千円分無料）を送りますよ」という、この「お互いさまだよ応援団」は、随分と皆さんに感謝されています。

この様な活動を行っております。

若松　ありがとうございました。次に井上さんお願いします。

井上　宇和島市立吉田公民館長の井上でございます。平成二十六年四月、吉田公民館長に就任し、今年度で九年目になります。現職は教員で、昭和四十一年松野町立松野西中学校、現在の松野中学校を皮切りに、中学校と小学校の教壇に立ち、平成十四年三月、吉田中学校を退職いたしました。退職後、自治会長や民生児童委員を務めた後、現在に至っています。現職の平成八年度から十年度の三年間、現在の南予教育事務所、その時は宇和島教育事務所といっていましたが、社会教育課長を仰せつかりました。その当時の宇和島市・北宇和郡・南宇和郡の市町村の社会教育課長さん、公民館長さん、主事さん方には大変お世話になりました。また、その頃若松専門委員長さんとも知り合いになり、以来ご指導いただいております。

吉田公民館長は吉田公民館運営審議委員会が推薦し、宇和島市教育委員会が承認して決まります。公民館運営審議委員会から公民館長の打診があった時に、社会教育を担当していましたので、公民館が地域づくり・人づくりに大きな役割を果たしているということを理解していました。それで、微力ながら公民館長をお受けした次第でございます。

吉田公民館は、平成二十七年に建て替えられ、新しい館で職員も来館者も気持ちよく活動ができていました。ところが、平成三十年、西日本豪雨災害で床下浸水の被害に遭いました。同時に、二階は避難場所になりました。やっと水害の復旧工事が終わったと思ったら、今度は、新型コロナウイルスの感染でございます。私は九年間館長を務めておりますが、満足に一年間、事業が計画どおりできたのは五年しかありません。来年こそは、計画通り実施できることを願っております。

若松　ありがとうございました。私も自己紹介をさせていただきます。活動を五つ紹介します。

まず一つは、「夕焼けプラットホームコンサート」です。私は公民館主事を十三年間つとめました。当時、金儲けの公民館活動と夫婦学級が非常に有名になり、ＮＨＫの「明るい農村」というテレビ番組に紹介されることとなり、カメラマンとディレクターが取材に来て、上灘駅と下灘駅を間違って下灘駅に降りました。その時二人は双海町下灘の駅で綺麗な夕日を見て、綺麗だといいました。その間違いがコンサートを生み、無人駅となった廃線危機の予讃線海岸回りをつくったのですから、非常に面白いコンサートだったと思います。

続いて、夕日によるまちづくりを行いました。どこにでも夕日はありますが、どこにでもあるからこそ夕日を地域資源にしたまちづくりを行いました。双海町でしか見れない夕日をつくるために様々な仕掛けをつくりました。「恋人岬のモニュメント」もそのひとつで、春分秋分の日に夕日がピタリと入ります。夕日はペンキを塗らなくてもさびることない、メンテナンスのいらない自然資源です。今こ

の夕日が「日本の夕陽百選」に選ばれております。

次に、「双海シーサイド公園」、これは海だったところを埋めて作りました。私はその当時、課長以外全く部下がいないという、たった一人の課長でしたが、議会で「こういう施設をつくろう」と提案したら、「赤字になったらどうするのか」と質問があり、私が「赤字になったら黒いボールペンで書く」と言ったら随分怒られました。本会議でこのようなことをいったバカな男ですが、当時は観光客ゼロだったこのまちに、今は年間五十五万人もの人が訪れるようになりました。私は毎朝この砂浜に出て、十二年間掃除をしました。一日三時間、教育長を辞めるまで続けたおかげで「観光カリスマ百選」に選ばれることになりました。

次に、現役では木造校舎で一番古い双海町で有名な翠小学校がありますが、その周辺の上灘側でホタルの保存活動を行いました。これは環境庁「いきものの里百選」に選ばれ、木造校舎になんと二億五千万円の予算がつき、たった十五人の学校が、今では環境教育のメッカとなり、一周遅れのトップランナーとして大活躍しております。

最後に、「双海の菜の花」です。最初は菜の花を植えようとＪＲに提案したら、植えたらいけないと言われました。そこで、ポケットに穴を開けて歩いて種を落としたところ、見事に成功しました。今はこの菜の花だけでも七万人ぐらい人が来ており、あれほど反対したＪＲは、「菜の花トロッコ列車」を走らせて儲けています。

こう考えてみると、馬鹿げたことをいろいろとやったものだと思うのですが、こんなまちに私は住み、活動をしています。

さて、三人の自己紹介も終わり、いよいよ本題に入ります。これから皆さんと鼎談を行います。「公民館版ＳＤＧｓ」では、「公民館をめぐる四つの重要課題」を提起していますが、それぞれの立場で気がかりなことは何か、三分程度でお話をいただきたいと思います。

「百歳まで生きる超高齢化社会」、「人口減少社会」、「情報化社会」、「自然災害多発社会」、この四つの中で気がかりなことは何か、まずは井上さんお願いします。

井上　私は二番目の「人口減少社会」が急速に進んでいることに危惧しています。私は宇和島市吉田町御殿内というところに住んでいます。西日本豪雨災害で、床上一ｍの浸水被害を受けた地区です。

ここ数年、近所で子どもたちが遊ぶ姿や声をほとんど見聞きしたことはなく、赤ちゃんの鳴き声を耳にしたこともありません。本当に子どもが少なくなっています。令和四年度の吉田町全体の小学校一年生は、四十九名です。三年後の令和七年度には三十一名になります。今年四月一日から九月三十日までの〇歳児は二十人と聞いていますが、今年度はまだ半年ありますので若干増えるようです。この少ない子どもたちが大きくなった時、進学や就職で都会に出て行きます。地元に残る人がますます少なくなります。人口が減ります。人口が少ないと地域に活気がなくなり、町が寂れます。地域経済が衰退し、地域文化が廃れます。高齢者・要介護者を支援する人手がなくなります。地元のみかん産業、海の養殖業、商店の後継者不足がますます深刻になります。人口減少はＳＤＧｓの大きな壁です。今、日本が、愛媛県が、宇和島市など市・町が一番すべきことは、少子化対策ではないかと思っております。それには、宇和島に残り頑張る若者を育てること、魅力あるまちづくりや働く場所の確保、そして、思い切った子育て予算措置をとることです。聞くところによると、フランスでは子育てをしている人に、毎月二十万円の手当があるそうです。そこまではいいませんが、女性が安心して子どもを産み、子育てできる環境づくりや予算を組んでもらいたいです。このままでは日本が滅びます。私は子どもが少ないこと、人口減少が本当に心配でなりません。

若松　ありがとうございます。まず少子化対策に力を入れていかなければならないというお話でした。

次に井原さんお願いします。

井原　私も一番の大きな問題は「人口減少社会」だと思います。阿波市は、平成一七年の合併時には約四万一〇〇〇人でしたが、二〇二〇年には三万五〇〇〇人になりました。十八年後の二〇四〇年には二万五〇〇〇人になるという人口予測が出ています。この数字を周りの人に話しても、今があまりにも豊かだからか、危機感を抱かれません。でもこれは大変な事です。実際に二万五〇〇〇人になった時には、商業は大きく衰退します。ましてや最近はネットで物を買うことができ、地域にお金を落とさず、外に全部出ていってしまうのです。これでは地域の経済が疲弊し、全てに影響します。

今から二十五年前に「アワーズ」というショッピングプラザができました。私が役場の企画係だった時に、住民や有識者で話し合い、

総合振興計画にシンボル事業として位置づけた事業です。それを商業者と商工会で実現しました。周りにたくさんお店もでき、小さな穴から商業圏ができました。しかし、この先人口が減ると、商店街はゴーストタウンになるおそれがあります。今後お店を出すことは考えられませんが、そこに多くの人が集まるにはどうすれば良いか。私は一人一人に話をし、四十五人に声をかけて、「まちづくり未来会議」を作りました。そして、何度も話し合いを重ねる中で、「子どもたちのために遊び場を作ろう」ということになりました。先程のツリーハウスがそうなのですが、ショッピングプラザの北五十ｍの所に、二〇〇〇年に木を植えて、将来大きくなったらツリーハウスをつくろうと考えていた人がいて、その考えを生かしてツリーハウスをつくれば子どもたちが集まり、大人も、いろんな人たちも集まる。次に、みんなで妖精の村をつくり、さらに、近くのまちのとても素敵な生活空間を生かして、そのエリアを巡るツーリズムを計画しています。

人口減少をくい止めるのはもう無理だと思います。しょうがないです。人口が少なくなっても幸せな社会になるように私たちが知恵を出し、このまちに何が必要なのかをしっかり考えてグランドデザインを描き、それを実行することが重要です。活動する人は地域の人たちもいますし、市外の専門家にも協力してもらっています。そう考えて十年間チャレンジし続けた結果、まちは少しずつ素敵に変わってきました。私たちの未来は、ひょっとしたら明るいのではないかという気配を感じているこの頃です。

ありがとうございます。

偶然にも、井上さんと井原さんは「人口減少社会」が非常に気がかりだというお話でした。多少ニュアンスは違い、少子化対策であるとか、あるいは井原さんは、人口減少も仕方がないことだが、今後どうするのかというグランドデザインを描くというお話でした。

私も気がかりなことはいくつもあります。「人口減少」も「情報化社会」も「自然災害多発社会」も複合的に非常に気になるところですが、私が気がかりなのは、「百歳まで生きる超高齢化社会」であります。

今、日本という国は、百歳を超えた人が約九万五百人います。愛媛県にも千四百九十四人の人がおられ、その数は、昭和三十八年には日本中にわずか百五十三人しかいなかったのですが、その後、何と現在はその五百九十七倍の百歳以上の人がいるということで、人生五十年と言われていた織田信長の時代とは雲泥の差です。寿命が延びることは良いことで、喜ぶことではありますが、問題はその中身です。男性は平均寿命が七九・五五歳、女性は八六・三歳ですが、健康寿命は男性が七十歳ちょっと、女性が七三・六歳ぐらいです。男性はその差九・一三歳、女性はその差一二・六八歳です。平均寿命と健康寿命の差が九歳から十二歳。実はこの差の年数がよくいわれる介護もしくは要介護という、いわゆる福祉の世界に入っていきます。長生きしてもその実態は必ずしも、喜ぶことができないのです。人間が暮らしていく上で必要不可欠なことは、食事・トイレ・風呂・歩く・記憶ですが、今の話の中では、自分で食事が食べられる、自分でトイレに行くことができる、自分で風呂に入ることができる、自分で歩ける、自分で記憶できるという五つのことができなくなると、当然寝たきりになり、施設の世話にならなければなりません。健康寿命を延ばす健康教育・健康運動は、公民館にとってこれから非常に大きなテーマになっていくのではないかと思います。

また、社会教育と社会福祉が、タッグを組まなければならない時代がきました。今はコロナで、健康寿命を延ばすための活動をすることが難しく、高齢化も仕方のない社会現象ではありますが、これからますます重要になってくると思われます。

先日、私は同級生に出会いました。同級生なのに杖をついて歩きながら、「あんた誰」と言われました。「同級生の若松です」と言うと、思い出してはくれましたが、「あんた年なんぼぞな」と言われました。「同級生だから同い年よ」と言ったら、「あ、そうやな」と言われました。こんなものです。年齢に関係なく、人間はそのように歩けなくなる人、そして様々な不幸により人生を終えるのですが、いかにこれからの高齢化長寿社会を乗り切るかというのが、私の気がかりなところです。

こうしてみると、いろんな問題点もありますが、この四つの問題をしっかり認識し、これからどう生きるのかということについて、話を進めなければならないと思います。

さて、「公民館版ＳＤＧｓ」では、十六の目標と五つのチェックポイントを提起しています。最も重要だと思う事項を、これから三人がそれぞれ三つあげ、どうすればその目標に近づくことができるか、具体的な活動を参考に一人五分程度お話をいただきたいと思います。

井原さんお願いします。

井原

私は、一番に「未来を拓く「人づくり」を進める公民館」を挙げます。私は、「素敵な未来をつくること」をビジョンとして掲げていますから、それに合うものばかりやっています。ビジョンがあると、それ以外のことを排除できるため、進む方向が明確になります。人のモチベーションが上がるのは、「評価」と「報酬」と「好きなこと」の三つしかありません。使命感もありますが、人は好きなことでないと一生懸命頑張れません。私は、素敵なことをする人を探すことを続けています。花が好きな人、お庭が素敵な人など。お庭がとても素敵な家に呼びかけて、十一年前からオープンガーデンを始めました。なんと二日で五千人が来るような、すごいことになってしまいました。それも人づくりなのです。まちに貢献しているとは、花づくりをしている人たちは意識していませんが、自然にまちに貢献してるわけです。たくさんの人が来ますから、経済効果も生まれますし、阿波市が「花のまち」「オープンガーデンのあるまち」という素敵なイメージで発信されています。

それから、ツリーハウスの森の横に「妖精の村」をつくりました。これはメルヘンの世界をイメージしてつくっているのですが、それが去年、東京にある公園財団が公募する「公園で実現した夢大賞」に応募したところ、なんとグランプリを受賞し、その経緯全部を、ｗｅｂサイトの中の「公園の達人」に収録してくれました。そのこともあり、たくさんの人が来てくれました。今は、森で結婚式の前撮りをしたいという依頼が来ています。来月には「森のマルシェ」も開催します。私は受託販売の雑貨の店も経営しておりまして、その雑貨を作る作家さんたちが「森のマルシェ」を始めました。二日間開催するのですが、三千人ぐらい来場し、経済効果が四百万円ぐらいあります。人が集まると、それがマイクロツーリズムになり、持続可能な地域づくりへと発展していくと思います。もう一つは「野菜ソムリエ」です。これは西条市さんが「鶴瓶の家族に乾杯」というテレビ番組に取り上げられた時に、その放送を見ていたら、西条市には百人もの野菜ソムリエがいると聞いたので、西条市に電話し、その取組みについて教えてもらい、阿波市長に会いに行き「野菜ソムリエを育成してください」とお願いしました。なんと人口が三万少々のまちから、五十人もの野菜ソムリエが誕生しました。これも「人」が主役です。

二つ目は、「青少年の育成」。子どもたちが「キッズまちプロ」活動を二年間行い、その感想をたずねたところ、「この活動をしてまちを愛さん子は誰もおらん」、「阿波町ってダサいと思っとったけど、今はかっこいいと思うようになった」と答えてくれました。このように子どもたちの考えが変わったら、多分故郷のことを捨てないと思います。小さい頃からお客様的に子どもたちに、「ゴミひろいするから参加しましょう」と言うのではなく、実際にまちをつくる活動に参加する経験をすると、こんなに考えが変わるんだということを、体験を通じて感じました。

三つ目は、「社会に貢献するボランティア」です。ただ「ボランティアをしましょう」と言っても集まりません。知らず知らずにボランティアをやれるように持っていく、これはテクニックの問題ですが、まずは自分がボランティア活動をして、「こんなことやらん？」というふうに誘う。人は好きなことしかしないから、同じようにその活動が好きな人を呼び込む。そうするとグループがたくさんできるわけです。そのように、「公民館版ＳＤＧｓ」のうちの三項目がうまくいってます。

若松

ありがとうございました。では井上さんお願いします。

井上

私の吉田公民館では、公民館版ＳＤＧｓの⑧安全安心な地域づくりための地域防災の拠点となる公民館、⑨健康づくり⑬地域の伝統文化の継承保存。この三つに力を入れております。

一つ目の「安全安心な地域づくりための地域防災の拠点となる公民館づくり」は、宇和島市教育委員会生涯学習課が、今年度公民館活動の重点課題にしています。吉田公民館は、平成三十年七月七日西日本豪雨災害で、一階が床下浸水に遭いました。一階の浸水被害の掃除・復旧工事と同時に、二階の大ホールは避難場所になりました。職員も避難者も初めての事ばかりで、混乱しました。当初、避難者は二百人余りで、ごった返しました。九月二十四日の避難所閉鎖まで、約二カ月半の避難所生活でした。九月の初めでも六世帯十名が避難所生活を送っておられました。

この西日本豪雨災害の経験から、宇和島市は、今後発生すると懸念されております南海トラフ巨大地震、それに伴う津波、豪雨災害が起きた時などの自然災害時の避難所運営は、避難者自身で行う「自主運営」ということを基本方針にしました。吉田公民館も避難所運営マニュアルを作成し、今年度から住民自身による避難所運営訓練を自治会・防災士さんの協力を得て実施しました。今後は参加者の

輪を広げること、避難所は自分たちで運営するのだという意識を住民の皆さんに啓発していきたいと考えています。

次に「健康づくり」についてお話します。令和二年度の宇和島市の高齢化率は四〇・一％、私の住んでいる吉田町は四五％です。ですから、約二人に一人は六十五歳以上です。高齢化がどんどん進んでいます。この傾向は宇和島市だけではなく、南予地方、愛媛県も同様です。これからの社会は、高齢化を前提に地域づくりをしていかなければなりません。高齢者の活躍なしには地域は成り立ちません。そのためには、高齢者の健康づくり、元気な高齢者の活躍の場を設けることが必要で、これこそＳＤＧｓではないでしょうか。その対策として、吉田公民館は老人クラブと連携し、支援し、活性化、健康づくりに取り組んでいます。健康長寿の三原則は、「バランスのとれた食事」・「適度な運動」・「人との触れ合い」といわれています。吉田町の老人クラブは、宇和島市が推奨しているガイヤ健康体操、クロッケー、ワナゲ、カラオケ、一日研修旅行、花づくり、児童の見守り活動等で健康づくりを推進しています。

三つ目の「地域の伝統文化の継承保存」についてですが、十一月三日は吉田の秋祭りです。吉田伊達三万石の陣屋町時代から約三百五十年以上続いている神幸行事で、私たちは「お練り」と言っています。現在、県の重要無形民俗文化財に指定されていますが、地元では、国の重要無形民俗文化財への指定に向けて努力しておりますので、皆さんも是非、吉田町の秋祭りにお越しいただきたいと思います。

そのお練り行事の一つに、「宵宮宝多」があります。秋祭りの前夜、子どもたちが宝多を担ぎ、家内安全・子孫繁栄・健康成就と唱えながら家々を回っていきます。これはみどりの広場の子ども会が中心になり、公民館は側面的な指導をしています。

もう一つは、四十八年続いております、「亥の子大会」です。十一月の亥の日の直近の土曜日の夕方、町内の亥の子連の子どもたちが、吉田児童公園に集まって、土の地面を思い切りつくという大会です。愛護班が主催し、公民館は事務連絡など側面的な支援をし、吉田町の伝統文化を守っています。

ありがとうございました。

私は、最も重要な事項として、「青少年若年層の地域づくり参画を仕掛ける公民館」と、「多様な主体と連携・協働し、「ネットワーク型行政」を実践する公民館」と、未来を拓く「人づくり」を進める公民館」の三つを挙げます。

青少年を取り巻く社会は変化しています。私たちの若い頃は青年団があり、中卒・高卒の百人もの勤労青年団員がおり、社会活動や文化活動、産業活動、様々な形で担い手として、遊び、恋をし、悪ふざけもしながら、楽しく活動する様子は活気に満ち溢れていました。私が愛媛県青年団連合会の会長をしていた頃は、県下に一万人もの団員がいたのには驚きです。その後高学歴化が進み、若者は働く場所を求めて都会へ行き、町や村は過疎の一途をたどりました。少子化で地域に子どもがいなくなり、子ども会さえなくなりました。少ない子どもを大事に育てるあまり、子どもたちは失敗も遊びも道草さえも自由にできない、まるで安全なベルトコンベヤーの上を、大人の監視下で動いているにすぎないような環境下に置かれています。さらに追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスの影響により、集まることや食べることができず、遊びも友達もいない孤独な社会に、子どもたちが追いやられているのではないでしょうか。私のまちは田舎ゆえ、「子ども体験塾」という活動母体があり、小学生は地元の大人が組織する実行委員会と自由に関わりながら、様々なことを学んでいます。また、「子ども体験塾」を卒業した子どもがジュニアリーダーとなって、次の世代を育てる側に回っています。この、人を育てる循環、いわゆる人育ての循環こそ、子どもたちを大事にするために、公民館がつくっていかなければならないことでしょう。そうすれば、子どもたちが未来の成人教育というものに対して、参加・参画ができるのではないかと思います。

二つ目は、「多様な主体と連携・協働し、「ネットワーク型行政」を実践する公民館」です。公民館は学習の場であり、何のために学ぶのか問題を知らせ、学んだことを組織化し、多様な主体を育てなければなりません。先ほど井原さんの話の中にもいくつかの切り口、キーワードがありましたが、これらが有機的に結びつくことにより、公民館は人と情報のネットワークづくりを手助けしなければなりません。ところが、最近は「効率化」という名のもとに、社会教育主事や公民館主事といった教育専門職員さえ置かずに引き上げ、公民館を民間に管理委託させ、単なる貸館のみの公民館も増えつつあるようです。これは公民館の責任ではありませんが、教育委員・社会教育委員・公民館運営審議委員会がその救助を訴えなければなりません。教育行政というのは大きく分けて三つ、「指導助言」・「指導者

若松

養成」そして「条件整備」ですが、その役割を果たすよう行政に力強く働きかけていかなければなりません。

もう一つは、「未来を拓く「人づくり」を進める公民館」で、人づくりに金をかけないまちは、未来を語る資格がないと思います。私は、公民館主事時代に十年で百粒の種を育てて、種をまくという人材育成を試みました。毎年住人の青年を全国一と言われるまちへ十日間派遣し、青年を育てるという壮大な計画です。目的地に選んだのは、「梅栗植えてハワイへ行こう」というキャッチフレーズを掲げた、有名なコミュニティのまち大分県大山町でした。その後、日本一高い富士山で十日間、日本一北のまち足寄町で十日間、このように私たちは十年間で百粒の種を町内にばらまき、そのばらまいた青年たちの芽が今、まちづくりを支えています。そう考えると、金は全額出し、レポートはいらないという海外派遣国内研修で百粒の種を育てるという運動も、私たちのまちの自治能力、地方自治、あるいは地域自治みたいなものに大きな役割を果たしてきたのではないかと考えると、公民館というのは、人づくり・地域づくりが非常に重要ではないかと思います。

三人がそれぞれ論点として、十六のチェックポイントの中でお話をさせていただましたが、そこでお二人に質問します。まずは井上さん。井上さんのところを訪問した際に、秋祭りの素晴らしいポスターを見ました。三万石の城下町といわれるだけあり、非常に奥ゆかしい文化が残ってるのですが、その文化と公民館の関わりを少しお話しください。

井上　吉田公民館とこの神幸行事「お練り」との関わりですが、これは宗教に関係しますので、公民館は直接関与していません。この吉田町の秋祭りの神幸行事を守っているのは自治会で、「吉田町お練り保存会」が中心になって行っています。公民館は、愛護班や子ども会を通して側面的に支援する方法を取っています。

若松　ありがとうございました。

井原　では、井原さん。公民館施設で勤めた経験があるとのことですが、今の公民館を見てどう考えますか。

このような大会が開催でき、公民館に公民館職員さんがいて、公民館活動ができていて、愛媛県は羨ましいです。私たちのまちはもう公民館は貸館的になり、公民館主事はいませんし、私たちが公民館に行くのは、会場を借りる為に行くだけです。公民館で事務をしているのは再雇用の元役場職員の方で、相談するのは貸館についてのみというそんな現状です。

昨日、徳島市の公民館の方からメールが届き、そこには、その公民館も今年度いっぱいで閉館し、コミュニティセンターに変わると書いてありました。徳島県全域が公民館を必要としていない感じになっており、本当に残念です。

私は、自分が公民館で培った「つどい、まなび、つなぐ」を今でも活動の基本にしています。住民に対して「お世話する」のではなく「自立」していくように、共に勉強し、地域課題に挑戦していくことを意識的に行っておりますが、公民館という公的な場が行うことはそれだけ信用がありますし、絶対に社会教育は衰退させてはいけないと思います。

若松　井原さんが言う「ビジョン」と「ミッション」を公民館の人たちが行う場合に何か提案はありますか。

井原　地域課題はたくさんありますから、どういう社会を作るのか、「社会教育」とかは固いです。もう少し柔らかく「素敵で良いまちをつくるためにみんなで汗を流しましょう」とか、みんながその方向に向かいやすいように。大きなことならば防災や、人口減少社会をどうやって生き抜くかとかで、これらは共通のテーマです。共通の目標を持つこと。みんなで必死になり未来を救うのは今です。もう人口減少も始まっており、私も今七十三歳ですが、十年後二十年後は寝たきりになってるかもしれないし、いないかもしれません。これからの社会、私たち団塊の世代が死に絶えるまでが大変です。医療費や福祉費がかかり、人口は減り、税収は減りますが、そうなった時にどうするのか。私は今、ふるさと納税の返礼品を頑張ってどんどんやろうとみんなで企画していますが、愛媛県ではいかがでしょうか。高知県のふるさと納税額は百三十五億円です。人口二万人を下回るまちである高知県の須崎市が、年間のふるさと納税額が二十億円なのですが、徳島県は七十二万の県民がいるのに二十億円なのです。私は、この数字を聞いたときに驚きました。ふるさと納税の税収を上げるためには、返礼品を頑張ることが絶対必要だと、今勉強をしています。今後、大変な時代が間違いなく来ます。どう

か皆さんが自分の事として捉え、今から準備してください。そのための公民館の役割はとても大きいと思います。自分が必死になっているもので、少々力説してしまいましたが、自分の必死度をここに置いて帰ります。

若松　ありがとうございました。
　では井上さんから、井原さんと私に質問をどうぞ。

井上　最初のお話しの中の四つのミッションの一つ「エシカル＆ＣＳＲ」という言葉が出ていましたが、私は「エシカル」や「ＣＳＲ」について勉強不足で初めて聞きました。このことについて、説明をお願いします。

井原　「エシカル」とは、「倫理的」とか「道徳的」という意味です。それは、環境に優しいものを優先的に買ったり、地産地消したり、発展途上国の人たちが生活できるような価格で輸入するフェアトレードを行ったり、そのような消費を「エシカル消費」といいます。
　数年前に、徳島県は消費者庁の移転を掲げました。移転はできませんでしたが、サテライトオフィス的に未来創造オフィスというものができ、約六十人以上の方が勤務しております。知事が旗を振り、「エシカル消費」を始めました。「エシカル消費」の住民活動を地元で行ったところ、私たちのＮＰＯ法人は、とくしまエシカルアワードで表彰されました。何をしているかというと、阿波市産の農産物やリサイクル石けんに寄付つき商品として三十円のシールを貼っています。「エシカル消費」というのは、寄付つき商品を買うのも、一つの方法です。シールが貼られた商品を買うと、三十円がファミリーサポートセンターに寄付される仕組みをつくりました。それが評価されたのですが、年間十万円を集めると、子育て支援のファミリーサポートセンターで一時間子どもを預ける金額を、通常七百円のところ二百円を補助することができ、一時間五百円にすることができます。「エシカル」というキーワードで活動すると他にも様々なことができます。

若松　ありがとうございます。では、井原さんから質問をどうぞ。

井原　若松さんの「ジュニアリーダー」の話ですが、今もジュニアリーダーっていらっしゃいますか。この仕組みを教えてください。

若松　「ジュニアリーダーの会」というのを、うちのまちではつくっておりまして、これは、「子ども体験塾」を卒業した小学生が、中学生になるともう何もしない。勿論部活やその他色々あるから無理なところもあるのですが、やはり地域貢献ということを中学生になると考えていかなければならない。そして、高校生になると私のまちには高校がないから、松山の高校や伊予の高校とか近隣に出て行き、益々地域と離れてしまう。もうこれは危ないと思い、卒業した子どもたちが次世代の小学生の面倒を見るという「ジュニアリーダー会」をつくり、子ども体験塾のお世話をしています。先日もこのジュニアリーダー会が廃校の中学校を利用した「お化け屋敷・肝試し大会」を企画し開催したところ、たくさんの人が来て驚きました。今「ジュニアリーダー会」は、双海町の海岸線十六ｋｍにベンチを十六カ所つくりたいという自分たちの夢をコンペにし、活動しています。このように子どもたちに夢を語らせ、夢に参画させていく、まちづくりに子どもたちの力を取り入れる形で活動しています。

井原　指導者はどなたで、若松さんはどのような立ち位置ですか。

若松　指導者は、高校を卒業した子どもたちや若者です。教員もおります。私は子ども体験塾の実行委員長を二十数年やってます。
　では、井原さん。井上さんに質問をどうぞ。

井原　私のまちは公民館の指導がほとんどなく、老人クラブが衰退しています。井上さんのところの老人クラブは自主的な活動を行っておりとても活発ですが、老人クラブが活発に活動するための一番のものとは何ですか。

井上　実は私も老人クラブに入っておりまして、「悠々クラブ」という名前です。私が会長をしています。「悠々クラブ」は、現在、会員が四十五名います。吉田町には他に老人クラブが五つあるのですが、いずれも二十人前後ぐらいです。「悠々クラブ」がなぜ会員が増えたかというと、例えば、坊っちゃん劇場に行く場合、参加費は大体七千円～八千円かかるのですが、それを三千円の参加費にしています。今年は四国水族館へ行く予定で、そのために貸切バスで行きま

すが、参加費は一人一万円以上かかります。それも三千円で行う計画です。つまり、少ない参加費で各種行事を行うのです。ではその財源は何かというと、年二回行う、そうめんやチャンポン、うどん等の販売手数料、これが結構な収益になります。そのような手数料や市の補助金、そして私の老人クラブは自動販売機ももっていて、それの収益も大きく助かっています。その財源により、一日研修旅行、懇親会、各種大会参加を比較的安い経費で行うことができています。

それからクロッケーなど軽スポーツをしていることです。「私はクロッケーがあるけん老人クラブに入りました」という方がおられます。クロッケーは月・水・金に、健康体操は土曜日、ワナゲは体操終了後に行っています。会員はそのために集まり、おしゃべりし、安否確認などをしています。「独りぼっちにならなくてよかった」「老人クラブに入ってよかった」という話を聞きますが、会員が増えているのはそんなことではないかと思います。

若松　ありがとうございました。いろいろと議論を戦わせてきましたが、今日せっかく来られてるので、フロアから一人だけ意見をいただきたいと思うのですが、意見が無いようなのでこちらで進めます。

世の中便利なもので、私のタブレットに書き込みが随分あります。「私は今日、宇和町に行って泊まり、議論をしました」と書くと、「今日あそこでこんなこというてくれ」と言うのです。私のメール友達が、こんなことを書き込んでいます。

『公民館は地域住民の結節点であり、地域文化の拠点であり、一旦災害が発生すると命を守る拠点となります。地域のコミュニティの関係性が希薄になりつつある中で、公民館の役割の重要性は大きな災害でもないと分かりにくいのではないか。』というようなことを書いています。寂しい限りです。『我が松山の公民館には分館がありますが、団地内の元松山市の職員の方は、大きな災害が発生すると公民館が災害対策の司令塔となると教えられました。若松さん、小さな存在の公民館の大きな役割について大いに語ってくださいませ。』と書いてあります。なかなかやるなと思うのですが、さて、それが語られたかどうかというのは疑問であります。

色々とお話をしましたけども、ある面アドリブ、ある面思いを込めて語っていただきましたが、時間も残り少なくなりましたので、これから三人で少し、「これからの公民館のあり方」ということ、「公民館ＳＤＧｓのフォローアップへの提言」ということで、一人三分ずつ、提案していただきたいと思います。

では、井上さんから。

井上　「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」が今大会のテーマですが、「フォローアップ」とは、「一度行ったことを強化したり、効果を確認したりする為にもう一度行うこと、その後の進展などを継続的に調査する」ことという意味があります。公民館版ＳＤＧｓの目標は、特に目新しいものではありません。愛媛県の公民館が七十年余りの活動のエッセンスを集約・収斂させたものです。端的にいえば、今の時代の現状課題を踏まえて、これからの十年の長期的視点で、「つどう・まなぶ・むすぶ」ことを通しての人づくり・地域づくりをねらいとしています。どの公民館も、地域の実態に応じて課題解決に向けて取り組んでいる内容ばかりでございます。

吉田公民館は、今まで前年度の事業内容を踏襲し、前年と同じように事業を消化する傾向がありましたが、今年度からは、「公民館版ＳＤＧｓ」を羅針盤として、十六の目標とチェックポイントのねらいをキチッと見定めて事業を行い、評価し、弱点を洗い出し、さらによりよい事業計画を立て、実践し評価する。これを繰り返すようにしていきたいと考えています。難しいと思いますが、少しでも「公民館版ＳＤＧｓ」の十六の目標とチェックポイントが正十六角形になることを目指したいです。私は、この正十六角形を、自分の公民館の通信簿と捉えております。

最後になりましたが、この三年間、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に、行動が制限され、公民館活動が中止に追い込まれました。それの影響もあり、地域の絆やコミュニケーション力が弱くなっています。これを、公民館がなんとか回復していかなければならないと思います。今こそ、地域の人材を生かし、地域資源を活用して、持続可能な地域社会を目指す公民館づくりのために、頑張っていきたいものです。焦らず一歩一歩前進していきましょう。

若松　ありがとうございます。では井原さん。

井原　このＳＤＧｓを達成するのは、公民館職員の皆さんです。私は公民館職員の皆さんに二つ提言をします。

一つは、まず「自分力」を高めてください。自分に力がなければ社会教育はできません。みんなが集まって話を聞き、それを活動に

結び付けていくために、「ファシリテーター」という役割があります。「ファシリテーター」が、ファシリテーションができなければ、意見を聞くだけの司会になってしまいます。意見をまとめ、地域の課題に向かい、何が必要なのか、意見を出してもらい、実行までもっていく能力が求められます。先程、若松さんもおっしゃいましたが、それは指導者育成の際に学び実行し、そして自分のところで少しずつ生かしていくわけです。「身の丈にあった」という言葉があります。最初の身の丈で、いきなり「ファシリテーター」というのは難しいかもしれません。しかし、やっていたら身の丈は伸びていきます。身長は伸びませんが、力の身の丈はどんどん伸びていきます。私が公民館職員の時、始めはみんなの前で話をするのが恥ずかしく、紙に書いて読んでも、顔が真っ赤になってましたが、今はもう好き勝手に喋っています。これが長い経験の積み重ねです。人はやればやるほど必ず成長します。

そしてもう一つ、自分も地域に帰れば住民だということを忘れないでください。「ボランティアをしましょう」と言っても、担当がボランティアをしてなかったら説得力がありません。まずは、自分が身近なところから、自分の家の周りの庭を入って道を掃除するなど、やっていることを見せます。そうすると、「あの人がやってるんだからついて行こう」となります。私はそうしてたくさんのグループをつくってきました。寄付を集めに行くと、皆寄付をしてくれます。それは、長年まちづくりにずっと携わってきて経験を積んでいたからです。また、役場を退職した際に私自身に失敗するだろうと悪い噂が立ちましたが、新聞にジェラートの店の計画から創業までのドルチェが掲載され、今は年間十万人も来る繁盛店になり大成功を収めると、この成功の事例、成功体験が説得力になりました。だから、最初は小さくてもいいからまずやることが大切です。それからもう一つ、「住民力」を生かしてください。まちの中にはいろんなことができる人が、たくさん住んでいますので、その人を見つけてください。公民館職員が事務ばかりして、公民館の中にばかりいてはだめです。外に出て、人に会い、このまちの課題について話をし、一緒になってやってくれる人をぜひ探してください。先ほどいいましたように人は、好きなことしかしませんから、どのようなことがこのまちにとって良いのか、それをやることが好きな人はどこにいるのかを、まずは探してください。

最後に「心理学」です。「マズローの欲求の五段階」というものがありますが、これは一段階目の「生理的欲求」から始まり、五段階目は「自己実現欲」、これまでは全部自分のためのものです。しかし、マズローは、晩年にもう一つ欲求があったと言いました。それは「利他」で、人や社会の為に貢献したいという欲求です。心理学的にそういう人たちが今増えています。被災地にボランティアに行く人たちは、まさにその人たちで、若者の間でもどんどん増えています。他人や地域のために何かをしたい人たちが増えている社会になっています。そういうところに着目し、是非一歩から進んで欲しいです。そして「身の丈」を伸ばしてください。

若松

ありがとうございました。では、私の方からも三つ提言をします。

一つ目は、「公民館版ＳＤＧｓ」というのは、公民館の「健康診断」であると思います。私たちが病院に通い、年に一度健康診断を受けるように、公民館も十六の目標と五つのチェックポイントごとに診察し、公民館運営審議会に諮りながら問題点を明らかにし、問題点の改善に努めなければ、健康健全で持続可能な公民館は望むべくもないと思います。公民館も人間もやはりいい部分や進むべき道もあるのですが、足りない部分はたくさんあります。人間は得てして足りない部分を隠したがるものです。これらの責任を、人のせいや社会のせいにしたがるものですが、しっかりと点数結果と向き合って欲しいと思います。私は、県公連主事部会の部会長を六年間務めました。その時には県下に三百六十六館の条例設置公民館があり、主事部会で、四つの視点での公民館の事業経営評価を行いました。私は、「東の静岡、西の愛媛」といわれる愛媛の公民館は素晴らしいと思っていましたが、残念なことに、このアンケート調査をしたところ、ボランティア活動等様々なことができていませんでした。まさにこれは、経営診断をして、公民館を科学的に見るという視点であります。公民館というのはなんとなくやってるというところが非常に多いのですが、私たちはここにメスを入れなければなりません。

二つ目は、「公民館版ＳＤＧｓ」を成長戦略に位置づけていくということです。一年ごとの点数をグラフ化し、来年度、三年後、五年後、十年後の数値目標を立てていくということをやっていかなければならないと思います。「公民館版ＳＤＧｓ」を自らの学習の場として生かすために、既に郡市公連の中には、いち早くこのＳＤＧｓの学習会を行っているところがあります。そういうところは問題点を話し合い、グレードアップをする蓄積を図ることが大事であることに気

づき始めています。どうか郡市公連の事務局の方々には、県公連が勧めるこのＳＤＧｓのグレードアップのために学習会を行っていただきたいと思います。

三つ目は、「公民館版ＳＤＧｓ」の新しい視点を考えて欲しいと思います。公民館を発展させるための十六の目標の五つのチェックポイントをレーダーチャートにし、実践できているチェックポイントに点数を一点ずつ入れていくと、最高点が八十点になります。そこで、私が考えたのは十六の項目の続きです。実は、「公民館版ＳＤＧｓ」の勉強会の時に、「若松さん、なぜ八十点なんですか。百点をどうして目指さないのですか」と言われ、どきりとしました。ああそうか、と思い、その場では「十六の項目までが八十点であれば、あと二十点のこのレーダーチャートは、それぞれの公民館で新しい思いで作ってください。そうすればこの四つのところが、愛媛県のそれぞれの公民館の、得意分野の顔になっていくのではないでしょうか。」と答えました。私が考えたのは、⑰「オンリーワンの顔づくり」、⑱「環境貢献」、⑲「残し伝えること」、⑳「未来の夢未来への夢」です。このようなことをしっかりと書き込んでいけば、公民館の独自性が生まれ、結果的に愛媛県下の公民館の素晴らしい顔づくりとなり、公民館それぞれの顔で、公民館活動が盛況していくのではないかということです。私は、もはや各公民館がそれぞれの特徴ある活動をするだけではいけない。言い換えれば、愛媛県内の公民館がネットワークを図り、ネットワークの中で活動することを考えていかなければないのではないかと思います。

最後に、今日の感想をお願いします。

井原　私は、この大会にたくさんの人たちが参加したことに驚きました。やはり愛媛県はすごいと思います。また、お二方の話からは学ぶところがとても多かったです。私たちのまちは、これから進化していこうと思っておりますし、仲間もたくさん増えてきています。このように公民館が存続することは、私のまちではもう無理なので、とても理想です。ですから私は私設公民館としてやっていきたいと思います。

若松　では、井上さん。

井上　私は今日、徳島から井原さんという、本当に素晴らしい実践をされている方と一緒に話ができたことが、大変勉強になりました。井原さんは公民館主事を辞められて、自分が中心になって住民を巻き込み、公民館と同じような活動をされている。これには本当に頭が下がります。その活動力、実践力は、当に私たちが学ぶべきことではないでしょうか。いつか阿波市へ行き、美しいあわの町を見に行きたいと思います。

井原　「何もないから」といってつくっていますので、私たちがつくったものをどうぞ見に来てください。

井上　ありがとうございました。それから若松さんの、先程の残り四つの目標については知りませんでしたので、これから考えていきたいと思います。

若松　ありがとうございました。最後に、これから皆さん方はそれぞれの会場で、五つの分科会に分かれてグループ協議をします。今日は十六の目標と五つのチェックポイントの話をしましたが、この活動を今後三年間どのように仕組んでいくかということも、今年第一回目のフォローアップとして考えていただくことなので、ぜひ、皆さん方で話し合っていただきたいと思います。

この三年間、会長より諮問された十年後の公民館の在り方について議論を行った結果を受け、答申を行い、理事会や総会を経て「公民館版ＳＤＧｓ」は難産の末に日の目を見ました。専門委員会の委員長として夢を持ち、全公連が発行している月刊公民館九月号に原稿を送り、発刊の運びとなりました。早速全国の公民館から問い合わせが相次ぎ、隣県からも研修会で話して欲しいとの依頼もありました。加えて、県内郡市公連での普及啓発研修会も何カ所か行われ、「公民館版ＳＤＧｓ」のフォローアップが今順調に進みつつあることは、関わってきた一人として嬉しい限りであります。

今日のこの後の五つの分科会でさらに突っ込んだ議論が行われるものと期待をしていますが、取り敢えず今年を含めてこれから三年間はじっくりとこのことに向き合いながら、勉強会を持ちたいと思ってます。皆さん方と問題点や目標を共有できたことは、非常にありがたいことです。時間が参りましたので終わります。ありがとうございました。

【分科会の記録】

分科会Ａ　未来を拓く「人づくり」を進める公民館

1　発表要旨

○今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏

「ふるさとを学び、未来へ伝えていく」

1　吉海地区の概要

吉海町は、「しまなみ海道」の四国側から最初の島、大島にある。大島は、旧吉海町と旧宮窪町からなり、大島の南西部が吉海地区にあたる。

2　活動内容

小学校六年生を対象に「ふるさと学級」を開講し、地域の教育資源を生かし、郷土を誇り、愛する心と心豊かでたくましい青少年を育てる活動をしている。

(1)　募集（小学校との連携）

吉海小学校に協力を依頼し、六年生にチラシを配布して募集している。

(2)　地域間連携（宮窪地区との連携）

令和元年度から同じ大島の宮窪公民館学級「まちなか探検教室」と一部合同開催し、「ふるさと」について共に学んでいる。

(3)　島四国・村上海賊（歴史・文化）

吉海町郷土史会会長の講演、島四国巡拝や櫓漕ぎ体験などを通して、郷土の歴史や文化を学んでいる。

(4)　石割り体験（産業）

大島の伝統的な産業である「大島石」の砕石場で大島石の特徴や現状について学習した後、石割りを体験している。

(5)　もちつき体験・七草がゆ（伝統行事）

年末にはＢ＆Ｇ吉海海洋クラブと合同でもちつき体験を、一月には吉海地区婦人会の指導の下七草がゆを調理している。

3　成果と課題

郷土の歴史や文化を学習することで修了生がふるさとの良さを伝承していることが大きな成果である。課題は少子化と、協力団体の高齢化及び後継者不足である。

2　質疑応答・グループ協議

Ｑ　大洲市教育委員会生涯学習課　課長　渡邊　慎一

すばらしい活動で本当にすごいなと感心した。これだけの事業をするには多額の予算が必要なのではないか。財源はどのようにしているか、参加者の負担金も含め、予算の内訳を教えてほしい。

Ａ　今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏

参加者には、グループ保険の金額と、子どもたちが色やデザインを考えて作るＴシャツの費用だけを負担をしてもらっている。講師は、規程の講師料を支払うこともあるが、地元婦人会を始め、基本的にボランティアでしてくださっている。市は、閉級式で記念品として渡す図書券代を出している程度で大きな負担はない。

Ｑ　西予市中央公民館　館長　竹内　克之

①　吉海学習交流館はどのような施設か。

②　公民館は、吉海小学校区内にいくつかあるのか。また、吉海小学校の六年生は全員で何人いるか。

Ａ　今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏

①　当館は公民館の類似施設である。貸館業務が主で文化祭などの行事でホールを使用するほか、地域の方々の自主活動の場として登録団体に貸し出している。施設内に事務所があり、会計年度職員二名が事務・管理業務をしている。我々職員は隣接する吉海支所内の地域教育課におり、必要に応じて対応している。

②　今年度の吉海小学校六年生は十三人。その内、今年度の活動に参加したのは三名である。

Q　第一グループ
　当グループでは公民館の現状を話した。地元の小学校が統廃合によって無くなり、年末のしめ縄づくりなど、学校と連携して行っていた公民館行事ができなくなってきている。人数は少ないが地域に子どもはいる。どのように声掛けをすれば良いか、公民館と子どもが直接関わり合えることはないかなどを話し合った。「郷土の歴史について学習したい。」と言う子どももいるので、学校とどう連携しているか参考にしたい。

A　今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏
　自分自身も当学級の卒業生である。地元の子どもたちにふるさとの魅力を発信し続けたいと考えている。そのため、もっと発信して、子どもたちに参加してもらえるよう進めていきたい。
　今年度、最初は今よりも集まりが悪く学級が成立しない状況だったため、小学校にお願いしたところ、帰りの会で説明する場を設けてくれた。過去の写真などを見せながら説明し、勧誘したが、今年度の参加者は三名だった。子どもの数が減っている上に習い事をしている子が多く、その兼ね合いもあり、どのように呼び掛けるか探っている状態である。

○　第七グループ
　子どもたちを対象にしたすばらしい事業をされている。写真で見る子どもたちの表情は生き生きとしており、石割り体験は自分もやってみたいと感じたくらいだ。ぜひとも六年生全員に参加してもらいたい。
　グループで協議する中で、小学生や中学生だけでなく二十代の若者に対する人づくりをしたいが、実践はなかなか難しいよねという話になった。

Q　新居浜市教育委員会社会教育課　係長　曽我部　司
①　六年生を対象とした事業であるが、六年生のときに参加した児童が中学生になったときに何か事業の手伝いをするなど、中学生を引き止めるような手立てはあるか。
②　進学や就職で島外に出た子どもたちで、大人になって地元に戻ってくる子どもはどのくらいいるのか。

A　今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏
①　今までは下の学年に拡大した方が良いのかを考えていたが、学級を卒業した中学生を引き込むというやり方もあるなと感じた。持ち帰って考えていきたい。卒業した受講生を引き込むのは頭になかったので、ぜひ参考にさせていただきたい。
②　地元に帰ってくる子については、完全に把握はしていない。成人式には帰ってきてくれるが、就職となると多くはない。家業を継ぐ子はいるが、進学や就職で島外に出ていく子の方が多いのが現状である。

3　指導・助言

○新居浜市教育委員会　次長兼教育力向上推進監　髙野　智志
　今回のテーマは公民館版ＳＤＧｓであり、ふるさと学級を四十七年前に始めて半世紀にわたり持続可能でずっと続けており、テーマにふさわしい発表だったと思う。また、吉海の文化や自然を一年間で体験できる。こうした経験はなかなかできないもので、大変うらやましい講座だと思った。予算の話は大変驚いた。

Q　あまりお金はかかっていないということだが、因島に行く旅費は自己負担なのだろうか。

A　今治市吉海地域教育課（吉海学習交流館）　主査　藤田　倫宏
　水軍城などの入場料に関しては、免除していただいているため無料である。また、移動は町のマイクロバスを利用し、因島に渡る橋代は市の予算で支払うため、子どもたちに費用はかからない。

○新居浜市教育委員会　次長兼教育力向上推進監　髙野　智志
　それであれば、参加者が三人というのはもったいない。課題として少子高齢化と後継者不足が挙げられていたが、これは次の発表にも関

係してくるので後ほど話をしたい。

グループ協議も大変活発な議論をしていただいた。二十代の若者をどう巻き込むかという意見があった。先日岡山市の公民館の方と話す機会があった。その中でのことが参考になればと思う。令和二年度、新型コロナウイルス感染症により活動ができずお金が余ったので、教育委員会と話し合い、普段対象としない若者を対象にすることにした。中学生や高校生、大学生に公民館でやりたい企画はないかとチラシを配布したところ、八件の提案があり、令和二年度にそのうち二～三件程度実施したそうである。ただ、令和三年度以降は未実施であり、その理由を聞くと、中学生と大学生では手の掛かり方が異なり、行政としてどこまで関わるのか、公民館としてその提案に対してどこまで付き合って良いか、教育委員会の中で役割分担が整理できなかったということであった。ただその中でも、令和二年度に大学生が提案した「はたらくかふぇ」という講座は今でも公民館と連携して実施しているそうだ。若者たちに聞いてみるというのも一つだと思う。

分科会Ａ　未来を拓く「人づくり」を進める公民館

1　発表要旨

○東温市教育委員会　生涯学習課　係長　江﨑　寿紀

「小中学生のリーダー育成について」

1　事業について

小学四年生から六年生を対象に公民館単位で「重信わんぱく広場」と「川内わんぱく広場」の二講座を実施している。また、市内に二校ある中学校から受講者を募り、「ジュニア体験塾」を実施している。

2　「わんぱく広場」について

施設見学、二講座合同で開催する野外宿泊活動、大学生と共に学ぶプログラミング教室、地域の方と交流する郷土料理教室など、年間十回の講座を開講している。交流や活動を通じて、新しい自分の発見やリーダーシップ育成の一助となっている。

3　「ジュニア体験塾」について

職業体験や奉仕活動、主権者教育、スポーツ体験など、年間十回の講座を開催している。多くの方から学び、仲間と共に行動し、様々な体験をすることでそれまで学んできたことを改めて考え、自分自身を高める手助けとなっている。

4　人づくりとしての側面

「ジュニア体験塾」では、本市にある愛媛県警機動隊庁舎の施設見学や装備品体験を行った。見学前には警察業務に興味のある受講者は少なかったが、見学や体験後には半数以上の受講者が警察業務に興味を持つなど、受講者の意識の変容を確認することができた。

本市の成人式は、新成人有志による実行委員会形式で開催している。令和三年度の成人式にも、実行委員として協力したいという「わんぱく広場」や「ジュニア体験塾」の元受講者が多くいた。こうした自発的な行動は、人づくり・リーダー育成を目的として実施してきた講座が一助になっていると考える。

課題として、今後も事業を継続するには、多くの小・中学生に興味を持ってもらえる講座を実施することが必要である。

2　質疑応答・グループ協議

Q　宇和島市立宇和津公民館　主事　宮本　圭

①　中学校や高校での職場体験学習はあるが、ジュニア体験塾で中学生を集めるのは難しいことだと思う。どのように中学生を集めているのか。

②　県警機動隊など様々な職場が挙げられていたが、地域の繋がりがあってこのような活動ができるのか。また、「わんぱく広場」の中で「大学生と連携している。」とか「外国人と国際交流をしている。」とさらりと言われていて、大変驚いている。どのような繋がりでそういったことができたのか。

③　参加希望者が多かった場合、どのような抽選をしているのか。

A　東温市教育委員会生涯学習課　係長　江﨑　寿紀

①「わんぱく広場」は三十五年の歴史があり、子どもに浸透している。また、対象年齢を区切っていないため、「わんぱく広場」の受講者が「ジュニア体験塾」にシフトしたり、一年生の時に受講した子が二年生になって受講する際に他の子を連れてきたりする。各中学校にチラシを配り案内している。県警機動隊本部を始め、市内にある職場と連携を取り、ローテーションしながら実施するなど変化を持たせるようにしている。

②　外国人講師は、学校教育課の国際理解教育推進事業を取り込み、ＡＬＴにお願いしている。大学講師が東温市の地域コーディネーターである繋がりから、東雲大学保育課程の学生が実習として協力してくれている。また、今年度、地域学校協働活動推進員から愛媛大学医学部のボランティアサークルに情報提供してもらったところ、学校・家庭・地域連携推進事業の協働活動サポーター制度に登録してくれている。

③　参加者の抽選は、原始的な抽選棒を使って行っている。

Q　松山市小野公民館　主事　西下　郁馬

「わんぱく防災フェスタ」の内容を詳しく教えてほしい。

A　東温市教育委員会生涯学習課　係長　江﨑　寿紀

重信・「川内わんぱく広場」で合同開催し、主に防災クイズと起震車体験を行った。防災クイズは○×式の十問で、全問正解を目指してもらう。その後、クイズを行った部屋を暗くし、懐中電灯の光をランタンのように広げるにはどのようにすれば良いか、体験してもらった。起震車は県の消防学校から借り、本市危機管理課の職員に操作してもらった。みきゃんは無料でレンタルした。

Q　第四グループ

①　ジュニア体験塾と公民館との関わりについて教えてほしい。

②　予算はどうしているか、公民館にある程度配分されているのか、あるいは全て生涯学習課が対応しているのかなど教えてほしい。

A　東温市教育委員会生涯学習課　係長　江﨑　寿紀

①　市内二つの中学校で構成されているため、両地区にある公民館を活動拠点としている。

②　本事業は学校・家庭・地域連携推進事業の土曜教育活動として実施しており、三分の二が国と県の補助である。お金は生涯学習課が処理しており、公民館は活動拠点のみでお金は触っていない。

3　指導・助言

○新居浜市教育委員会　次長兼教育力向上推進監　髙野　智志

よく工夫されている。地理的にも恵まれていて、西に松山市、北に今治市、東に西条市と新居浜市があり、連携しやすい環境にある。午前の全体会で「子どもが郷土に愛着心を持つ講座を」という話があったが、まさに本日発表した二つの講座はそれに当たるものである。自然体験や地域活動を多く行っている子どもの方が自己肯定感が高い、また、探求心が身に付いている傾向があるという結果も出されている。

Q　ジュニア体験塾で奉仕活動を二回取り入れてあるが、どんなことをしているか。プログラムは誰がどのように決めているのか。

A　東温市教育委員会生涯学習課　係長　江﨑　寿紀

地区の団体と連携する機会と捉えており、地区の方と一緒に活動する際と、登山ハイキングの際に、ボランティアで登山道の整備をしている地区の方と一緒にハイキングと併せて行っている。

プログラムは、本事業の担当が決めている。キャンプや海洋学習など、出席率が高い、人気のある講座は残しつつ、「わんぱく広場」のプログラミング講座のように今の時勢に合ったものを取り入れるなど、担当が考えてグループ内で決定している。

○新居浜市教育委員会　次長兼教育力向上推進監　髙野　智志

午前の会で、地域づくりにどう参加するかが話題になった。今治市の発表のところでも質問にあった「人の循環」というのが一つのキー

ワードになる。新居浜市の取組みでは、中学生が小学生に放課後勉強を教えている。他の地域でもしているところがあるかもしれない。夏休みに帰省した大学生が公民館に来てくれて中学生や小学生に勉強を教えてくれる様子は、メディアにも取り上げられている。大学生になぜ教えに来てくれたのか尋ねると、「自分もしてもらったから。」と答えてくれた。「愛着心」というか、「恩送り」というか、こういったことは忘れないのだなと感じた。今治市の課題として少子化や高齢化が問題となっていたが、これはもう間違いなく日本全国で進んでいくと思う。そこで、少子化や高齢化をマイナス面として捉えても仕方がないと考えている。

今日皆さんのお話を伺っていると、今行っている事業をそれぞれ単独で続けていくのは難しい時期を迎えていると感じる。例えば、他の地域と連携して実施すれば、負担も半分になるし、関係団体もできることをやっていくことができるのではないだろうか。そんなやり方もあって良いのではないだろうか。また、ある地域で事前に子どもたちに指導をし、自分たちの地域の歴史を違う地域の子どもたちに教えることもできる。自分の地域の良さを伝えることで子どもたちの郷土愛も更に深まっていく取組みができる。互いの文化を理解しながら、愛媛県内の各地域で連携することにより、自分たちの文化だけではなく、相手の文化も知ることができ、子どもたちの文化が広がることになるのではないだろうか。

さらに、今日お話を聞いて一番印象的だったのは、両事業とも大変お金のかからない、親の収入に影響しないで参加できるということである。体験活動とか学習塾に行っている子どもの多くは、親の収入が相対的に高いというデータが出ているが、今日発表してくださった活動はどちらもお金がかからないもので、親も安心して参加させられる取組みであった。その意味でも大変すばらしい。

分科会B　持続可能な「地域づくり」に取り組む公民館

1　発表要旨

○大洲市柳沢公民館　係長　河野　誠

「ゲンジボタルを守り育て発信する地域づくり」

1　地域の概要

柳沢地域は、農業と林業を主な生業とする山間地である。人口は、令和四年四月一日時点で四一二人（高齢化率六〇・一％）であり、市内でも少子高齢化が急速に進んでいる地域である。柳沢地域に保育所、小・中学校、交番などの行政機関や医療機関は無いが、「地域おこし」活動が活発である。

2　柳沢げんじぼたる保存会について

「矢落川のゲンジボタルの発生地」の環境を守り続けていくことを目的に、平成元年に「柳沢げんじぼたる保存会」が結成された。この会は、柳沢地域住民や地域外の賛同者で構成され、様々な環境整備や保護活動などを行っている。

3　ホタルボランティアガイド活動について

ガイド会員は、田処農業活性化センターへの展示や柳沢地域の紹介、ゲンジボタルの生態の説明などを行っている。また、新谷小学校のふるさと学習の一環で授業を行うなど、学校との連携にも力を入れている。

4　柳沢ほたる祭りについて

「柳沢ほたる祭り」は、地域住民や各種団体が実行委員会を組織して企画・運営する、地域の一大イベントである。この祭りでは、地域の伝統文化芸能「藤縄神楽」の演舞をはじめ、柳沢地域の伝統文化や食文化、自然に触れる様々な催しがある。

5　今後に向けて

柳沢地域を象徴するイベントになった「柳沢ほたる祭り」は、地域づくりの中核となり、地域住民の活躍の場、交流の場として住民同士の連帯感につながっている。この祭りの開催にとどまらず、ゲ

ンジボタルを守り育て発信する活動を通じ、持続可能な地域づくりを相互に連携し、継続していく。

2　質疑応答・グループ協議

Q　第三グループ

①「5　今後に向けて」のところで中身を整理整頓すると説明していたが、具体的にどうしていくのか。

②　出店者の整理は具体的にどうしていくのか。

A　大洲市柳沢公民館　係長　河野　誠

①　数年後には、人口が現在よりも六割弱まで減少する見込みで、行事開催における地域のマンパワー不足が予想される。人口減少に伴う「柳沢ほたる祭り」の運営、祭りの期間短縮や出店者の減少に対する整理整頓などについて、運営委員会に投げ掛けている。また、新型コロナウイルス感染症で、三年間祭りの中止が続き、来年度も中止が続けば再開が負担となってくる。そのため、来年度の開催に向けて準備を着実に進めていく必要がある。さらに、次の担い手として地域おこし協力隊に期待をしている。現在大洲市の地域おこし協力隊に県外から来られた方が四名在籍している。その内の二名が柳沢地域を希望され、移住してくださる予定である。若い力に期待をしている。

②　今までは地域の人たちが主体となって出店してきた。あくまで自分自身の考えだが、若い世代をターゲットにするならば、キッチンカーなどを呼ぶのもいいと思う。ただ、運営の主体は地域の方のため、地域の方に決めてもらう。

Q　第二十一グループ　松山市久米公民館　館長　玉井　徳雄

①　イベントを継続する上で公民館が一番苦労したことは何か。

②　五十年以上続く「柳沢ほたる祭り」の役員の世代交代は、どのようにしているのか。

A　大洲市柳沢公民館　係長　河野　誠

①　柳沢地域だけではこの祭りの運営等を賄うことができない。そのため、周辺地区や市職員が協力して行っている。人手不足によるバックアップが苦労する点だと思う。

②「柳沢ほたる祭り」の実行委員は、地域の自治会長等が役員を担っている。自治会長が交代となれば、必然と役員も交代となる。

Q　第十六グループ　大洲市肱南公民館　係長　三瀬　奈津江

会場まで案内する「のぼり旗」は一本二千円で寄付を募るとあったが、何本立てるのか。旗を立てるのは誰か。旗の素材は何か。

A　大洲市柳沢公民館　係長　河野　誠

旗の本数は、何百本とある。今年度の実施に向けて新調した旗は二五〇本あり、その内、二一〇本の寄付をしてもらっている。旗の素材は、祭りの雰囲気を出すため布製（天竺）の旗としており、手製の竹の竿に取り付けている。旗の取り付けは公民館職員でも行うが、主に地域の方が取り付けている。

Q　第七グループ　西予市教育委員会明浜教育課　係長　稲葉　真実

①　柳沢げんじぼたる保存会の構成メンバーは誰か。

②「柳沢ほたる祭り」開催時の駐車場はどうしているか。

A　大洲市柳沢公民館　係長　河野　誠

①　柳沢げんじぼたる保存会は、地域の方々で構成され、年会費一口千円を徴収している。この会の役員は、会長が柳沢公民館館長、副会長が地域の方となっている。また、柳沢地区は三つに分かれており、その三地区の代表者も役員である。

②「柳沢ほたる祭り」は、小学校のグラウンドを活用して開催している。

柳沢地域にはもう一つグラウンドがあり、そこを駐車場として利用している。加えて、県道の待避所も駐車場として利用している。山間部であるため、駐車場所の確保には苦労している。

3　指導・助言

○西条市大町公民館　館長　浜田　誠一

様々な意見が出たが、今行っている柳沢地域にある自然を活用した「柳沢ほたる祭り」をメインイベントとして成功させるには、ホタルが多くいることである。なぜなら、少ないとお客様に来てもらえないからである。そのために、柳沢地域の人々の協力が必要であり、さらに大洲市の地域全体で助け合い、活動を盛り上げていくなど、輪を大きくしていくことが大事である。

「柳沢ほたる祭り」は二日間にわたり開催される。例えば閉校した小学校を活用して、一時的な宿泊施設として使用したり、グラウンドでグランピングなどができるようにしたりして、宿泊ができるようにして集客することも検討してみても良いと感じた。

これから柳沢地域の高齢化が進んでいく。これらの活動を継続し、盛大にしていくためには、やはり人がいる。柳沢地域だけでなく輪を広げていき、大洲の資源として守っていってほしい。

分科会B　持続可能な「地域づくり」に取り組む公民館

1　発表要旨

○上島町弓削中央公民館　主事　角谷　有一

「ふるさとへの思いを育てる公民館活動」

1　町の概要

上島町は、魚島村、弓削町、生名村、岩城村の四町村が合併した、芸予諸島の最東端に位置する町である。平成二十七年には、町ゆかりの国宝「東寺百合文書」が世界ユネスコ記憶遺産に登録された。令和三年には、弓削島荘遺跡が国指定史跡に指定されるなど、歴史や文化に彩られる町である。

2　公民館の現状

町内全ての公民館が無人のため、公民館を利用した事業は減少している。また、弓削中央公民館は老朽化により取り壊す予定である。館長及び主事を兼務している教育課職員が、地域社会全体の教育力の向上に繋がる公民館活動の継続に使命を感じている。

3　地域の特色を生かした取組みについて

(1)　歴史伝承活動

弓削島に伝わる「雨乞い踊り」の伝承活動を行っている。各地区の文化祭や学校行事等で披露され、文化振興や町の活性化にも貢献している。また、子どもたちの伝統文化への理解を深め、故郷への思いを育むことに繋がっている。

(2)　「かみゆげ小さな文化祭」

この文化祭は、地域の高齢者の方々が立ち上げから関わり運営していることが魅力の一つである。子どもたちから高齢者まで様々な人がアイデアを出し合い、公民館の主要行事を展開している。

4　おわりに

発掘した地域人材が活躍できる場の提供や、歴史や文化といった地域財産の活用などを、他の世代や取組みにどのように広げていくかが課題である。上島町で育った子どもたちが、故郷で暮らしたい

と思うような地域づくりに取り組みたい。

2 質疑応答・グループ協議

Q 第二十二グループ

① 「雨乞い踊り」は誰が指導し、練習はどこで行っているのか。

② 公民館はなぜ無人館なのか。加えて、中央公民館の取り壊し後はどうするのか。住民の集う場所はどうなるのか。

A 上島町弓削中央公民館　主事　角谷　有一

① 「雨乞い踊り」は、毎週水曜日に、弓削小学校の体育館を利用し、代々受け継いでいる地域の方が指導している。

② 老朽化による建て替え等があるため。また、今後は弓削高校の魅力化で寮としても活用される予定である。

Q 第十九グループ　宇和島市立住吉公民館　館長　河野　正

① 以前の人口はどれくらいか。人口推移を教えてほしい。

② 「雨乞い踊り」に、地区の人はどれくらい見に来るのか。

③ 「かみゆげ小さな文化祭」は、限られた地区で行われているのか。また、今後どのように発展させていきたいか。

④ この他、どんな地域おこしを考えているか。

⑤ 災害が発生した時の対応はどのようにしているか。

⑥ 無人館になっている公民館はどのように利用されているか。

A 上島町弓削中央公民館
主事　角谷　有一

① 具体的な数は分かりかねるが他市町と同様人口は減少している。

② 地区の運動会などで発表し、地域の人に披露してより多くの人に知ってもらっている。

③ 上弓削地区で開催している。その理由は、町での大きな文化祭だと、移動手段がない等参加できない高齢者がいる。移動しやすい地元でできるように、地域の人たちが始めた。特定地域での行事に他の人が参加できるように協力していきたい。

④ 地域の人たちの協力を得ながら、「雨乞い踊り」や文化祭等の行事を盛り上げ、地域おこしにつなげていけたらと思う。

⑤ 台風が来た時に避難所として活用している公民館もある。実際に災害等があった場合に、公民館の利用を案内したことがある。

⑥ 無人館ではあるが、特定の団体が使用し、他地区町民が活用していない状況のため、使用状況は分かりやすいと感じている。

Q 第三グループ　大洲市豊茂公民館会計年度任用職員　藤岡　章男

① 無人の公民館四館はどのような事業を行っているのか。

② 文化振興や町の活性化の貢献について具体的にどのようなことをしているか。

A 上島町弓削中央公民館　主事　角谷　有一

① 公民館活動としては、「こども教室」や「雨乞い踊り」の練習、体験教室等を行っている。

② 様々な活動に地域の方に参加してもらい、「雨乞い踊り」を始め、まだ知らない文化に触れて楽しんでもらうことで、町の活性化につないでいる。

Q 第八グループ　四国中央市天満公民館　館長　秦　英治郎

「地域づくり」というテーマについて、行政が公民館を運営するのではなく、地域で公民館の運営をお願いするような時代になりつつあり、動いている市もある。今後将来、公民館がコミュニティセンター化したときの地域づくりの在り方など、具体的な施策がある公民館は教えてほしい。

A 西条市大町公民館　館長　浜田　誠一

新型コロナウイルス感染症であまり活動はできていないが、西条市の大町公民館では、連合自治会が公民館運営に参画している。また、大町地区の企業や団体などが、垣根を超えて活動できる「大町

地域づくり協議会」がある。その中には小・中学校、高等学校も含まれている。小・中学校ではコミュニティ・スクールを進めており、地域と公民館、そして学校が一体となって地域を盛り上げていこうとしている。

3　指導・助言

○西条市大町公民館　館長　浜田　誠一

「雨乞い踊り」等の伝統文化の継承活動は、高齢者から若者や子どもへ、世代を問わず関わることができる。各年代等を含めてコミュニティができ、地域の活性化へとつながっていく。柳沢公民館、上島町弓削公民館共に、地域と一体となって行事を盛り上げて活動している。今後も地域づくりを継続してほしい。

分科会C　「学びの拠点」としての機能を発揮する公民館

1　発表要旨

○砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

「『学びの拠点』中央公民館の現状と課題」

1　砥部町と中央公民館の概要

砥部町は松山市に隣接し、若い町として知られていた。しかし、平成一七年をピークに人口が減少し、高齢化率は三四．三二％、県内一三位となっている。

三つの公民館は条例設置。五一の分館は自治会の設置となっている。中央公民館は昭和五二年に開設し、学びの拠点として教室を行ってきた。令和元年に耐震工事を行った。体育館、調理室、講座室、実習室があり、様々な講座に対応している。

2　学びの場

「とべっ子文化の広場教室」として教室を開講。前期、後期、一二回ずつ、一回受講料五〇〇円、講師料は五〇〇〇円。受講料と町の予算で賄っている。

(1)　とべっ子文化の広場教室

昨年度の実績は二六教室二三六人。令和元年度の大規模改修で減少し、受講者数が戻らない。令和四年度は若い人を対象の講座、ギター初心者、子ども習字、フラダンスを開講した。

(2)　芸術文化フェスタとみなくる芸能発表会

十一月に作品発表会、芸能発表会を集約して、開催している。出品者、参加者ともに減少している。

3　現状と課題

現状把握のために行ったアンケート調査では、教室に対する満足度は高いが、固定化しているので、新規を増やす、働いている人が利用しやすい、情報発信の工夫などの改善に取り組んでいる。

4　今後の取組み

教室は身近な公民館を利用して、低料金で、地域の人ともに町内

の指導者に学ぶ場であることを念頭に新しい取り組みを行い、学ぶ場を提供したい。

2　質疑応答・グループ協議

Q　第九グループ

①　受講料徴収、講師料の財源はどうなっているのか。

②　本物を見てもらう新しい取組みを行ってみたらどうか。受講者が学ぶだけではなく、披露する場を設けるということが大切ではないか。

A　砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

①　講師料は受講料と町の一般財源で賄っている。

②　披露する場として、芸術文化フェスティバルで陶芸や書道、絵画、生け花等の作品展示を行い、成果発表の場としている。また、芸能発表会もある。カラオケ、尺八、琴などの成果を発表する場としている。

Q　第八グループ

①　建物の建て替えをきっかけに、多くの受講生が辞め、その後も受講生の人数が以前ほどまで回復しなかったのは、マンネリ化等の理由があったのではないか。

②　今年度から、若い人を取り込むために、ギター教室等の新しい教室を開設されている。講師選定と講座内容の決定の仕方について、教えてほしい。

A　砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

①　建て替えでプレハブを使用する状況になり、ある教室は休むこととなったため、受講者が減った。

②　新しい教室を立ち上げる時の講師の探し方は、まず広報で募集する。書道や生花は応募があるが、他には人づてで探している状況である。内容については、新しい教室の場合、指導者になる方と時間や内容の調整をしている。

Q　松山市余土公民館　館長　戸井田　樂

松山市の場合は、松山市からの公民館に対する事業予算、地域からの負担金で事業を賄っている。基本的に受講者からは、受講料は取らない。講師の先生方には講師料を支払う。受講料を徴収すると、参加者は松山市の場合はほとんどいないと思う。受講料が高いからという抵抗はないのか。

A　砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

受講料については、アンケートの中で満足度が非常に高い結果が出ており、心配はしていない。

Q　松山市久枝公民館　館長　村上　勝利

松山市は、民間や個人で教室をされているところが多くある。町直営で低料金であれば、反発は出ないか。

A　砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

反発はない。町直営で実施する必要があるかを検討し、身近な公民館を利用して、低料金で、町内の指導者に学ぶ場として、取り組んでいる。

Q　伊予市上野地区公民館　主事　宮岡　玄

高校生向けとしてギター初心者教室の開講があったが、今の時代、分かりやすいギターの弾き方動画を視聴することができる。ギター教室を行う際には未経験の高校生が対象か。それともギターを持っている高校生が対象か。どういった形態で実施するのか。

A　砥部町中央公民館　館長　松下　寛志

昨年行ったアンケート結果をもとに、教室の指導者と面談をした。その時に、ギター教室の指導者から提案があった。指導者も中高生の頃に、ギターに興味を持った。長期休暇の間に数回、ギターに触れる機会を設けようということになった。指導者と協議をし、まず、単発の講座を実施する予定である。ギターの調達は、指導者が団体から借用する。指導者も数本持っているので、何本か用意をして、貸すことになっている。単発の講座として、高校生にまず触れ

てもらうという企画である。まだ、高校生向けの講座をこれからやってみようという段階である。

3 指導・助言

○伊予市双海地区公民館　館長　森田　清延

公民館はなぜ、学びの拠点なのか。公民館の目的とか、果たすべき役割、機能をしっかりと押さえないと、学びの拠点とは言えない。

分科会C　「学びの拠点」としての機能を発揮する公民館

1 発表要旨

○八幡浜市立神山地区公民館　主事　塩見　美紀

「公民館を拠点とした学びの発信」

1　神山地区の概要

八幡浜市の南に位置し、新興住宅地で人口が増えている。しかし、高齢化も進んでいる。

2　神山地区公民館の概要

地域活動交流拠点施設「あすもわ」を公民館の分館として運営している。自由に子どもたちが過ごせる場として活用している。

令和三年七月から地域おこし協力隊が配属され、職員は四人体制で行っている。運営方針は地域住民の協働・参画による公民館活動の推進である。

3　具体的な活動紹介

(1)　わんぱく広場

子どもたちが様々な経験ができる場所として計画している。

(2)　「神山塾」の開催

地域に誇りを持ってもらえるような講座を開講している。

(3)　「神山子ども塾」の開催

令和三年度から開塾し、退職した教員を中心に活動している。また、コミスクえひめ八幡浜支部から講師を迎えた。

(4)　「あすもわ」独自の活動

子どもたちが自由に集まれる場所として、午後五時まで開館している。

4　おわりに

土曜開催が多いため、公民館の組織を見直した。地域活動部として部を統合し、役員の負担軽減や活性化を心掛けている。地域人材を活用し、前向きに公民館活動を行いたい。

2 質疑応答・グループ協議

Q　第五グループ

①　地域おこし協力隊の方が、公民館の職員として行った事業の事例を教えてほしい。

②　地区に児童クラブがあると思うが、どういう子どもたちが活動しているのか教えてほしい。

③　「あすもわ」ができる前の居場所はどうだったのか。

A　八幡浜市立神山地区公民館　主事　塩見　美紀

①　地域おこし協力隊は、午前中に公民館に出勤して、職員と一緒に公民館行事の仕事をしている。午後は、地域おこし協力隊が企画した事業について、「あすもわ」で公民館職員も一緒になって実施している。例えば、ハロウィンを実施する場合は、企画を一緒に考えて、子どもたち用のお菓子の準備、看板作り等、様々な仕事を一緒に行っている。

②　「あすもわ」に来るのは児童クラブ以外の子どもたちである。限定はしてないので、学校から帰って、来たい子が来ている。

③　「あすもわ」は市に寄贈された空き家を利用している。

Q　第三グループ

①　ハロウィンパーティーの内容はどういうことをしているのか。

②　写真に「あすもわ」の遊具が写っていたが、遊具は何があるの

か教えてほしい。

A　八幡浜市立神山地区公民館　主事　塩見　美紀

①　ハロウィンでは、スタンプラリーをする。公民館、小学校等、五か所ぐらいを回り、最後は「あすもわ」でお菓子をもらう。地域の方のところに、スタンプを置かせていただいて、子どもたちがスタンプラリーの紙を持って、自分たちで探す。仮装して来る子どももいるが、発泡スチロールで、子どもたちにかわいらしい飾りを作るワークショップを行う。

②　遊具は、寄贈してもらった。小型のビリヤードやモグラたたきがある。

A　八幡浜市立神山地区公民館　館長　木下　恵介

②　子どもたちは「あすもわ」にゲームを持ってきて、自由に遊んでいる。ただ、「あすもわ」では、地域の方々が作った昔懐かしいゴム鉄砲等のアナログ的なものも置いている。また、子どもたちは、鬼ごっこ、かくれんぼ、野球等をして、外で遊ぶことも多い。

3　指導・助言

○伊予市双海地区公民館　館長　森田　清延

社会教育法の第二十条には、公民館の目的が、同法の二十二条の第一項から六項には、事業が明記されている。また、目的が四つある。

①　公民館は個人の学びを豊かにすること。
②　学びによる絆づくりを進めること。
③　学びの成果を地域に生かすこと。
④　人づくりから地域づくりにつなげること。

さらに、役割と機能として四つある。

①　人々の学習ニーズに応じた学習機会の提供。
②　地域における学習・活動の拠点。
③　多様な機関・団体との連携、ネットワークの拠点。
④　学習成果を生かした活動の場や機会の提供。

公民館は、一人一人への学びの支援を通じて、相互に応援し合うつながりをつくり、主体的・協働的に、地域の諸課題等の解決に向き合う人を育むために、学びの拠点として機能を発揮していく必要がある。

「人づくりから地域づくりへ」とよく聞く。人づくりと言っても、人がいないと、人づくりもできないという話も聞く。確かに人口減少に歯止めが効かない状況である。しかし、様々な方法で、地域を盛り上げていく必要がある。地域を盛り上げるためには、やはり人をつくっていく必要があり、人が育たないと盛り上がっていかない。

そのためにまずは、「学びのきっかけづくり」を工夫することが大切である。地域住民が自ら「学ぶ」という行為に至るためには、興味・関心を高めることが必要である。私も学ぶのは嫌い。しかし、一生学び続け、成長する必要がある。歳を重ねても学びはある。それを求めていくための根底には、興味・関心がある。興味・関心を高めるためには、地域住民に身近で、目的をみんなと共有しやすいテーマを選定し、それぞれの知恵、知識、経験を出し合いながら、楽しく、そしてやりがいを持ってできるような、学びの活動の機会を作ることが大切である。楽しくなかったら続かない。しかし、楽しさだけを求めると、それもいけない。楽しくやりながら、やっていることが、何か自分や人、地域のためになっているといったやりがいを感じるような取組みを継続していけば、地域住民のつながりを強めることができる。自身の生きがいを見つけて、次の学びにつながっていく。

次に、「自主的、または他機関と共同で、多様な機会を提供すること」についてである。形式や学習内容、方法論は様々である。また、地域住民一人一人の学びに対する興味・関心も様々である。その中で、公民館は、多様な学習機会を提供し、地域住民の主体的・協働的な学びを通じて、「地域課題解決」の取組みを、様々な側面から支援、コーディネートする役割が大切である。つまり、課題の発見、共有、解決の三段階を意識しながら、「地域課題解決型」の学びを実践することで、主体的にかつ地域に関わろうとする地域住民が育っていくことが大切である。

さらに、複雑、多様化する社会の中で解決すべき課題は様々で、

背景とか要因が複雑に絡み合っており、既存の組織が、独自で業務遂行をして完結する自前主義で解決するには限界がある。様々なところが絡み合って解決しないといけない問題が目の前にたくさんある。そういうネットワークを広げ、自前主義という考え方から脱却していかなければならない。

最後に、午前中の鼎談でも言われていたが、公民館の職員がしっかりしないといけない。要は、私たち公民館職員の果たすべき役割が一番大切である。異なる地域性とか地域課題があったとしても、公民館職員が果たすべき使命は、「学びによる支援」「学びに対する支援」の二つである。学びによる支援は、学習プログラム開発が柱となり、学びに対する支援は、学ぶ意欲のある人や学ぶ必要性を感じている人、学び続けている人に対する支援が柱になっている。

学びの拠点として、役割を果たすためには、地域の住民が学ぶだけではなく、公民館職員がまず学び続け、地域住民のリードオフマンとなり、強力な支援者であるべきだ。

数年前の中四国大会に参加したときに、「公民館職員は、背中で地域住民を指導すべき」という話があった。まさにその通りで、公民館職員の背中がしょぼんとしていたら、地域住民がついてくるわけはない。そのためには、職員が自らしっかりと学んで、地域住民とともに歩んでいくことが大事である。

これからの公民館職員は地域住民と地域ビジョンを描けるような学びをすることが大切である。そのために、五つの力が必要。一つ目は、コーディネート力、つなぐ力。二つ目は、ファシリテート力、引き出す力。三つ目は、プレゼンテーション力、伝える力。四つ目はコミュニケーション力、関わる力。五つ目は企画・立案力、生み出す力。こういった五つの力が公民館に携わる職員には必要である。

お互い地域住民に根を張った活動ができる公民館でありたい。またそうあるべきではないかと思う。

分科会D　人・モノ・ことをつなぎ、「コーディネート」する公民館

1　発表要旨

○四国中央市関川公民館　館長　寺尾　晴志

「人と人の絆を繋ぐ公民館」

1　関川地区の概要

四国中央市の西の端にあり、令和四年四月一日現在、人口二五八二人、世帯数一一七二、高齢化率は四十二％の山間の地区である。地区内には小学校一校、保育園二園があり、小規模の兼業農家が多い。

2　地域課題の解消に向けて

(1)　地域住民への働きかけ

子どもの数が減り、小学校がなくなるのではという地域住民の危機感が高まった。そこで、住民アンケートを実施し、「少子高齢化対策」「生活環境の改善」「関川の活性化」の三つの課題でワークショップを開催した。これらの課題に取り組み、地域を活性化するために「みらいの関川を考える会」を立ち上げた。

(2)　移動スーパーの受入れ

車を運転しない高齢者が買い物弱者となっている問題を解消するために、移動スーパーの受け入れに取り組んだ。協議を重ね、民生委員や自治会長の協力を得て、関川地区二ルートの販売がスタートした。

(3)　学生ソーシャルビジネスプランコンテスト in 関川

地域を活性化させるためには、将来を担う中学生・高校生の意見が必要である。そこで、学生からアイデアを募集する「学生SBPコンテスト in 関川」を行うことを決定した。

(4)　集落活性化意識醸成支援事業

えひめ地域活力創造センターの集落活性化意識醸成支援事業に取り組んでいる。

3　成果と今後の課題

「みらいの関川を考える会」を立ち上げたことで、若者の声を聞くことができ、若い世代が地域を動かそうとしている。地域課題の解消や、新しいコミュニティづくりを進めたい。

2　質疑応答・グループ協議

Q　第二グループ

①「みらいの関川を考える会」は今後もアイデアを出し続ける組織になるのか、それとも実効性を伴う組織になっていくのか、今後の方向性を教えてほしい。

②　会員はどのように募集したのか。役員の役割はどのようになっているのか。

A　四国中央市関川公民館　館長　寺尾　晴志

①　事業を実施する中で問題を解決し進めている。考える会と市で五か年計画を策定して進める予定である。移動スーパーに関しても、車が停まっているところまで行けない人をどうするのかなど課題が出てきている。話合いを行い、課題を解決しながら進めたい。

②　会員は自主的に入会するが、若手が集まらないのが課題である。役割分担は、その都度何人かリーダーを選出し、事業を進めている。今後は会長を中心に進めていきたい。

○　第八グループ

コロナ禍でここ二年ほど行事ができていないが、行事を再開する中でどうするのかが課題である。再開するときに、二年前までやってきたことをそのまま行うのが良いのか、それとも県の公民館ＳＤＧｓに基づいて努力していくべきなのか。それがこれから事業再開に向けての公民館の姿勢になっていくのではないか。内子町さんの取組みとして、屋内がだめなら屋外で何かできないかと考え、飲食は禁止しながらもマルシェのようなことをしたという取組みを教えていただいた。活動再開にあたっては、ひと工夫しながら進めていくべきである。

Q　伊予市中山地区公民館　館長　武智　亨

事業を再開するにあたって、何か工夫して事業を行ったということがあれば教えていただきたい。

A　四国中央市関川公民館　館長　寺尾　晴志

公民館祭だけは、飲食はせず展示だけでもできることからしようとしている。事業についても以前のようなソフトボール大会などをすることは不可能である。高齢化も進み、人数も集まりにくくなっているので、みんなが参加しやすいものに変えるなど、見直しを進めている。

○　松山市潮見公民館　館長　中西　恒博

松山市潮見公民館では、成人式のみ実施した。以前は飲食を伴って行っていたが、現在はそのようなことは行えない。そこで体育館を借り、椅子の配置を工夫し密にならないようにした。式典のみとし、保護者等の出席を不可とした。

Q　第十一グループ

移動スーパーがない時はどのようにしていたのか。

A　四国中央市関川公民館　館長　寺尾　晴志

公共交通機関を利用していたが、一時間に一便のため、大変困っていた。地区内に店舗は一店舗のみであり、買い物に行きにくい人がいた。移動スーパーによって、便利になったが、そこまで行きにくい人や、移動スーパーが来ても買い物をされないところがあり、課題となっている。

○　第十一グループ

主事にもいろいろな立場の人がいる。三年くらいで主事が交代することが多

い。地元出身でない主事が着任した場合は、ワークショップが、課題を見つけたり組織を動かしたりするには良い手法になる。

3　指導・助言

○愛南町菊川公民館　公民館運営審議会委員　中田　非斗志

コロナ禍の中で公民館活動が制限されている。私が関わっている菊川公民館でも、活動を中止してきた。しかし、完全に何もしないのではなく、「参加者を募らなくてもこうしたらどうなるだろうか」というシミュレーションを行うなど、職員の研修をすることが出来たのではないかと考えている。中止にするのではなく、何かの形で継続すべきであった。大変な時期はあったが、公民館側が、「こうすればできるのではないか」、「再開した時はこうしたら良いのではないか」と考える良い時期であったのではないか。

これから様々な活動が再開されていくと思われる。再開していった後、完全に新しいものに変えていくことはできない。これまで踏襲してきたことを改善しながら行っていけば良いのではないか。その為にも、事業を継続していくという視点が大切になってくる。

地域に公民館主事が足を運び、地域の状況を把握し、地域の意見を取り入れながら、活動を進めていけると良い。その為には、時間的な余裕が必要になる。公民館が地域の核となりながら、地域の課題解決に向けて頑張ってほしい。

分科会D　人・モノ・ことをつなぎ、「コーディネート」する公民館

1　発表要旨

○西予市中筋公民館　主事　兵頭　智

「世界一の大門松事業」

1　事業背景

当地区にとって、小学校や幼稚園は様々な活動の核の一つとして大きな役割を果たしてきた。しかし、少子化の波は止められず、小学校及び幼稚園は閉校、閉園となった。地区内から子どもたちの声が消えてしまい、「さみしくなったなぁ。」という声をよく耳にする。このままではいけないと、ワークショップを開催し、「地区の良いところ」「地区の問題点（課題）」を意見として出してもらった。

2　組織改革

ワークショップで出た意見をもとに、どのようにすれば、地区の活性化が図れるかを検討し、活動の幅を広げるため、「新・自治振興会」を結成した。

地区からの声を集約する中で、「世界一」がある地区を目指すことにした。

3　西予市手上げ型交付金

この交付金は、「自分たちの地域を、自分たちの手で」を基本理念に地域住民が主体となった地域活動に交付されるものである。交付限度額三百万円（現在は二百万円）最長で三年間いただけるものである。三年連続で満額査定をいただき、大門松の制作に充てることができた。

4　現在の大門松事業

平成二十九年度から平成三十一年度まで交付金を活用し、大門松を制作した。四年目以降は交付金の支援がないことから、地区住民のボランティアで家庭用・事業所用門松を制作・販売し、その事業収益を財源に充てている。

5　中筋地区のキーワード

一　あきらめない　二　皆でやる　三　ないなら、つくる

四　達間館（だちまかん）　五　地域おこし協力隊　六　大学生

2　質疑応答・グループ協議

Q　第一グループ

①　世界一を名乗る大門松であるが、ギネスへの登録はどうなっているのか。

②　市からの手上げ交付金がなくなった後の財源はどうしたのか。

③　地域おこし協力隊の活用方法に悩んでいる地域もあるが、中筋地区では、地域おこし協力隊をどのように活用しているか。

A　西予市中筋公民館　主事　兵頭　智

①　当初はギネスへの登録を狙っていた。しかし、ギネスに登録するには二百万円程度の費用がかかる。二百万円あれば別の地域おこしの活動ができるのではないかと考え、登録はしていない。しかし、今後財源が確保できたらギネスへの登録を目指したい。

②　手上げ交付金終了後、活動資金を得るために話合いをした。その中で、家庭用・事業所用門松を制作し、販売することとした。竹の切り出しからみんなで協力して行い、販売したお金を大門松事業の財源として確保している。

③　地域おこし協力隊の方には、空き家の調査を行い、活用方法の検討をしてもらっている。また、地域の特産品であるこんにゃくの加工・レシピ作りをしたり、地域実行委員会で事務の打ち合わせに参加したりして地域との繋がりを持てるようにしている。

Q　第七グループ

地元で門松を制作しているが上手に作る方法を教えてほしい。また、門松づくりの後継者はどうしているのか。

A　西予市中筋公民館　主事　兵頭　智

リーダーを決めて制作している。声を掛け合って人を呼び、来た人に責任を持って取り組んでもらっている。最初は役だから来たという人も、一緒に作業をしていくうちに積極的に参加してもらえるようになり、結果的にいいものが作れるようになっている。

Q　第十二グループ

①　大門松制作について、公民館事務局の関わりはどこまでなのか。

②　大門松事業の効果はどのようなものがあり、県外からの来客もあるのか。

A　西予市中筋公民館　主事　兵頭　智

①　市長部局と教育委員会部局の兼務辞令により、地域づくりと公民館活動の二つの側面から関わりを持って事業をサポートしている。事務局としてすべての活動に参加している。

②　県外からの来客などもある。しかし、経済効果は現在のところない。まだ、ハード面の整備しかできていないので、ソフト面の整備も今後必要である。

Q　第三グループ

①　大門松の設置期間はいつまでか。

②　竹などの処分方法はどうしているのか。

A　西予市中筋公民館　主事　兵頭　智

①　毎年、一月中旬まで設置している。

②　使用した竹の一部は、必要な人に持って帰ってもら

うが、それ以外のものは処分している。竹で灯篭を作ったり、竹炭を作ったりするなど、今後は有効活用を考えていきたい。

3　指導・助言

○愛南町菊川公民館　公民館運営審議会委員　中田　非斗志

以前の公民館は、時間的な余裕や予算がある程度あった。また、理事者の理解もあり、懇親会も頻繁にあった。自分自身、懇親会の中で得るものが多かった。先輩から学んだり、同僚と悩みを語り合ったりすることができた。公民館は本音で話し合えるところがいいところである。事業終了後の懇親会はいいアイデアが出てくる学びの場であった。現在は、コロナ禍で懇親会はなかなかできないが、地域との繋がりの場として、できるようになるといい。

困った時には公民館に行けば何とかなる、という意識を住民の方が持っておられるのがいいところである。公民館は住民サイドに立って活動を進めていかなければならない。そのためには、公民館職員が時間的な余裕を持てるようになると良い。また、公民館活動を進めるにあたって、社会教育主事の資格取得を進め、より専門的な知識のある公民館主事の配置ができると良い。

大門松事業のように、地域住民と共に活動をしながら、地域の課題を解決し、より良い公民館活動を推進していってほしい。

分科会E　すべての人が安心して暮らせる「共生社会」を目指す公民館

1　発表要旨

○久万高原町公民館西谷分館　分館長　山下　元司

「公民館と学校が共同で行う人権啓発活動」

1　久万高原町の概要

久万高原町は、県内で最も広く高い中山間地の町であり、県内有数の林業地である。市町村合併時から現在まで約四割人口が減少しており、過疎化、高齢化が深刻な問題となっている。

2　西谷分館（柳谷地区）の概要

西谷分館が位置する柳谷地区は、四国カルストをはじめとした豊かな自然に囲まれている。地区内には、幼稚園・小学校があり、小学校を中心に公民館活動を推進している。

3　柳谷地区での取組み

①小学校・公民館合同運動会　②合同敬老会　③レクバレー大会　④ソフトボール大会　⑤校区別人権教育推進大会

4　人権啓発活動への取組み

柳谷地区では公民館役員や教職員、様々な団体と「柳谷小学校区運営委員会」を組織し、年一回、小学校にて「柳谷小学校区人権教育推進大会」を開催している。ある時、「運営委員会の際に例年行っている講演会方式から新しい内容に取り組んではどうか。」との意見があった。そこで、例年どおり低学年・中学年・高学年の教室で人権・同和教育の授業を参観した後、参加者は自分が興味のある授業について意見交換をするよう工夫した。その後全体会にて取りまとめ、意見交換を行った。

5　おわりに

従来の講演会方式では、参加者が受け手になりがちだが、意見交換会を行うことで、自主的に自身の考えや意見を表現できるようになる。人権問題に対しては、世代や環境により様々な考え方や意見がある。その考えや意見を、いかに私たち主催者側が引き出せるか

が鍵である。今後も地域の団体と検討・改善を行い、より良い人権啓発活動を推進したい。

2　質疑応答・グループ協議

Q　西予市教育委員会　野村教育課　林　敬次
　運営委員会において、例年の講演会方式から新しい内容を取り組んでみては、という意見があったとのことだが、そのきっかけは何か。また、ワークショップをするきっかけは何か。

A　久万高原町公民館　分館長　山下　元司
　きっかけは、講演会のお話を聞いただけで帰る方がおり、それでは意味はないのではないかという意見が多々あったことである。そこで、講演会はやめて、みんなで話ができる会にしようとした。

○　第八グループ
　人口が少ない中で工夫されている。また、学校と共同で行うことが参考になった。第八グループは大規模館が多く、全体での活動が難しい。温かい活動ができており、うらやましい。

○　第一グループ
　発表者の言葉に共感するところが多かった。学校存続が危うい小さい地区なのに小学校が二つに分かれているため、なかなか思い切った企画はできないと悩んでいる。うまくカバーしていくしかないのかと話した。

○　第二グループ
　私たちのグループにも久万高原のメンバーがいるので、みなさんの活動はどうされているのか聞いてみたところ、西谷分館と同様に小学校区に合わせて実施しているとのことであった。今回、他の市町はどういう形でされているのか勉強したい。

○　西条市田野公民館　館長　越智　均
　人権学習のマンネリ化に対して何らかの対策を取る、もしくは対策を予定しているところはないか。今までと同じような形やペースでやっているとマンネリ化するのでは、という意見がある。対策をとっているところがあれば参考にしたい。自分たちも同じテーマで、二年ほど変えてやっていこうと考えている。効果的かどうかはまだわからないが、十年以上同じパターンでやっていたので、ちょっと変えてみようと取り組んでいる。また結果発表をしたい。

Q　宇和島市立宇和津公民館　館長　堀田　昌弘
　どのように変えているのか。

A　西条市田野公民館　館長　越智　均
　今までは中学生が発表し、ＤＶＤを視聴する。その内容を小グループに分かれて話し合い、意見や感想を最後に発表する。その発表した内容も含めて教職員がまとめて、全体に問いかけるやり方であった。これをがらっと変える。講師の方に来ていただき、一つのテーマで話す。部落差別に話題を絞り、ここでグループに分かれて話し合う。グループ内で意見をまとめることはしない。

Q　宇和島市立宇和津公民館　館長　堀田　昌弘
　参加者はどういった方が参加されているのか。

A　西条市田野公民館　館長　越智　均
　地域の方や小中学校のＰＴＡの方、高齢者の方も参加している。

Q　宇和島市立宇和津公民館　館長　堀田　昌弘
　参加者はどのように集めているのか。

A　西条市田野公民館　館長　越智　均
　地域の集会なので部会を中心に役員さんが手配する。一般の方には地区の放送、ＰＴＡからはＳＮＳなどを利用して周知してもらっている。

Q　宇和島市立宇和津公民館　館長　堀田　昌弘
部落問題をテーマに実施しているが、どれくらい集まるのか。
A　西条市田野公民館　館長　越智　均
実際に来る方は三十人ほど。

Q　西条市田野公民館　館長　越智　均
あなたの地区では出席者はどうか。
A　宇和島市立宇和津公民館　館長　堀田　昌弘
部落差別となると人は来ないので、すごいと思った。

○　西条市田野公民館　館長　越智　均
今まで人権問題をしてきたが、一番大きなテーマじゃないかと思われる部落差別問題を話し合うのも必要じゃないかと。大きく舵を切って今はやっている。

3　指導・助言（後日、当日の分科会の様子を基に）

○愛南町平城公民館　公民館運営審議会　飯田　豊一
本分科会のテーマは「共生」である。文字通り「共に生きる」。共に生きるには、「共に助け合う」「共に刺激し合う」「共に考える」そして「共に喜び合う」など様々な意味がある。人口は間違いなく減っている。人が少なくなると繋がりは自然に深くなるということは残念ながら無い。そこには手立てと場所が必要である。今回は共生社会を作り上げる手立てと場の提供の方法論を伝えていただいた。
私は愛南町の学校に勤めているが、学校数は減っている。平成十八年に学校統廃合に関する基本方針が定められて既に十三校が再編され、令和五年度に合併する学校も三校ある。このような中で、間違いなく価値を高めていくのは公民館だと私は思っている。「今日の発表で何を思ったか、一つだけ言ってほしい。」と聞かれたら、「久万高原町は、人権の学びを限られた一部の人ではなく、みんなのものにしている。」と答えたい。人権問題を考える時、どうしても眉間にしわを寄せて難しい雰囲気になることもある。しかし今回は、まず柳谷小学校区運営委員会を組織し、柳谷小学校区人権教育推進大会として学校とタイアップすることで場を開き、意見交換会とすることで心を開く場所として提供されていた。
人権・同和教育は、日々の実践と経験、普段の生活すべてを通した心の学びである。だからこそ、我がこととして考えられる学びにしていかなければならない。人権の学びは、実は私たちの生活のすぐそばにいつもあって、遠い世界のことでは決してない。重い課題だと言う方がいるかもしれない同和問題も同様である。なぜ今も差別や偏見は後を絶たないのか、その大きな理由は「よく分からないし、大体差別なんて私はしていない」で済ませているからかもしれない。周囲の人間にあることを思えば、解決の糸口は私たちのすぐそばにあることは、容易に見出せるはずである。
公民館として、場を開き、心を開き、繋がらせ、共生について、我がこととしてみんなで考える人権教育の一つの大きな取組みを見せていただいた。

分科会E　すべての人が安心して暮らせる「共生社会」を目指す公民館

1　発表要旨

○宇和島市立奥南公民館　主事　上田　和子
「公民館事業を活用した共生社会への第一歩」

1　はじめに
(1)　奥南地区の概要
宇和島市吉田町の海岸沿いに位置し、柑橘類や、魚の養殖が盛んである。地区内には小学校・保育園が存在している。
(2)　奥南地区における公民館の現状
少子高齢化に伴い各種団体の活動は衰退しているが、地域の交

流拠点として各種団体と連携し、事業を行っている。

2

(1) 人権に関する学習活動の推進

人権学習会

町内の関係団体と連携し、人権学習会を開催しており、近年は部落問題の寝た子を起こすな論について話し合った。

(2) 「みんなの広場」～公民館に泊まろう！～

小学校全児童を対象に、自主性や協調性を養うことを目的とした体験学習を開催している。今年度は公民館に宿泊し、高齢者疑似体験とモルック、調理実習などを行った。

(3) 地域サポーター座談会

奥南地区にある各自治会に地域サポーターを配置している。定期的に座談会を開催し、障がいのある人や高齢者、未就学児を持つ家族の困りごとや悩みごとを話し合っている。

3 おわりに

本地区は地域住民の繋がりが深く、子どもから高齢者まで幅広い年代が事業に参加している。今日まで各種団体と協力しながら事業を展開してきたことで、地域住民一人一人の多様な在り方を相互に認め合える社会が構築されつつある。人の温かさと心配りがにじむこの地域の絆を紡ぐため、今後も公民館が地域の交流拠点として地域住民や団体と協働し、様々な事業を展開することで問題が起こってもしなやかに解決できる地域力を育てていきたい。

2 質疑応答・グループ協議

Q 第四グループ

① 地域サポーターをどうやって選んでいるのか。

② 人数は何名いるのか。

A 宇和島市立奥南公民館　主事　上田　和子

① 地域サポーターを選ぶのはやはり難しい。婦人会で毎年お饅頭を高齢者の方に配っている。その時、会員さんに「サポーターになって地域を見守ってくれないか。」と相談したところ、趣意を汲んでいただき、サポーターになっていただいた。

② 人数は地区が十一なので十一人。サポーターは見守りだけで、民生委員さんとは違う。困ったことがあれば民生委員さんに相談したり、みんなで話し合ったりしている。

Q 宇和島市立清満公民館　中村　恵美子

地域サポーターの座談会で地区社協が中心となっているとのことだが、公民館の立ち位置はどのようなものか。

A 宇和島市立奥南公民館　主事　上田　和子

公民館は運営委員の中に入って一緒に話をしている。

Q 第三グループ

モルックというスポーツはどんなスポーツなのか。

A 宇和島市立奥南公民館　主事　上田　和子

モルックとは頭脳スポーツである。積み木のようなものを前に置き、それにボールを当てていくゲーム。有名人の方が世界大会に出場したことがきっかけでやる人が増えた。

○ 第五グループ

公民館に宿泊するキャンプは上級生が下級生の面倒を見るのでとても良い取組みだと思う。

○ 第六グループ

発表の中で公民館に宿泊する事業を紹介されていたが、西予市において今年の夏にコロナ第七波の真っ只中に三泊四日のキャンプを行った。市内小学生を対象にしたため友達の輪に入れない子もいたが、上級生がまとめてくれて無事キャンプは終わった。主な目的はご飯を炊く・火をおこすなど生活力を身に付けることだったが、相手を尊重し思いやる心を育むことができて、とてもいい経験になったのではないかと思った。

○　第七グループ

「公民館に泊まろう！」について、地域の方や婦人会、地区社協の方に協力してもらって色々な機能を盛り込んでいてすばらしい。相手の立場に立って考える高齢者の疑似体験がすばらしいという意見が班の中であった。実際に行った事例紹介となるが、公民館職員研修で身体が不自由な方の体験ができるＶＲ体験を実施した。身体が不自由な方の視点では、車から降りるだけでもビルの屋上から飛び降りるぐらいの恐さがあることや、認知症の方が実際には存在していないものが見えるという錯視体験を行ったことで、その方々の立場になって経験してみることの重要さを感じた。地域サポーター座談会については、高齢者の見守りだけではなく障がいのある人や未就学児を持つ家庭の方を対象にされているのが良いという意見があった。グループの中に宇和島の方がおり、地域サポーター向けの研修会を開催されたと聞いた。こういった研修を受ける機会が身近にあれば良いと思った。本会のテーマについて、それぞれの公民館で共生社会についてどのようなことをしているかをグループで話した際に、モルックについての事例が挙がり、用具を竹で作成した事例もあった。大洲市ではモルックに力を入れており、公民館職員研修にも取り入れている。学級講座や地区の学校活動をはじめとした交流の場などで使えるように各公民館に二セットずつ配付をしている。他の実践事例として、海外から企業への実習生を対象とした日本語教室、講演会で手話通訳や要約筆記の実施、成年後見人制度の研修等をしている。

○　第八グループ

年代によって昔の方は役を受けてくれるが、若い世代の方は無関心で役を引き受けてくれないなど、公民館活動への参加者が少なくなっている中、地域や人々の繋がりを作っていく取組みですばらしいと思った。他人ごとではなく我がこととして地域の方々やサポーターの方たちと一緒に取り組んでいくようにうまく仕掛けていると感じた。

3　指導・助言（後日、当日の分科会の様子を基に）

○愛南町平城公民館　公民館運営審議会　飯田　豊一

キーワードとなるのが、「交流拠点」である。今後、拠点となるべき学校は減少する一方である。公民館の果たす役割は非常に大きく、これから増す一方ではないか。まず人権学習会において「寝た子を起こすな論」を取り上げている。私も人権・同和教育に関わる一人として、非常にありがたい。「教えなければ知らずに済むのにと正直思う。」と言われた時、啓発する側として、指導者として明確に答えることができるのか。その答えを奥南公民館は講師が教え込むのではなく、話し合うこと・語り合うことによって導き出そうとしている。その行動こそが、人権教育の基本である「我がこととして考える」であり、我がこととして考えることは、地域住民への浸透となり、広がりになると考える。「寝た子を起こすな論」は、被差別の立場にある方に「隠して生きること」や「差別を受けても抗議せず我慢すること」を求めることにもつながる。この本質は前提として公民館を運営する者、そして指導者が深く理解しておかなければいけないことであり、考え合い・語り合うことによってのみ正しく理解され、広くそして深くなっていくものだと思う。「みんなの広場」や「地域サポーター座談会」は交流拠点としての公民館をフル活用している取組みである。協力されている方や団体は、地域住民、婦人会、地区社協、各自治会サポーター、福祉部局、そして豪雨災害をきっかけとしたＮＰＯ法人も入っている。まさに「交流のるつぼ」と言っても過言ではない。発表の中に「奥南地区は地域住民の繋がりが深く、子どもから高齢者まで幅広い年代が事業に参加している。」とあったが、「交流拠点」として、これまで奥南公民館が積み重ねてきたことの証であり、成果だと思う。人口が減ってきた地域を放っておくと繋がりは薄れ、孤独だけが広がる。新型コロナ感染拡大の問題は未だ消えず、課題は多い。そこには我慢することが必要なことも確かにある一方で、「今、何ができるのかを考える」ことは学校の務めでもあり、公民館の務めでもある。これからも公民館を「交流拠点」として活動し、地域力を高め、共に生きる力を育んでほしい。

県公連だより

令和三年度　県公連会計監査

四月七日（木）、県生涯学習センターにおいて実施。

監事二名により監査が行われた結果、令和三年度予算は適正に執行され、会計処理は正確に処理されている旨の講評がありました。

管家西予市長表敬訪問

四月二十二日（金）、管家西予市長及び松川同市教育委員会教育長を表敬訪問し、「令和四年度県公民館研究大会」を開催するにあたり、管家市長のご出席と歓迎のごあいさつを依頼するとともに、西予市管内の公民館職員の格別のご協力をお願いしました。

令和三年度　県公連第四回理事会

五月十九日（木）、県生涯学習センターにおいて開催。

理事会では、「令和四年度県公連総会提出議案」の最終審議を行うとともに、「公民館版ＳＤＧｓ」の十六の目標のピクトグラムの事前選定等を行いました。

令和四年度　愛媛県公民館連合会総会

五月十九日（木）、県生涯学習センターにおいて開催。

総会では、「令和三年度事業報告・一般会計歳入歳出決算」、「令和四年度基本方針及び事業計画(案)」、「令和四年度一般会計歳入歳出予算（案）」、「令和四年度郡市公連会費分担金（案）」、「退職金特別会計歳入歳出決算・予算（案）」、「役員の選任（任期中の交代）」等について審議し、郡市公連代表三十四名全員の賛成により全議案を可決しました

今回の役員の選任により、小西・越智・濵田理事及び武知監事が新たに選任されました。

なお、本総会での特筆すべき点は、「公民館版ＳＤＧｓ」を県公連の基本方針で決定し、県レベルの運動として普及啓発に取り組むとしたことにあります。

令和四年度　郡市公連事務局長会

五月十九日（木）の県公連総会後に開催し、県公連の運営や機関誌「伊予路」の編集計画、県公連会長表彰や県公民館研究大会等における留意点や注意事項等について説明・周知しました。

令和四年度　県公連第一回理事会

五月十九日（木）の郡市公連事務局長会後に開催し、「当面の県公連事業の実施」及び「公民館版ＳＤＧｓ普及啓発支援事業（案）」について審議し承認しました。

令和四年度　県公連主事部会会議

五月二十五日（水）、県生涯学習センターにおいて開催。

会議では、「役員の選任（任期中の交代）」、「公民館現任職員研修会・現地研修」の本年度事業計画と令和五年度の開催地の選定を行った後、「公民館版ＳＤＧｓ」・県公連事業実施計画・県公民館研究大会等の説明を行いました。

役員の選任では、中予地区の副部会長に上浮穴郡公連主事部会長が就任するとともに、令和五年度の研修地として、西条市での開催を決定しました。

令和四年度
中国・四国地区公民館連絡協議会定期会

五月二十六日（木）、岡山県生涯学習センターにおいて開催。

定期会では、「令和四年度役員の選出」、「令和三年度事業報告及び収支決算報告」、「令和四年度事業計画（案）」、「第四十四回全

国公民館研究集会岡山県大会について（開催要項・分科会役員・分科会運営・大会宣言・大会収支予算・大会役員各案）」及び「第四十五回全国公民館研究集会広島県大会概要（案）」について審議。

「第四十四回全国集会岡山県大会」については、これまでの決定事項であった参集型からオンデマンド開催に変更する案が提案され、愛媛県公連は、行動制限のないウィズコロナの時代の対応に逆行するもので、その判断は時期尚早として反対したものの、多数決により可決。その他の議案は全会一致で可決されました。

令和四年度　公民館新任職員研修会

五月三十一日（火）から六月一日（水）の二日間、県生涯学習センターへの通所形式で開催し、新任職員四十八名が参加。

研修会では、「新しい発想で生きる」と題した講話をはじめ、生涯学習・社会教育の流れや、公民館における人権・同和教育に関する講話を受講するとともに、本年度から、愛媛新聞社のご協力により、「公民館報作成の基礎」を研修課程に導入するなど、新任職員としての意識や心構えとともに、必須の基礎的知識・技能の習得に努めました。

令和四年度 公民館活動活性化ステップアップセミナー（中予・南予・東予）

中予地区は、六月二日（木）にＩＹＯ夢みらい館で開催。公民館関係者六十五名が参加し、松山市・伊予市からの事例発表と研究協議、松山市高浜公民館長の防災に係る講演を行いました。

南予地区は、六月二十四日（金）に宇和島市立岩松公民館他で開催。百六十名が参加し、（一社）キャンパス専務理事の講演（「持続可能な共生社会へのアプローチ」）のほか、西予市・宇和島市・伊方町・内子町からの事例発表と研究協議を行いました。

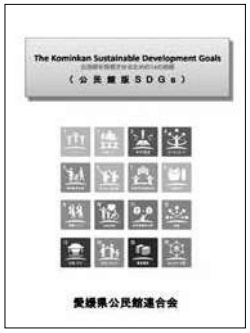
東予地区は、七月十四日（木）に川之江ふれあい交流センターで開催。百六名が参加し、新居浜市・西条市・今治市からの事例発表と研究協議を行いました。

同セミナーでは、実施主体の各教育事務所と県公連が連携し、「公民館版ＳＤＧｓ」の普及啓発を図るため、セミナーの分科会では、翌年度開催の県公民館研究大会の分科会テーマについて、一年前倒しして議論を開始するよう設定。「公民館版ＳＤＧｓ」の目標に向けて、より多くの学びを積み重ねることができるよう工夫・実施しました。

「公民館版ＳＤＧｓ」の普及啓発

六月三日（金）、「公民館版ＳＤＧｓ」のピクトグラムに関するガイドラインを作成しました。

六月四日（土）、「公民館版ＳＤＧｓ」のパンフレットを郡市公連を通じて、県内すべての公民館に配布・周知しました。



「公民館版 SDGs」パンフレット

六月六日（月）、愛媛新聞社から重信会長への「公民館版ＳＤＧｓ」に係る取材があり、記事は六月八日（水）朝刊に掲載されました。

六月七日（火）、県公連のホームページに、「公民館版ＳＤＧｓ」の特設ページを開設するとともに、チェックシートの自動集計表を追加掲載しました。

六月八日（水）、中西全国公民館連合会会長及び上村同連合会事務局長に、「公民館版ＳＤＧｓ」を手交し説明するとともに、「公民館版ＳＤＧｓ」に係る若松専門委員会委員長の寄稿文を「月刊公民館」に掲載依頼。寄稿文は、月刊公民館九月号に掲載されました。

六月十一日（土）、「公民館版ＳＤＧｓ」の各目標を目指して活動する公民館を支援いただくよう、各市町長及び教育長宛の依頼文書を施行しました。

また、「公民館版ＳＤＧｓ普及啓発支援事業」により、①七月二十九日（金）松山市公連「公民館主事研修会」、②八月十日（水）西条市公連「県公連公民館版ＳＤＧｓ研修会」、③十二月十六日（金）松山市公連「公民館長研修会」、④二月二十七日（月）南宇和郡公連「愛南町公民館研究集会」、⑤三月二日（木）八幡浜市公連「地区公民館館長・主事合同会議」、⑥三月十七日（金）宇和島市公連「館長・主事合同研修会」への若松専門委員会委員長の講師招聘を助成支援しました。

公益社団法人全国公民館連合会・第十一回定時総会

六月八日（水）、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、「令和三年度事業報告書及び決算書」、「任期満了に伴う理事の選任」、「第四十四回全国公民館研究集会」及び「令和四年度事業計画及び予算書（報告）」について審議し、全会一致で全議案が可決されました。

令和四年度　公民館新任館長研修会

六月十七日（金）、県生涯学習センターで開催し、新任館長三十五名が参加。

研修会では、公民館版ＳＤＧｓや公民館制度、人権・同和教育についての講話を受講し、公民館活動に資する知識の習得に努めました。

令和四年度　県公連第二回理事会

七月二十一日（木）、えひめ共済会館で開催。

理事会では、「県公連事業実施状況報告」、「県公連会長表彰及び感謝状贈呈候補者の選定」、「令和四年度県公民館研究大会」、「第四十四回全国集会岡山県大会」、「第四十五回全国集会広島県大会」、「今後の県公連事業の実施予定」及び「令和五年度県公連事業実施計画（案）」等について審議し、全議案を承認しました。

第五十八回県図書館講習会

関係五団体が共催し、八月二日（火）県立図書館で開催し、関係者六十一名が参加。（公民館関係者は二名）

講習会では、（一財）大阪国際児童文学振興財団理事長の講演（「聞くことのコップ」が満ちるまで」）、活動報告・事例発表各一件のほか、国立国会図書館職員によるオンライン研修が行われました。

令和四年度 公民館現任職員研修会・現地研修

八月四日（木）、久万高原町産業文化会館で開催し、公民館関係者三十六名が参加。

現地研修では、久万高原町公民館の現状や課題の報告と柳井川分館の取組事例を基に研究協議を行うとともに、久万美術館・県林業研究センターを現地視察しました。

令和四年度　公民館報コンクール審査会

八月二十五日（木）、県生涯学習センターで開催し、四名の審査委員により、第一部十九点、第二部十五点の応募の中から慎重に審査を行い、入選館報として第一部六点・第二部五点を選考しました。

各部最優秀賞は、十月二十八日（金）の県公民館研究大会で表彰するとともに、入選館報は、同大会会場の西予市宇和文化会館二階ホワイエに展示しました。

また、今後の公民館報作成に資するよう、審査委員の講評をまとめ、応募のあった全ての公民館に送付しました。

第四十四回全国公民館研究集会岡山県大会

全体会及び分科会ともにオンデマンド開催となり、十月二十一日（金）から十一月二十一日（月）の間、本県では、参加申し込みのあった百七名にＹｏｕＴｕｂｅ配信されました。

愛媛県からは、同全国集会岡山県大会に、事例発表として今治市立花カルチャーセン

ターに、助言者として、井上県公連副会長と遠藤専門委員会委員に参画いただきました。

令和四年度　愛媛県公民館研究大会

十月二十八日（金）、西予市宇和文化会館をメイン会場に、公民館関係者四百五十名が参加し、「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」をテーマに県大会を開催しました。

開会行事、表彰行事に続いて、若松県公連専門委員会委員長、井原あわ・みらい創生社代表理事、井上県公連副会長の三名による「鼎談」を行い、各種の提言・提案をいただいた後、午後には、各会場で公民館版ＳＤＧｓの「人づくり」、「地域づくり」、「学びの拠点」、「コーディネート」、「共生社会」の五つの目標達成に向けて、事例発表・研究協議を行いました。

詳細については、本号の「令和四年度愛媛県公民館研究大会」をご覧ください。

県教育文化賞・文部科学大臣表彰受賞

十一月二日（水）、文部科学省東館において、令和四年度社会教育功労者文部科学大臣表彰式が開催され、永岡文部科学大臣から元県公連会長の越智保二様に表彰状が授与されました。

また、翌十一月三日（木）、愛媛県庁本館において、令和四年度愛媛県教育文化賞授賞式が開催され、田所県教育長から元県公連会長の岸尾壽様に教育文化賞が授与されました。

令和四年度
中国・四国地区公民館連絡協議会臨時会

十一月八日（火）、岡山県生涯学習センターで開催され、「第四十五回全国公民館研究集会広島県大会開催要項（案）」について審議し、全会一致で可決されました。

第四十五回全国集会広島県大会は、令和五年十月十二日（木）・十三日（金）に、広島市の広島国際会議場で開催されます。

第三十四回全国公民館セミナー

全国公民館連合会が主催し、一月十一日（水）～十二日（金）、「公民館のミライ～未来の公民館をデザインしよう～」をテーマに、丸の内マイプラザホールで開催。

本県からは一名が参加し、県公連の「中堅公民館職員育成事業」で助成しました。

令和四年度　県公連専門委員会

令和五年一月十九日（木）、県生涯学習センターにおいて開催。

委員会では、昨年度の「答申」の進捗状況として、「公民館版ＳＤＧｓ」の普及啓発への取組みと「今後十年間で県公連が取り組むべき施策」への着手状況等について説明・意見交換するとともに、令和四年度事業実施状況及び令和五年度事業実施計画（案）等について、各種の助言をいただきました。

令和四年度　県公連第三回理事会

一月二十六日（木）午前、県生涯学習センターにおいて開催。

理事会では、「令和四年度事業実施状況報告」、「令和四年度一般会計歳入歳出決算見込み」、「令和五年度事業実施計画（案）」、「令和五年度郡市公連会費分担金（案）」、「臨時総会提出議案」等について審議し、全議案を承認しました。

令和四年度　愛媛県公民館連合会臨時総会

一月二十六日（木）午後、県生涯学習センターにおいて開催。

臨時総会では、「公民館と同等の設置目的・事業内容を定め、市町が設置・所管する施設」について、引き続き、公民館と同様、県公連の支援の対象とするよう「県公連の会則の一部改正（案）」を上程し、郡市公連代表三十四名全員の賛成により可決しました。

令和四年度 郡市公連会長・事務局長研修会

一月二十六日（木）、県公連臨時総会後に開催。

交流研修では、令和四年度県公連事業実施状況及び令和五年度事業実施計画（案）について説明し意見交換。その後、若松県公連専門委員会委員長の講話（「公民館版ＳＤＧｓのフォローアップ」）により、「公民館版ＳＤＧｓ」の更なる普及浸透に向けた意識醸成に努めました。

若松県公連専門委員長

令和四年度 公民館現任職員研修会・スキルアップ研修

二月九日（木）、県生涯学習センターで開催し、現任職員十三名が参加。

今回のスキルアップ研修は、公民館報作成の重要性に鑑み、愛媛新聞社のご協力の下、「公民館報作成の実践的講座」を実施。

見出しの付け方、レイアウトの基本を学んだうえで、フリーソフトを使用した館報作成を実践し、公民館報作成に係る技能のワンランクアップに努めました。

株式会社愛媛新聞社読者部の講師陣の皆様

佐川砥部町長表敬訪問

二月二十八日（火）、佐川砥部町長及び大江同町教育委員会教育長を表敬訪問し、「令和五年度県公民館研究大会」を開催するにあたり、佐川町長のご出席と歓迎のごあいさつを依頼するとともに、砥部町管内の公民館職員の格別のご協力をお願いしました。

令和四年度　県公連第四回理事会

三月十六日（木）、えひめ共済会館において開催。

理事会では、「令和四年度事業報告」、「令和四年度一般会計歳入歳出決算見込み」、「令和五年度基本方針及び事業計画（案）」、「令和五年度一般会計歳入歳出予算（案）」、「令和五年度郡市公連等会費分担金（案）」及び「退職金特別会計歳入歳出決算・予算（案）」等「令和五年度愛媛県公民館連合会総会」に提出する議題や「県公連諸規程の一部改正（案）」、「専門委員会委員の指名承認」、「令和五年度県公民館研究大会開催要項（案）」などについて審議し、全ての案件を承認しました。

なお、今回の専門委員会委員の指名承認により、専門委員会は、若松進一委員長、岸尾壽副委員長、越智保二委員・山田逸朗委員・遠藤敏朗委員に、近藤正典愛媛県公連事務局長・工藤チトセ西条市公連事務局長の二名が加わり七名となります。

編集後記

◎「伊予路」第一五九号をお届けします。
執筆者を始め、多くの方々にご協力いただき、心からお礼申し上げます。

◎ さて、県公連事務局長に就任し、早くも五年が経過しようとしており、執務室の窓外に広がる道後平野の季節の移ろいを眺めるのも、残り僅かとなりました。

◎ 過去に勤務した県庁では、概ね、一般職員は三年、管理職は二年又は一年で異動するのが前提で、在任中は、自らの所掌業務の遂行と設定目標の達成に全力投球したうえで、積み残した懸案事項には方向性を明確にするなど正負の財産を後任にしっかり引き継ぐのが常です。こうした中で、離島振興事業やふるさとづくり事業、地場産業振興事業やジュニアアスリート発掘育成事業など、やりがいのある多くの事業に携わることができました。

◎ 片や県庁秘書課での最長在任期間に並んだ県公連での五年間を一言でまとめると、コロナ禍に加え自らの責務や機能を果たさない一部の職員・組織があるなど些か辟易するマイナス要因はあったものの、会長はじめ役員の英明なご判断とご高配、加えて県庁市町村課・ふるさと整備課時代にお世話になった若松専門委員会委員長との奇縁の再会とご助力などに支えられ、県公連発足七十周年記念式典の開催、第四十二回全国集会愛媛県大会の中止と第四十三回全国集会愛媛県大会の開催、「公民館版ＳＤＧｓ」の組織決定と推進など、いずれも十年に一度の記録にも記憶にも残る重要な事業を、集中的に完遂できたことは、県公連の事務局長冥利に尽きるものでありました。

◎ 私は、異能・異才を持ち合わせませんが、人生訓としての決して諦めない「不東」の気概と「インテグリティ」をもってマネジメントし、更にその質を高めるため、「五省」により日々を顧みてきたことが、奏功したものと考えています。また、申すまでもなく、県公連理事者のご理解や専門委員会委員のご支援はもとより、前向きな公民館役職員や熱心な教育事務所の担当者、ディテールをサポートしてくれた県公連書記、こうした多くの方々との信頼関係のお蔭と、ありがたく思っています。

◎『人が集まることが始まりであり、人が一緒にいることで進歩があり、人が一緒に働くことで成功をもたらす』という、ヘンリー・フォードの箴言がありますが、公民館は、正に人が集まる起点となる場であり、ともに地域課題を考え・学ぶことができる場でもあり、更にはともに課題解決に向けた実践を行うための場でもあります。公民館は、こうした主体的な「学びと実践の好循環」を支える拠点であり、集まり・進歩し・成功する場としての公民館は、未来永劫これらの機能を発揮し続けなければなりません。

◎ 倭建命が、『大和は国のまほろば　たたなづく青かき　山ごもれる大和し美し（うるはし）』（古事記）と詠んでいます。今後、「公民館版ＳＤＧｓ」が県内津々浦々に浸透し、目標にチャレンジする活発な公民館活動が日常の風景として展開されれば、愛媛は真に美しきところに、更には国のまほろばにもなると、心からご期待とご祈念を申し上げ、最後の編集後記の筆を置きます。５年間ご協力賜りました多くの方々に、衷心より感謝申し上げます。

（近藤正典）

愛媛県公民館連合会機関誌

伊予路 第一五九号

発　行　愛媛県公民館連合会
松山市上野町甲六五〇
愛媛県生涯学習センター内

発行年月日　令和五年三月二十三日

印　刷　佐川印刷株式会社
☎〇八九―九二五―七四七一

公益社団法人　全国公民館連合会

2023年度（2023年5月1日午後4時～2024年5月1日午後4時）

公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会（全公連）の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された施設もご加入いただけます。

３つの補償で公民館活動をサポート

1.行事傷害補償

【災害補償保険（公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約）＋見舞金制度】

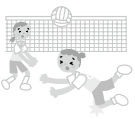
保　険

- ■公民館行事参加者のケガを補償
- ■公民館利用者のケガを補償
- ■行事往復途上のケガを補償
- ■行事の事前練習や事前準備、後片付けでのケガを補償
- ■食中毒や熱中症を補償

見舞金制度

- ●疾病や特定傷害に、疾病死亡弔慰金、疾病入院見舞金をお支払いします。
- ●特定災害による損害に、特定災害見舞金をお支払いします。

【補償例】



●バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

2.賠償責任補償

【賠償責任保険（施設所有管理者特約、昇降機特約）】

保　険

- ■公民館の施設・設備等*の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、財物を損壊したことにより、公民館が法律上の賠償責任を負担しなければならない場合に補償

※公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

＊施設にある昇降機（エレベーター、エスカレーター）の所有、使用、管理に起因する賠償責任も含みます。

【補償例】

●テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3.職員災害補償

【傷害総合保険［就業中のみの危険補償特約、入院保険金支払限度日数変更特約（支払限度日数180日）］＋見舞金制度】

保　険

- ■公民館事業や業務に携わる方の公民館業務中のケガを補償

見舞金制度

- ●公民館事業や業務に携わる方の病気や特定傷害、業務外のケガ、業務中の地震によるケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払いします。

【補償例】

●職員が業務中に脚立から転落して負傷。

公民館総合補償制度の特長

（１）補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

●全公連が運営する『見舞金制度』に『保険』を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- ■日本国内であれば行事の場所は問いません。　※別に定める危険な運動中等は対象外です。
- ■行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- ■公民館公認のサークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- ■公民館が他の団体等の行事に派遣する行事の参加者も補償します。
- ■宿泊を伴う行事も対象です。

（２）年１回の手続きで安心です。

●年１回の手続きで年間の主催、共催行事が対象になり、個別の行事の通知は不要です。うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

（３）掛金の割引制度もあります。

●同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償制度掛金に割引が適用できます。

●職員災害補償の保険料には、団体割引25%、過去の損害率による割引15%を適用しています。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては『2023年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き』をご覧ください。
また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社
損害保険ジャパン株式会社
営業開発部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-3820　FAX 03-6388-0157
（受付時間：平日9：00～17：00）

■取扱代理店（お問い合わせ・資料請求先）
エコー総合補償サービス株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9
TEL：0120-636-717（通話料無料）
FAX：0120-226-916（通話料無料）

（SJ22-11972）作成日 2022年12月27日［2212K-㊀］